

©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室

Science Council of Japan

Ueno Park, Tokyo, Japan

C071-017

Dr. Hideki YUKAWA
501. W. 121 St., New York 27,
N. Y., U. S. A.

AIR MAIL

BOX 18

BOX 18



記 事	
組委	9
1953. 3. 5.	

国際理論物理学会議組織委員会
第 9 回 会 合 記 事

日 時 : 昭和 28 年 3 月 5 日 (木) 9 時 30 分 ~ 16 時 30 分

場 所 : 日本学術会議会員控室

出席者 : 藤岡、伏見、本田、今井、茅、菊池、小林、小谷、
三村、武藤、相良、坂田、佐藤、谷、友近、朝永、
山内、吉木、鈴木、長井各委員
(事務局、吉田、山越)

議 題 : オ 1 委員長経過報告と付帯協議

1. 追加招請者
2. 予 算
3. 寄付募集
4. Landau との連絡
5. 国際会議の日程・行事

オ 2 協 議

1. 国際会議の運営
2. 各地における講演会
3. 地方からの出席旅費
4. 日本人参加者の選定
5. プログラム
6. 各外未参加者予定者との連絡

才 / 委員長経過報告と付帯決議

記	事
組委	9

1. 追加招請者

前回委員会(12月12日)以後 在京委員会にて招請を決定して処置を取ったものの次の通り。

招請月日	招請者	滞在費負担	回答	招請事情
1 12.12	John Bardeen	自弁	話	Slater 推せん
2 "	S.T. Butler	日本側	未着	Dyson の参加辞退通知状に推せんあり。あとで素粒子部会の希望で滞在費日本側負担を決定
3 "	H.S. Green	自弁	辞退	オーストラリア国内委から推せん。 旅費調達難で辞退
4 "	J. J. Hermans	自弁	未着	当人が石原 明 氏の連絡を受けて参加申込
5 1.9	H.C. Kelly	日本側	辞退	厳礼的招請 「他の機会にゆっくり訪日したい」旨の回答
6 1.22	L.I. Schiff (Stanford Univ.)	自弁	未着	参加申込あり
7 2.6	Maurice Levy (Sorbonne)	自弁	未着	参加申込あり。 「旅費は補助出来ないが、自弁で承られるならば正式招請を出す」旨藤岡委員長から回答

(2)

招請月日	招請者	滞在費負担	回答	招請事情
8 2.2	A. Pais (Princeton)	日本側	未着	湯川委員推せん (日本科学者が世話になっている返礼として)
9 "	H.W. Massey (U. of London)	日本側	未着	IUPAP 総会席上、国際会議日本側推進支持の返礼として
10 2.13	Alexandre Proca (Inst. H. Poincaré, Paris)	日本側	未着	Massey と同じ事情
11 2.2	Gregory Breit (Yale)	自弁	話	湯川委員推せん
12 "	C.H. Townes (Columbia)	自弁	未着	同上
13 "	J.O. Hirschfelder (Wisconsin)	自弁	未着	参加申込
14 2.14	Emanuel P. Bore (Deputy Chief, ONR)	日本側	未着	Kelly の推せん

内

以上の地参加申込があつて招請保留乃至考慮中のものは

- (1) William M. Conn (Kansas city, Mo, U.S.A) 当人の業績等について Slater に照会中
- (2) Charles L. Critchfield (Univ. of California) 国内素粒子関係者に照会中

以上の報告に付帯して、「もっと吾手の有能研究者を呼ぶべき

(3)

であるとの声が内外から聞えている」ことが話題になり、寄付の見通しもやや明るくなって来たので、この際各専門分科で希望追加招請者のリストを作ることにし、両部門10名ずつ位を限度として追加招請を認めることに決定。

2. 予算

大蔵省の査定予算は573万円であるが、そのうち20万円は経費に繰り入れる必要があるので残りは553万円。この他に文部省で文部教官出席旅費150万円が確保されている。予算の内容及び、実際所要の想定額の内容について、付録1の様な資料が提出された。これによると、外米参加者1人当りの経費は、宿泊費・食費・国内旅費等をかなり厳密に計算した結果滞在費持ちで1人77,000円、これに諸雑費の1人当り増加額を加えて、大体90,000円、同様自弁参加者については80,000円で諸雑費込で130,000円と出る。

(3) 寄付募集

渋沢敬三氏を通じて一万田日銀総裁に依頼してある。同総裁もこの計画に好意的な態度を示している。この他に朝日新聞社から寄付として300万円の他、毎日、読売各社から若干援助があることになっているが、毎日は更に大阪を中心とする講演会の追加を計画しており、その代償として講演謝金等の他に100万円位の寄付を申出る様子である。寄付総額1,000万を目標としている。

この他、地方における外米参加者の講義謝礼としての食費、宿泊費、旅費等の負担は收支外寄付金という形になる。

寄付募集に当っては免税の処置を取ることが先決問題とされているが、そのために募金体制として「国際理論物理学会共済協会」を設立して会長に渋沢氏を推して、免税手続を進めることに努力する方針である。

記事
組委 9

各地方でも地域的な募金をするには少しも差支えないが、領収書は中央の後援会名義のもの発行することにしたい。

4. Randau との連絡

Randau に対しては1952年8月9日付のオノ回招請状の後、10月11日付の回答催促状が他の未回答招請者に対するものと同時に出ているが、何れに対しても回答がない。他にも2度の連絡に対して未回答のものがあるが、ソ連圏内との郵便連絡が他の国々の場合よりも不確実であることに鑑みて、特に Fleury IUPAP 事務総長に対して連絡方を依頼した。これに対して、Fleury から1月27日付でその線に従って努力して見るといふ回答が来ているが、その後連絡はない。

その後、東大社会学研究所教授山之内一郎氏(学術会議会員)から、本件について、ソ連旧代表部に連絡の労を取ってもらいとの申出があったので、関係文書の写を同氏に手交した。

なお、この Randau の問題について、最近山陽新聞に多少、針小棒大な記事が掲載された事実があり、本件が余り興味本位に新聞等に報道されると、不必要に事をこぞらす懸念もあるので、各委員の本件に関する発言の自重が要望された。

5. 国際会議の日程・行事

2. 開会期日の繰上

当初は東京の registration を15日と決めたが、これと16日の京都向け出発との間が余りに時間的に窮乏なので registration を1日繰り上げて14日午前とし、その午後に文部大臣の茶会、15日午前に開会式、同日夕方に会長レセプションを入れて、16日は朝出発とする。この

記事
組委 9

他に都知事のレセプションも組み入れる必要があるが具体的な日取りは在京委員会に一任と決定。

又、会長レセプションには学士院も合流することになるが、学士院会員は物理学関連分野の人を主として招待することにしたい。

才2. 朝 議

1. 国際会議の運営

a. 開会式

これは一般を対象とする公開講演会を主体とする行事と考えるべきであるという意見が支持され、Mott, 湯川各氏に挨拶を依頼、それに続き、学生等を主な対象とする講演として代表的な外来参加者2名を依頼する。講演者の決定は後日に譲ることを了承。式場は東大安田講堂を予定しているが、その使用について、委員は東大学長の内諾を待っている。近日中に藤岡委員長が改めて正式に依頼に出る。

b. その他東京における行事

在京大学で外来参加者を囲む *Group discussion* の機会を望んでいるが、これは各参加者が帰路に何れも皆東京に立ち寄ることになるので、その機会に随時それぞれの大学に案内すればよいことが了承された。従って東京における公開学術講演は物理学会主催のものだけとする。

c. 京都における行事

登壇の休憩時間中にや、一般的な講演会を開くことが京都側から提案されていたが、これは3会場共通の部会を持つという意味、即ち参加者が互に他の会場の講演者の講演を聴く機会をねることにあるならばそれは不必要で、他会

(6)

場の講演を聴きたい参加者は適当に自分の会場の部会を休んで聴きに行けばよいということが認められた。又、非参加者を対象とする半公開講演会としてであるならば、半日本会議の午後を利用するとか、或は本会議前夜中でも講演者だけ本会議を休んでもらえばよいということが認められた。

d. その他本会議運営上の問題

(a) 予稿

外来参加者の講演予稿は1,000字程度の抄録を7月一杯に集める。日本則論文の抄録は各専門分科で最近の雑誌に発表された論文、5月の物理学会の分科会での講演その他を資料として注目すべき研究を採り上げ、総数兩部門約50ずつ位を目安として編集する。

(i) 幻灯の使用について

暑中の時節柄、暗幕を閉めることが避けたいので、京都側で *day-light screen*, 壁光スクリーン等について研究すること。

(ii) 本会議の様子の中継

これは講演・討論を非参加者のために外で聞けるように拡声器を補える案であるが、声だけ聞いても効果が落ちるなどの意見で京都側のこの提案は採り上げないことに決定。

なお、これに関連して、会議の各会場における進行状況に関する連絡を事務局でまとめて、刻々掲示することは京都側で計画する。

(iii) 本会議の用語

原則として英語を使うことに決定。

(7)



(お) 大阪における行事

本会議終了翌日の 24 日夕方には阪大のレセプションがあるが、その日の日中は外来参加者は三々五々に京都又は大阪で *Group discussion* に呼ばれることにする。阪大、京大でそれぞれ来訪を望む人々に非公式に申し入れることにする。

2. 各地に於ける講演会

物理学会各地方支部からの講演希望申請及び他の学会からの希望申入を勘案して付録 2 の案に基づいて各招請者にこれらの希望を伝えることを了承。

3. 地方からの出席旅費

委員は学術会議予算で支給される他、科研費も利用するが前出 1 の (ハ) 項の文部省予算による 150 万円は文部教官を対象とするものであるが、これを適当に教官名義で受取って特研究生、大学院学生間に区分けることを考えなければならぬ。参加延人員と照らし合わせて、1 人当りの支給基準を中央で決めることを了承。又国立学校関係以外の参加者に対しては上の基準で寄付金から支出すること。

4. 日本人参加者の送迎

各専内分科で名簿を作成すること。各会場の収容能力を考慮して中央で調整する。

5. プログラム

付録 3 のように決定。

これを各外来参加予定者、各国内委員会その関係各面に *Second Circular* として送る。

(8)

2
外

外信	8
	3:3

理論物理学国際会議に関する
外部との往復通信一束

(2月25日～3月3日)

A 着信

1. *Van Vleck* から参加通知 (2月20日付, 小谷委員あて Ch. 139)

「参加することを考えて、海軍と *National Science Foundation* に旅費について見込んだ。身内の者の健康状態の急変があれば又取り止めなければならぬが、今のところ夫人同伴でこの機会に世界一周旅行をしたいと考えている。」

これに対し、小谷委員から歓迎する旨の挨拶、講演題目照会、分子物理シンポジウムの計画等に関する運送の手紙が出た。(2月28日付)

2. *Edwards & Co.* (実験用高真空装置製造業) から国際会議会場に

おける展示会開催申込 (小谷委員あて2月5日付, Ch. 153)

展示会を開くような施設を設けるかどうかの照会。

B 発信

1. *Bloch* へ、参加を促す手紙 (2月27日付, 藤岡委員長名 Ch. 138)

(a) ノーベル賞受賞に対する敬意

(b) 参加の見通りはっきりしないことに対し、当方では昏落胆していること、特に菊池、堀田、朝永等は参加されるよう委員会が努力す

ることを要請していること。これに答えるために、何とか出席出来るよう処置が取ってもらえはいただろうか。

2. Butler へ、滞在費を日本側負担の通知 (3月3日付、藤岡委員長名、Ch. 152) (

記事
組委 9

 項目 8 参照)

「その後我々の取敢が幾分楽になったので、貴下に対しては滞在費を負担することに委員会で決定した。」

3. Slater へ、会議準備に関する連絡 (2月27日付、小谷委員長名、Ch. 134)

物性専門部会で参加の講演をプログラムに組み込むことを協議し、別紙のような日程を決定したこと。(添付資料は

組委
9

 4頁に盛り込まれている通り。)

日程にある通り、本会議中に講演を2回依頼すること。

分子物理学シンポジウムに対する計画の変更。

本会議中の講演の外に、日本物理学会、広島大から公開講演希望の申出が来ていること。講演受諾の場合は旅費の一部は当方で受け持つこと。

旅行ルートAを選択されれば旅費を差支えることになること。

来日、離日の期日を早目に通知してもらいたいこと。

参加者一覧同封。

4. Coulson へ、会議に関する連絡 (2月27日付、小谷委員長名、Ch. 135)

分子物理学シンポジウムの計画変更。

来日日程の照会、Mott と同道されるかどうか。その場合(早期に来日の場合)講演を受諾すれば滞日延長期間の滞在費の一部を受け持つ。

記事
組委 9

6. 各外未参加予定者との連絡

上のプログラムを送る他、次のものを同封する。

(1) 申込用紙 (付録 4-1, 4-2)

来日、帰国の予定期日、同伴者、地方旅行の希望コース等を記入して返送するためのもので、付録 4 の通り。自弁招請者に対しては以上の他ホテルに関する希望を照会している。(付録 4-2)

(2) 添手紙 (付録 5)

プログラムを送る口上と申込用紙記入・返送の依頼。為替制限などに関する注意も加えてある。

(3) 講演依頼状 (付録 6-1, 6-2)

本会議中の講演を予定している外未参加者に対しては次の依頼状を同封。

(a) 物性部門参加者 (付録 6-1)

講演題目が大体既に解っているのでプログラムに織り込んであり、その了解を求める。

挨拶と、用語を英語にしてもらいたいという希望。講演予稿に関する依頼等を盛り込んである。

(i) 素粒子 (付録 6-2)

この部門では会議の席上なるべく最新の資料が発表されることが望ましいので講演題目は6月30日を締切とし、又/会場制のためプログラムが窮屈なため、申込まれた講演が全部本会議の部会に組み入れられることが保証し兼ねるので予めその旨の断り書を入れた。英語の使用・予稿専に関する希望は物性部門と同文。

付録 1.

国際理論物理学会議経費

28. 3. 5.

事 項	所要額	国庫支出	差引不足	備 考
(1) 外国人招請旅費	4000	2349	1651	招請学首 $77 \times 40人 = 3080$ 執行委員 $65 \times 5人 = 325$ 自己負担参加 $8 \times 25人 = 200$ (サービス料・観光) 雑費 (日本人・スカイド 773-列車券-1等) 395 <hr/> 4000
(2) 準備委員会旅費	1500	368	1132	租成委(3回) 236 物性(3回) 330 在京委(30回) 300 委員外 147 京郵連絡 150 乗粒子(3回) 290 接待出板 170 委員外 147 <hr/> 1500
(3) 物産・通信・印刷費	400	400	0	予備 180 その他 220 少し不足?
(4) 会議報告印刷	1000	753	247	
(5) 人 件 費	500	153	347	備託手当 $25 \times 9 = 225$ 京郵謝金 60 アルバイト賃金反謝金 115 <hr/> 500
(6) 自動車 及 器具燃料	150	150	0	
(7) 会議費・交際費	1050	500	550	会長 Reception $25 \times 150人 = 375$ 物理学会 $175 \times 100 = 175$ 京都会場 $50 \times 5日 = 250$ その他会議費 300 <hr/> 1050
(8) 予備その他	500	75	425	国費 75 は職員旅費
(9) 国際会議出席旅費 (日本人)	1500	786	714	日光同行 $2.5 \times 10人 = 25$ 東京—京都 $8.5 \times 20人 = 170$ 京都—東京 $5.83 \times 30人 = 175$ 京都滞在 $9 \times 50人 = 450$ 東京集合 $8 \times 15人 = 120$ Tower 同行 $28 \times 20人 = 560$ <hr/> 1500
	10.600	5534	5066	

記事	
在京	13
3.26	

国際理論物理学会議組織委員会

在京委員会日程

日時：昭和28年3月24日 午後5時～夕時30分

場所：日本学術会議会員控室

出席者：藤岡、小谷、武藤、谷、朝永

(事務局 竹下、吉田、肥後、山越)

- 議題：
1. 電気学会主催講演会について
 2. 藤岡委員長報告 (寄付募集)
 3. 京都委員会との連絡 (小谷委員報告及び協議)
 4. 外部との往復通信に関する報告及び関連事項の協議。
 - あ) *Critchfield* の招請
 - い) *Watersuan* の滞在費
 - う) *De Beer*, *Heitzler* の往復旅費
 5. 専門事務取として宮次二郎委員及事務補佐。
(タイピスト争議の件)

国際理論物理学会議組織委員会

在京委員会日程

日 期 昭和34年3月26日

1) 電気学会主催講演会について (

記	事
在	京

 2頁、項目7の項、

外	活
10	

 の頁項目日のを参照)

同学会から田野清司氏の出席があり、藤岡委員長から Bohr, Slater, Bogorth 3氏のうち Bohr は講演の先約で日程が決まっているから到底実現の見込みない旨説明があつて Slater については組織委員会側で更に検討することになり、Bogorth は希望を先方に伝えることを了承。

なお、詳細は同学会古賀逸策・山田直平両氏と連絡を取ることにより決定。

2) 藤岡委員長報告(寄附募集) (

記	事
在	京

 2頁、項目7参照)

寄附金免税申請書類を大蔵省船山次官に提出したが、係官税制才一課長不在のため結論を得ず、為替管理法に抵触する恐れがある点と、金額が三十万円未満の点が疑問として残る。

(小谷委員質問) に対し委員長回答

徴収金が成立された以上、世話人代表が免税の申請すること、なる。財界人々名、新聞社長3名、物理関係5名で化学関係は除く、滝沢氏は財界人集合の機会を利用して募金して呉れる見込みだがはっきりした暗黙の見通は立っていない。

国会解散により財界に対する政治献金の圧迫が加わるので寄附募集に対しては悪材料である。

3) 京都委員会との連絡(小谷委員報告及び協議) 3月25日の会議に小谷、山内両委員が出席

京都の会計課長より、東京、京都両委員会間の事務分担の明確化を提案。例えば ① 職章制定 ② ホテルの選定・予約 ③ 奈良観光 ④ 会場等の件につき、事務重複又は重複除去の必要。

記	事
在	京

 1/3

これに対し、(一) 京都に於ける接待及会場に関する件は京都側に委嘱する。(二) その他の件は事柄の具体的な内容に従って相談の要ある点は事前に連絡するか、又は事務遂行後その結果の報告を求めるとの方針を決定。細部はその都度協議して決定する。

- ① ホテル予定としては ① 京都ホテル ② 都ホテル、それに最近進駐車より返還の ③ 浴友会館(オ三会場として予定、改修後、右手の参加者用に使用) ④ 日本旅館・個人住宅の使用の件は、参加者の希望を訊く必要があるが、これは個人的な連絡によるべきであることを了承
- ② 個人的接待費は、半公式は発表して希望者を募って行くようなまとまったものは事務局より出すこと。
- ③ 観光を本会議に併行しても挙行する件。(ホテル内に掲示して参加者をつくる) —— 荒木氏提案。
- ④ 京都府市では接待用に20万円準備外、外人向バス、通訳案内者を提供。土産品(

①

 地図、写真帖、扇子、印刷物等)。商工会議所の方は未だ訪問せず。
- ⑤ 古美術、古蹟等の幻灯付解説会は、7月18日夜、学長のリセプション後に行う。
- ⑥ 会場：椅子の修繕、カーテン、其他。
- ⑦ 会場収容力は人文科学研究所/200名、浴友会館/100名
- ⑧ 見学、観光に参加の日本人より料金を徴集するかどうか、バス同乗者数が京都で問題になった。後者については一応外人/人に対し日本人/人の見当るバス3台位と踏む。
- ⑨ Edwards Co. 展示会の件 (

外	信
8	

 /頁、A の2参照) 適当な会場を提供することに決定。日本の諸会社(島津、東芝等)等にも案内を出して、この際場所代を取るとすればどの程度に取るか、京都で問題になった。
- ⑩ 会議の時の食堂：オ三会場(湯川記念館2階を食堂とし、

地下食堂(利用)オズ会場(人文科学)オウ会場(浴反会館)
には食堂あり、ノタ日(土)昼の食事はオ会場合同の午餐
(婦人も同席)にして後 excursion に出る。ヌヌ日(水)
の午後は garden Party の予定であるが、この時も一緒に
食事。

⑩ 次回京都委員会は4月15日の予定。

5) 外部との往復通信に関する報告及び関連事項の協議 (外信11)
及 外信12 の一部)

(あ) Critchfield の招請: (外信17 Aの5参照) 滞在費な
しで招請に決定。

(い) Waterman の滞在費 (外信11 Aの1参照) 滞在費をモ
ツことに決定。

(う) De Baer Heitler の往復旅費 (外信12 外信11 A
の2参照)

写を Flemy に送ることに決定。

6) 専門事務取として宮沢二郎委員の委嘱及事務補佐(タイピス
ト)委嘱の件。

宮沢委員は3月ヌヌ日より発令。タイピストは事務局に依頼

外信	11
3. 24	

理論物理学国際会議
に関する外部との往
復通信一束

(3月18日 - 3月24日)

A. 着信

1. Waterman から招請応諾 (会長あて, 3.17付 h. 223)
(

在京	1
----	---

 4頁, 項目8の(3) 参照)
2. Heitler から旅費について (藤岡委員長あて, 3.13付 Ch. 229)
(既配布

63

 関連)

「前便で連絡した通り自分の大学から旅費が出ないから、補助金を受け
ける見通について至急知らせてもらいたい。」

これは3月16日発の旅費補助金配分に関する連絡(

外信	10
----	----

5頁, 項目8の1) と行違になったものである。

B. 発信

1. 執行委員会あて招請状 (会長名, 3.20付 Ch. 177)
(

在京	11
----	----

 3頁, 項目4の(え) 参照)

Amaldi, Borelius, Heyrowsky, Huber, Krishnan,
Aliphant 各執行委員あて発送。本会議プログラム、申込用紙
も同封。

2. 各参加予定者あて *Second Circular* (藤岡委員長名 3.19 付 Ch. 217)

組委 9 付録 3~6 の通りのものを発送。
 発送の組合は次の通り

送付物内容 送付先	参加予定者名送 プログラム	申込用紙 1	申込用紙 2	申請用紙 送付口上書 1	申請用紙 送付口上書 2	講演依頼状 1	講演依頼状 2	執行委員会招請状
自費参加者	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			
滞在費持 (講演依頼せず)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>				
同講演依頼予定者 (物性部門)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
同上 (素粒子部門)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	
執行委員会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>

3. 招請状

(a) *Urban* あて (会長名 3.19 付 Ch. 204)
 (在京 11 2 頁 項目 3 の (イ) 参照)

藤岡委員長の添手紙を同封

(ウ) *Gruner* あて (会長名 3.20 付 Ch. 207)
 (在京 11 2 頁 項目 3 の (a) 参照)

(3) *Salecker* あて (会長名 3.20 付 Ch. 207)
 (在京 12 項目 参照)

外信 11

4. *Conn* へ招請を断る手紙 (藤岡委員長名 3.19 付 Ch. 184)
 (在京 11 3 頁 項目 4 の (お) 参照)

「我々の会議は *Solid State Physics, Statistical mechanics, field theory* 等に関連した問題について現に研究に従事している人達が集って討論をする小さな *Colloquium* の性格のものである」

外信	12
	4, 1

理論物理学国際会議に関する外部との往復通信一束
(3月25日 — 4月1日)

A 着信

(Ch. 234) Schiff から招請に対する応諾通知 (会長あて
3, 16 付 — 外信 3 B の 1 に対する応信)

(Ch. 235) De Baer から旅費自己調達見込額通知 (藤岡委員
長あて 3, 18 付 — 外信 5 B の 5 に関連)
「アムステルダム大学から約 \$200 の支給が決った。
オランダの水害等の事情でこれ以上増額を要求すること
は無理と思われるので、残額については面倒を見ていた
だきたい。」
この手紙に対し 4, 2 付で手紙受領の挨拶を出す。

(Ch. 247) Gorter から旅費自己調達の見通について (藤岡委
員長あて 3, 27 付 — 外信 10 B の 2 に対する返信)
「旅費の半額補助のお申出に接し、残額について、自国
の文部省に申請を出しているが、同省では、De Baer
に対して既に旅費の一部支給が決定しているので、うほ
く行くかどうかわからない。」
これに対し、4, 2 付で、本件については Fleury とに
よく連絡を取る旨挨拶。

(Ch. 183) Slater から来日について連絡 (小谷委員あて 3, 5
付 — 外信 8 B の 3 に対する返信)
「本会議中の講演、物理学会主催講演、分子物理学討議

会、何れも喜んで引き受ける。推められるAコースの地方旅行にも参加したい。新学年は7月21日に始まるので必要以上に長く滞日は出来なしかどうせ学年始めには間に合わないから色々な行事や見学は一通り済ませたい。滞日日程について助言を請う。」

(Ch. 240) Carlson から来日について連絡 (小谷委員あて
3.10 付 — 外信 18 Bの4に対する返信)

「自分の都合は本国出発 9月7日以後、10月初旬中に帰国しなければならなし。又もし本会議前又は後に幾分くだけに講演を自分に望む大学があるならば、喜んで希望に応ずる。なお旅行日程については Matt とよく相談する。」

(滞日日程通知)

記事
組委 9 付録4-1による申込

Kirkwood

到着 9月13日羽田へ (米国軍用機)
出発 9月22日羽田から (全 便)

B 発信

(Ch. 229) Heitler へ旅費補助について (藤岡委員長名あて
付 — 外信 11 Aの1に対する回答)

「当方手紙 (外信 11 Bの2) と行違いになった。貴下の件については F. Leury とよく連絡を取るが、もしどうしても残額の調達が無理ならば、全額補助するよう努力する。」

外信	13
4.7	

理論物理学国際会議に関する
外部との往復通信一束 (4月2日~4月7日)

Ch 169 (小谷 → Edwards & Co)

実験室設備用器械展示会開催について (外信 8 Aの2の
回答)

「京都大学当局としては申出を受け入れる用意がある由である。
展示予定の器械の種類・数・大きさ等について知らせてもらいた
い。但し本国際会議は理論物理学者の会議であることを判断す
る。尤も京都大学自体は理学部・工学部を有する総合大学である」

Ch 183 (小谷 → Slater 4.3付)

来日日程に関する連絡 (外信 9 Aの1及び 外信 14)

Ch 183の返信)

1. 物理学会主催講演会に関する依頼 9月10日を提案
2. 開会式 (9月15日) の挨拶依頼 (在外 14 5の(あ)参照)
3. Behr が参加不能になったこと。(后出 Ch 263 参照)
4. 電気学会の講演依頼 (外信 10 Aの9参照)
10月5日を提案
5. 滞日期間
9月8日又は9日 — 10月5日6日を提案。

Ch 267 (Matt ↔ 小谷)

1. 来信 3.13付 (外信 6 Bの3の返信)
(あ) 「9月10日頃来日の予定
(い) 物理学会主催講演会の期日について照会。
(う) 地方旅行は余り長途のものは疲れるから御提案の大和めぐ
り位が丁度よいかと思う。」

外信 13
4.7

2. 発信 4.3付

(あ) 地方旅行として次のものを提案

- 9月 6日又は7日 羽田着 (コメット機候)
- 10日 物理学会主催講演会
- 11日 日光針議会
- 12~13日 日光見物
- 14日 執行委員会
- 15日 開会式、執行委員会
- 16日~24日 本会議
- 25日 阪大において講演会
- 26日 (大阪 - 奈良)
- 27日 (奈良 - 名古屋) 大和めぐりコース
- 28日 名古屋
- 29日 名古屋 - 東京
- 30日 東京 - 仙台
- 10月1日 仙台
- 2日 仙台 - 東京
- 3日 東京
- 4日又は7日 羽田発

「大和めぐりをやめて北日本のコースを選ばれてもよいが、この長途の旅はおすゝめ出来ないという意見の人が多い。」

(い) 開会式挨拶依頼。

ch 268 Néel → 藤岡 (2.25付)

旅費に関する連絡及び講演題目通知 (外信 10 Bの2 関連)

1. 旅費について

IUPAPからの1000ドルに対する不足額は Fleury の世話で調達出来た。

2. 本会議中の講演題目について

Ferrimagnetism ということになっているが、この問題は既に古いから、是非といわれるならば、この問題に関する討議の出発点として役立つような一般的な話をしてもよい。或は自分としては "Magnetic fluctuation after-effect" という議題にしたいといってもよい。

ch 272 小谷 → Wheeler (4.4付)

物理学会講演会依頼

9月10日を提案。

ch 273 Ferretti Møller → 藤岡

旅費に関する連絡 (外信 10 Bの2 に対する返信)

1. Ferretti (3.31付)

イタリア学術研究会議から旅費の援助を受けた。

2. Møller (3.30付)

680ドルの補金を TUPAP からもらうことにしていたので出席出来る。

ch 274 Matt → 藤岡 (4.1付)

来日について連絡 (外信 11 Bの2 関連)

1. 地方旅行及び日本到着期日について照会

(これに対する回答は行き違しに出た前出 ch. 267 を解決済み)。

2. 持参すべき服装について照会。

取扱注意

在京	14
1959.4.2	

国際理論物理学会議組織委員会 在京委員会 (第14回) 会合記事

日時：昭和28年4月2日 午後5時〜7時30分

場所：日本学術会議会員控室

出席者：藤岡、茅、小谷、佐藤、山内、宮沢谷委員
(事務局、吉田、山越)

- 議題：
1. 岩波書店との交渉
 2. 大蔵省、東京都市、交通公社との交渉
 3. 寄付金募集について
 4. 外部との往復通信に関する報告及び関連事項の協議
 5. 国際会議の運営について

※この資料には寄付金募集、大蔵省との交渉、経過等、早期に委員
外に広く知れると非常に不都合な事項が含まれておりますから、
この記事の内容について外部への御発表は、この時期等について
十分慎重にお願いたします。

1. 岩波書店との交渉 (藤岡委員長)

「同書店富山氏及牧野氏からの連絡で、同書店では「科学」誌
の特集号を出したい意向の由で、ついでに外来科学者の寄稿を
求めたいとのこと。希望依頼先及び寄稿題目を提示された。」
上の計画に対して組織委員会としてはこれを認めることとし、
それに伴う寄付要請の問題は、余り大金は期待すべきでないが
機会を見て同書店の責任者と交渉することに決定。

又依頼先及び題目について検討の結果、多少不適当な点もあ

在来14

るので、この点も交渉すること。

先方への依頼状は岩波に書かせ、それに藤岡委員長の手紙をつける。

又特集号の発行は国際会議より前では新聞社等との関係もあつて不都合な点もあるから、新聞寄稿のあとにすべきことも認められた。

又この種の計画について「科学」だけは雑誌の特異性から、これを特別に認めるものであるという態度を確認した。

2. 大蔵省・東京都庁・交通公社との交渉 (宮沢幹事)

(a) 大蔵省

「免税のことについて主税局主税第一課長に会った。免税に関する申請書類は受理済の由。1000万円程度の寄付に免税を認めることを当局としては多少同感視しているが、その点も口数少なくて寄付の単位金額が比較的高額である点が、認められているようである。

(b) 兼束都庁

山田外務室長と面会。国際会議の時期には知事も山田氏も日米太平洋市長会議のため渡米中になるので、副知事が出ることになるが、晩さん会は引き受け難く、お茶の会位にしたい意向。

外人向観光バスの借用については3台位用意する旨了解。

(c) 交通公社

Heisenberg, Rabi, Bohr 等の夫人の切符は交通公社で世話する由。

Guide Book は最近各参加予定者に発送した由。

京都大学との連絡については京都支社の係か京大庶務課と連絡を取るよう指示した由。同様関係大学所在地の支社からそれぞれ大学当局に連絡することを吉本委員に依頼することを決定。

(d) 京都委員会との連絡

事務分担 (記事 在来13 項目3参照) については藤岡委員長の

京都連絡出張の際に一度宮沢幹事が同行して京都側と打合せること決定

3. 寄付金募集について

銀行関係等は藤沢氏からの話がかゝるのを併つとして、その他の縁故関係の寄付金はこれと無関係に各個にやることになるが、そのための趣意書を藤岡委員長が起草することを了承。

読売新聞に Rabi から応諾の通知があつた旨連絡のため、120万円 (3回払) を出すことを了承した。(藤岡委員長報告 - 記事 在来13 項目参照)

4. 外部との往復通信に関する報告及び関連事項の協議

外信 12 及び 外信 13 の一部について事務局から報告

(a) Edwards & Co. の展示会について (外信 8 A の2)

京都側では受入れる用意があること。(在来 13 項目3) の①) が明かになったので先方に対し、展示する機械の種類、大きさ、個数・所要会場面積等について照会することに決定。

(b) Mott に対する日程の連絡

依頼する講演は田舎の辞(后出)の他、東京(物理学会)・大阪・仙台の希望を伝える。

コースとしては、大阪では24日を講演に当て、引き続き大和めぐりのコースに加わってもらい、これを名古屋で打切つて仙台まで行く特別コースを考えてもらい、Coulson も同行するようすすめる。

(c) 地方旅行予定地の実地見分を適当な機会に行う必要が認められた。

5. 国際会議の運営について

(a) 開会式

これに挨拶を依頼すべき人達について協議の結果次の案を決定。

挨拶 { Matt (IUPAP 会長として)
Slater (IUPAP 副会長として)
Anger (UNESCO 代表として)
湯川 (国際会議総裁として)
龜山 (学術会議会長として)
藤岡 (組織委員長として)

学術講演 { Heisenberg

よみこの日(15日)の昼食は東大構内で塔ますことに手配することを了承。(費用は組織委員会で負担してもよい。)

(い) 高分子学会から静岡に Flory, Kirkwood を呼ぶ計画について

東京—京都旅程の途次、16日の熱海泊の折に、この2名だけ静岡まで日程を延長してもらい、16日夕方と17日午前を利用して座談会と講演会を催す計画。これについて高分子学会から旅費の負担、謝礼等について照会があったが、一度代表者を在京委員会に招いて詳細を打合せることに決定。

外信	14
4.14	

理論物理学国際会議に関する

外部との往復通信一束

(4月8日 — 4月14日)

Ch. 219 藤岡 → Matt Slater Fleury (3月26日付)

若手研究者の招請について了解を求める手紙 (在京125
の(あ)参照)

1. Second circular を発送した報告
2. もっと若手の研究者を国際会議に参加させるようにと
いふ声内外から届いているが、誰を呼ぶかについて
専門部会の意向は別紙の通りである。

(在京12 付録1参照)

これらの人々については往復旅費、滞日経費の補助な
して招請しようと思ふ。御意見を請う。

3. 招請状発送先 (3月26日現在) 同封。

Ch. 239 会長 → Critchfield (3月30日付)

招請状 (懇特待) (在京13 5) の(あ)参照)

Ch. 240 Caulson → 小谷 (3月10日付) 外信5 ch135

に対する返事。

来信：来日について連絡 (外信12)

回答 (4月6日付)

- ① 本会議及日光会場における講演の割り通知 (9.18の
分科会で *New theory of metallic bonds*, 日光で、
theory of large molecules, について)
- ② 日本化学会からの講演希望伝達 (9.14)
- ③ 滞日日程案 (Mattと同様のもの)

Ch 248 藤岡 → Fleury (4月3日付発送)

Heitler, de Boer Gorter の旅費について連絡

これらの人からの手紙 (Ch. 229, 235, 247.) を同封。
de Boer, Gorter については必要に応じて増額を要請。

Ch 261 Fröhlich → 藤岡 (3月27日付)

旅費補助について

「往復旅費の自己調達の見込については、全額は困難である。どの位出来るかは、五月中旬にならないとわからない。」

回答 (4月4日付発送)

「全額の調達不能と言われるが、それは前便 (Ch 543) を通知した半額以外にまだ必要と云う意味か。」

(この来信は、Ch 543 と行違いで半額補助に関する連絡が届く前に出したものであった事が後に判った。

Ch 300 参照)

Ch 266 藤岡 → Matt (4月6日付発信)

Massey の旅費について

「日本に於ける滞在費、交通費は当方持ちであることを述べて送った招請状に答えて Prof. Massey から旅費を調達出来ぬ旨の返事を受け取った。

去る IUPAP 総会で、日本で会議を開く事が討議されたとき特に熱心に賛成された事を御記憶でしょうか。

我々はこの点 Prof. Massey を有難く思っている。それで我々は Prof. Massey に参加出来る様に旅費を補助したいと思ひ、予備金 1,310 ドルから出すことの適否について貴下に御意見を御伺いする。」

Ch 287 藤岡 → Townes (4月9日付発信)

滞在費を日本側で負担することになった旨の通知。

(2)

Ch 273 Ferretti への返事 (4月16日付) (外信14)

Ch 273 に対するもの)

「全額イタリヤ側で調達出来た由、誠に結構である。」
「以後若手の研究者を若干呼べることになった。」

Mpeller への返事 (4月16日付) (外信13)

Ch 273 に対するもの)

「補助によって来日が可能になって結構である。」

Ch 289 Fleury → 藤岡 (4月3日付) (前出 Ch 219 に対する回答)

旅費配分について

「若手研究者を呼ぶことは望ましいと思うから、Matt が、5月初めに、パリに来る機会にこの事について話合うつもりである。

この種の参加者は自費で来ることは望めないから補助金の残額とにらみ合せて考える必要がある。

Ferretti は全額自費負担で来られる。

Neel, Perrin は残額調達をフランス側で行い得る。従つて補助金の予備金残額を計算し直す。

当初 (3月6日手紙通り) 残額	1,310 ドル
Neel の分	+ 300 ドル
Ferretti の分	+ 1,240 ドル
de Boer の分	+ 200 ドル
<hr/>	
	3,050 ドル

Ch 290 Fleury → 龜山 (4月5日付)

理論物理学国際会議執行委員会招請承諾 (外信11) Bの1に
対する返信)

Ch 292 Coulson ← 藤岡 (4月2日付)

旅費について (外信10) Bの2 (Ch 53-1) に対する返信)

(3)

「1,000ドル支給通知了承挨拶。「自己調達分について、
他にも申込であるが見込は余りない。」

返事(4月16日発信)

「手紙見た。結構である。他の財源からも調達出来たら知
らせて欲しい。」

Ch 296 Matt → 藤岡(4月23日付)

若手科学者参加について(回答)(前出 Ch 219 に対す
るもの — Ch 289 関連)

- ① 若手の人選では滞日費用に当てる日本円貨を取得する
許可が(少くとも英国の場合)得られ難いと考え、
往復旅費の方は何とかなるかも知れない。従って招請
状を出すに当って、滞日経費のことも考えてやる必要
がある。
- ② 自分の地方旅行に対する希望については既に通知した
が、それに参加するとして、どの位の円貨を用意した
らよいか知らせて貰いたい。

Ch 300 Fröhlich → 藤岡(4月6日付) (外信1,0 Bの2
Ch 543 に対する返信)

(同秘書 → 藤岡 4月8日付) (前出 Ch 261 に対
する一応の挨拶)

旅費について

(543 に対する返事)

- ① 旅費の自己調達分については、5月中頃にならな
いと判らない。
- ② (秘書より) Fröhlich は今渡米中で手紙(543、
Ch 261)は回送したが、返事は遅れるかも知れない。

在京	15
1953.4.9	

取扱注意※

国際理論物理学会議組織委員会 在京委員会(才15回)会合記事

日 時 : 昭和28年4月9日 午後5時~8時
場 所 : 日本学術会議会員控室
出席者 : 藤岡、小谷、武藤、谷、朝永、山内、伏見、長谷川、
今井、菊池、小林、友近、有山、広根、宮沢各委員
(事務局、竹下、吉田)

議 題 : 1. 委員長報告
2. 外未参加者の地方講演の割振りについて

※ この資料には寄付金募集、大蔵省との交渉経過、新聞社の計画等
早期に委員外に広く知れると非常に不都合な事項が含まれており
ますから、この記事の内容について外部への御発表は、この時期
等について十分慎重にお願いします。

一) 委員長報告

(1) 寄付金の免税について「大蔵次官に会ったが、省の方針とし
ては認可が決定しているということを知った、各地方でも
それぞれ寄付金を集めることになるが、集った金は、ヒモ付
きとして一応中央で受取る形式を取り、領収証、礼状を出す
ことにしたい。」

(2) 新聞社との交渉；「毎日が Bohr の講演会を予定していたと
ころ、Bohr 不参加の報に依り、代りの人を考慮中である
が、IUPAP会長の資格で、Matt を、又 UNESCO の自然
科学部長として、学術を通じての国際協力と云う観点から、
Auger の二本立てでどうかと勧めているところである。
Matt 夫人を招待することにして、毎日から更に20万~30

専門的な話を希望している。

Matt Neel が1位で、2位に挙げた Marshak 以下は1位の人か不可能な場合に呼びたいと考えたものである。

(イ) 前回の在京委員会で議題になった交通公社と各大学との連絡当争者を次のように委嘱することを了承。

- ① 札幌大学 (古市二郎教授)
- ② 東北大学 (広根徳太郎教授)
- ③ 名古屋大学 (有山兼存教授)
- ④ 大阪大学 (伏見康治教授)
- ⑤ 広島大学 (藤原武夫教授)
- ⑥ 九州大学 (細崎篤義教授)

以上のうち必要のところには予め連絡の上交通公社吉本委員を通じて同社各支店からそれぞれ連絡に出向くことを依頼する。

(ロ) 開会式の当日の昼食を(茅委員14回在京委員会発言)

東大でとることにつき、組織委員会側から補助することを了承。(藤岡委員長)

東京都庁の方は、都知事が国際会議の前後海外出張のため不在で、tea-party 位にしたい意向であるから(在京委14回参照)経田連と東京都での合同招宴とするのが通宜と考える。この案にそって計画する事を了承。(藤岡委員長)

(ハ) 朝永委員より発言。「日光において、外人科学者の来日の機会を利用して、本会議で論議される素粒子の問題と少しかけ離れた、素粒子関係者に興味薄い宇宙線関係の専門討議会を開催したい。本会議の内容から離れるが個人的に話し合うよう、外来参加者3~4人(Amaldi, Vallarta等)に呼びかけ、それに日本人参加者40~50人位が加わる計画。朝永委員から連絡を取る。」

この討議会は分子物理学塑性関係の討論会と平行に行つては如何との意見(谷委員)が出て、会場さえ都合がつけばそれでいいから7月11日(金)の午後と7月12日(土)の午

在京145

前に開催することとし、朝永委員がその案にそって話を進めることを了承。

(ト) 往復旅費補助金は Bahr の不参加、Ferretti の全額自己調達等移動のあった結果、Massey の旅費を全額新たに計上しても5,000ドル位余ることになるので、まだ二人位招請出来るから追加の若い人の中より選ぶことを了承。

(チ) 小谷委員より、「大学研究所の案内」と Third circular を出す必要がある事について発言、小冊子を写真版の多少本格的のものにして、滞日中参考書として役に立つような体裁にしてはと提案。又 Second circular のミスプリントその他の訂正を回報することに対しては、Second circular に対する懇会の頻度に照らして決めることを了承。京都委員より記念撮影の提案があり、東京で開会式(dinner の時)と京都、及各会場でグループ毎に撮影する事を了承。又写真集を作つて希望者が申込注文を受ける方法も提案された。

(ニ) バツザについては一般参加章と世話人章(組織委員用)の二種類とする。

(リ) 開会式の記念学術講演は Heisenberg と Rabi の両氏に依頼する事を了承。

(フ) 国際会議記念切手の発行を申請する案が京都委より出たとの発言があつたが、それに対する委員会の空気は余り積極的でなかつた。

取扱注意*

在京	16
1953. 4. 16	

国際理論物理学会議組織委員会
在京委員会（才16回）会合記事

日時：昭和28年4月16日 午後5時～7時半

場所：日本学術会議才ニ会議室

出席者：藤岡，小谷，武藤，谷，朝永，山内，赤松（日本化学会
庶務幹事）（事務局：竹下，吉田，山越）

- 議題：
1. 日本化学会より講演者3名依頼の件
 2. 委員長報告
 3. 外部との往復通信報告及協議
 4. 追加招請者手科学者選抜の件
 5. 次回会合の期日

この資料には寄付金募集、新聞社の計画等早期に委員外に
広く知れると非常に不都合な事項が含まれておりますから
この記事の内容について外部への御発表は、この時期等
について十分慎重にお願いします。

在京 16

① 日本化学会から講演者3名依頼の件

国際会議に際し来朝する科学者中、*Mulliken, Flory, Culson* 三氏に日本化学会として講演を依頼することになっていたが、詳細の打合せのため同会から赤松秀雄氏(東大化学教室)が出席、協議の結果、日本化学会の講演期日はオノ案として9月14日を一応予定して置き、本組織委員会の承認を得て、爾後は日本化学会より上記三科学者と直接連絡をとることとした。講演の題目は本委員会に既に連絡済みであるが、更に、本人に手紙を出して、了解を求めたことを了承。その際、三人が同一講演会で講演するよりも、*Mulliken, Culson* は東京、*Flory* は高分子関係者の多い関西で講演して貰うことも考えられる。

Flory については、大津の東洋レーヨン株式会社研究所長の種村功太郎氏より小谷委員あて *Flory* に来社講演の依頼状(4月10日付)(Ch. 316)が来ているので、化学会と連合して講演会を開くよう日本化学会から東洋レーヨンに連絡することを了承。その他、赤松氏より謝礼の額、形式及び滞在費の負担等について意向があったが、大体、物理学会並みでよからうとの意見が(山内委員)が出て、記念品と食事位を化学会の方で心配することとし、旅費、滞在費は考えないでよいことを了承。

② 委員長報告

(1) 新聞社関係:

朝日の編集局長信夫韓一郎氏と会い、半分もらう約束の寄附金の金額300万円を一時に渡されたので、会計係として之を受領の上、早速、領收証と共に礼状を出して置いた。

同社学芸部の奥田氏は「名古屋へ手をつけてなかったのは中部日本新聞が何か企画しているからと思っただけであるが未だ中日として何も考えていなく *Weissenberg* の講演会が、果敢市(在京 15) (二)の(ハ)参照)主催であって、新聞社で

(2)

はないのなう。或は有山氏と連絡して何か計画する事も考えられる」と云っていた。

毎日は *Bohr* の代りに *Mott* と *Auger* の講演とする事を了承し、*Mott* 夫人の旅費を出すことを約束し、そのためあとまだ50万円出してくれる由である。

共同から(在京 15)ス頁参照)同社も出来るだけの事をしたいとの申し入れだったので、小谷委員と二人で、共同通信社の学芸部長、社会部長、学芸部員2名と会見した。共同は、朝日、毎日、読売三社を除く各新聞社にニュースを流す従来の通信社として外国及びNHKにも記事を送っている。外人参加者4人位からメッセージをもらう座談会を開催したい」と云うのが希望であった。謝金、食事等は出すことが出来るとの事であった。当方としては会議後の地方旅行に関連して、同社として広島や九州等の新聞社と連絡して講演会などを計画し、間接に国際会議に対する経済的援助をしてもらえないかと話したが具体的には何も決まらなかった。

(四) 寄附金の件:

茨沢氏が今週火曜(14日)帰京したので報告した。その際寄附金由込書の印刷物100部を届けてほしいとの事、尚財界人としては選挙が済む迄は到底だめであるとの返事であった。選挙が済み次第、大いに募金に努力する事を了承。

世話人の一人、原氏は、連名する事に消極であったが、これに対し茨沢氏から原氏に電話してもらい、藤岡委員長が近く面会の上、改めて懇請することになった。

④ 追加招請者手講員者選抜の件

(1) 利用可能の補助金残額(巻末 付録 1 参照)

Flory の指示に従って *Wheeler* の分として原留してあった650等は、例え *Wheeler* の旅費がアメリカで調達できな

(3)

い善がないと考えても *Frölich* が割り当てられた半額補助で間に合うかどうか、雅英には5月にばらばいとわからない（外信 Ⅲ Ch 300）というから、*Frölich* の分として続けて保留する方が確かであるので、今安心して流用出来る額はやはり2470#である。

Weisenberg は南米に廻るが一応、ドイツ・日本間の往復旅費金額をもつ番としてその旨際岡委員長から *Weisenberg* に連絡することを了承。

(2) 追加招請希望の順位（巻末 付録 Ⅱ 参照）

Yang (アメリカ)・*Köwdin* (スウェーデン) を1/1 順位とすることに一致。

招請手続としては、リストの中 *Uhlenbeck*, *Powell*, *Lévy* (既に非公式に招請) の3人を除く、19人に招請状を出す。

この中 *Köwdin* に対しては旅費補助について明記し、残り18人（*Yang* を含む）に対しては補助なしの招請とする。

Slater に対し「アメリカ関係追加招請希望者の中、*Yang*, *Pais* に対する希望が最も強いが、この2人の旅費は米国側で出せないかどうか。もし全額出ない場合は、或る程度 UNE SCO 補助金から援助すれば何とかなるかどうか」裏面から向合せること。

次回在京委員会期日

学術会議総会の関係上 4月24日(金)と決定。

付録 1
 在京 16
 4.16

ROCKEFELLER

Denmark	Bohr Møller	----- 680	-----	Will not attend Settled
U.S.A.	Wheeler		(650)	Not yet settled
Great Britain	Mott	1.030		Settled
	Coulson	1.030		
	Peierls	1.030		To be settled in May
	Fröhlich	(660)		
	Massey (say)	1.310		
India	Bhabha	(400)		Answer not yet received
Total		6.140	+ 650	6.790
of which settled :		3.090		

U N E S C O

Germany	Heisenberg	(1.000	+ 300)	Answer not yet received
Belgium	Prigogine	1.100		Settled
France	Néel	1.000	-----	Settled
	Perrin	650		Settled
Italy	Ferretti	-----		Full expenses secured
Nether-lands	De Boer	(1.300)	+ (450)	Additional \$450 might be necessary to provide for the two.
	Gorter	(650)		
Switzer-land	Heitler	1.290		
Total		6.990	+ 750	7.740
of which settled		4.040		

Grand Total : 14.530

Reserve : 17.000 - 14.53) = 2.470

53. 4.16 - 115 (Kiji-Zai)

追加招請候補者

1. 物性関係

記事	付録
在京	12 1 2

Molecules and Solids

1. Per - Olov Löwdin Institute of Mechanics and Mathematical Physics, University of Uppsala, Uppsala, Sweden.
2. B. Bleaney Clarendon Laboratory, Oxford, England.

General Methods

3. Chen Ning Yang Institute for Advanced Study, Princeton, N. J., U. S. A.
4. G. E. Uhlenbeck Laboratory of Physics, University of Michigan, Ann Arbor, Michigan, U.S.A.

Liquid

5. J. Yvon Laboratoire du Fort de Chatillon, Fontenay aux Roses (Seine), France

Very Low Temperature

6. B. Dingle Royal Society Mond Laboratory, University of Cambridge, Cambridge, England.

Magnetism

7. C. Kittel Bell Telephone Laboratories, Murray Hill, N. J., U. S. A.

Dielectrics

8. W. Känzich Physikalisches Institut der E.T.H., Zurich, Switzerland
9. B.T. Matthias Physics Department, University of Chicago, Chicago, Ill., U. S. A.

Plasticity

10. J.C. Frank H.H. Wills Physical Laboratory,
University of Bristol,
Royal Fort, Bristol 8, England
11. J.S. Koehler Physics Department, University of Illinois
Urbana, Ill., U. S. A.
-
12. R.V. Pound Lyman Laboratory of Physics,
Harvard University, Cambridge, Mass.
U. S. A.
13. R. J. Maurer Department of Physics, University of Illinois
Urbana, Ill., U. S. A.

2 素粒子関係

1. C.N. Yang (I) The Institute for Advanced Study,
Princeton New Jersey, U. S. A.
2. R. Jost (II) Ditto
3. J. M. Blatt (III) University of Illinois, Urbana, Ill., U.S.A.
4. J. Steinberger (IV) Columbia University, New York, 27, U.S.A.
5. C. Bloch (V) California Institute of Technology,
Pasadena, California, U. S. A.
6. C. F. Powell (V) H. H. Wills Physical Laboratory, Univ.
of Bristol, Royal Fort, Bristol 8, England
7. K. A. Bruckner (V) Univ. of Indiana, Bloomington,
Ind., U. S. A.
8. M. Lévy (V) Ecole Normale Supérieure, Paris 5,
France
9. S.T. Ma (V) National Research Council, Ottawa,
Ontario, Canada
10. M.L. Goldberger (V) Institute for Nuclear Studies,
University of Chicago, Chicago 38, Ill.
U. S. A.

外信	15
4.22	

理論物理学国際会議に関する
外部との往復通信一束

(4月15日 — 4月22日)

Ch. 263 Néel ↔ 藤岡 (3月25日付)

旅費及び講演題目に関する連絡 (外信 10)

回答 (4月10日発信)

「貴下の側にて旅費の調査ができた由、結構である。永宮教授の話によれば、貴下の目下の研究題目は *ferrimagnetism* ではなく、*magnetic fluctuation of allied subject* の由であるから、*magnetic fluctuation after-effect* なるお申出での演題で結構と思う。*Ferrimagnetism* についての他の講演については本委員会でも講演時間の点を考慮して決定した上、早速御返答する。

東北大で *visit* と貴下とを招請したい希望である。③コースに参加すれば、本多教授設立の「金属材料研究所」を見学出来る。

尚、北海道大学でも貴下の招請を希望している。若し途中、十和田湖その他の見物を省略すれば、寝台車で札幌近直行する方がよからうと思う。」

Ch. 313 Hirschfelder ↔ 藤岡委員長

招請応諾通知並にその受領挨拶 (4月11日)

「米国雇用校に換乗することについて、ONR に申請している。妻は同伴しないことになろう。取あえず、余り高くない部屋(汚くなければよいので立派な部屋ではなくてよい)を予約していただきたい」

回答 (4月24日発信)

「会議参加の御準備中の由、結構である。貴下の滞日中の適当の部屋を予約しましょう。」

Ch 316 東洋レーヨン研究所長 ←→ 小谷委員

Flory の講演会について (4月10日付)

「今秋挙行される理論物理学国際会議に米国フロリーを招聘の由ですが、一日単位において何か講演をして頂きたい。」

回答 (4月18日発信)

「フロリー講演につき御申越の件了承した。これについては日本化学会の方からいざれ連絡がある筈と思う。」

Ch 319 Casimir → 藤岡委員長

理論物理学国際会議に参加希望 (4月10日付)

「基礎物理学理論に関する討論会に参加したい希望である。原則として参加するには招請が必要であると思うが、IUPAP から経済的援助を受けなくても参加出来るのと、ヨーロッパ諸国からの参加者数が制限されていると思うので、討論会に参加して多少の貢献をしたいが、この申込を受理して欲しい。準備する都合上、至急返事を欲しい。」

Ch 325 Mott → 小谷委員 (4月16日付) (外信 13 Ch 267 (2) 参照)

4月13日付小谷委員の手紙への返事

- 「① 10月17日(水曜日)東京発のコモット号に帰路の坐席を予約したが、東京行の往路座席の方はまだ予約してない。だが9月10日に講演に間に合うよう到着するつもりである。御指示のように東北旅行はやめにして、大学のある街だけ訪問することにする。
- ② 9月15日の開会式の挨拶をお引受けする。Auger, Slater,

(2)

外信 15

湯川, Heisenberg については、貴下の指示に同感である。

- ③ 次に *Philosophical Magazine* 社から発刊されている "Advan in Physics" は物理学の各部門の研究論文を掲載しているが、本会議のもたらす成果はヨーロッパ及びアメリカの学者も多大の関心を寄せているから、日本の物理学者の最近の研究論文、又は他に、貴国の分野についてを同誌上に二三掲載するようには出来ぬものか。例えば *Antiferromagnetism*, *slip lines in metals*、又はこれに類するものは如何？ 貴元お聞かせ願いたい。」

(3)

在京 17
1953.4.24

国際理論物理学会議組織委員会 在京委員会(才17回) 会合記事

- 日 時 : 昭和28年4月24日 午後3時〜8時30分
 場 所 : 日本学術会議会真控室
 出席者 : 藤岡、本田、小谷、山内、吉沢各委員、兩宮氏(高分子学会)
 (事務局 竹下、吉田、山越)
 議 題 : 1. 高分子グループとの連絡
 2. 委員長報告
 3. 来々週在京委員会々期
 4. 歌舞伎座の件

① 高分子グループとの連絡

外人科学者の来日を機に、高分子グループとは Flory Kwood を迎え、講演会を催したい希望を申出てあつたが、同グループ代表として兩宮氏が出席して次のような計画を述べ協議した。

計 画

「日本人聴講者の旅費の関係で関東と関西との二箇所で開催会を行うこととし、関東は静岡大であるが、関西は未定である。関東側の計画は、箱根へ行く時に外人講師2名を迎え、午後3時30分東京発、午後6時30分小田乗車、それよりハイヤーで仙石原へ出てピクニックをし、食事後、2時頃、湖を渡り元箱根に出、そこから静岡大の自動車で降りて静岡着5時、一時間の休憩後、6時から7時夕食を共にして下ら懇談し、8時から9時頃迄、討論会。翌朝は、通俗講演を12時頃迄行

在京177

い、知事の招宴があり、3時の特急はとで京都行の予定」これを本委員会は了承。

京都の方は相談しないといわらぬが、討論会の題目は5月中に相談して関東関西で同一にするか別の議題にするかを定める。尚旅費の点は規定のコースについては中央を負担するがそれ以外は詳細則ち負担することとし、宿泊費は静岡の経費が熱海泊の費用より超過すれば、その分は静岡持とすることを了承。

② 委員長報告

- a) 免状認可の件：昭和28年4月14日付官報掲載、大蔵省令ヲケフ予を以て本後援会への寄付金は本年12月31日迄免税が認可になった。
- b) 寄付金の件：岩波の稲沼氏の指示により近く委員23名で小林氏に面会することを了承。
- c) 招待の件：坪井謙太郎氏と会ったら、学士院でも協力したいから、学術会議と一緒に招待をやってはどうか。そうすれば、学士院オス部会員は全員(約50名)招待するが学術会議の方もオス部オス人位は招待する必要があるかということになった。期日は後日に又協議する。
- d) 学士会館は、40人分のシングル・ベッドルームもあり、又設備の点から、約200名位の招待には適当と思われ料理も優秀なので、その接收解除を急いであらうこととし、この件につき宮次幹事が井岡外務省国際協力局長と会うことを了承。
- e) 接待小委員会の活動を開始する件：
 いよいよ時期が近づいたので外人も含めて招待する範囲、招宴の場所、料理、人数等につき余々に準備するための接待小委員会はそろそろ活動を始める必要がある。
 前に定めた顔ぶれは藤岡委員長、山内委員以下、外務省・文部省・京都側関係官等であるが、次回の委員会に適当と

思われる人の出席を求める事を了承。
 招待の予定は、大略次の如く決まった。

	午前	昼	午後 夜
13日		(日光より帰京)	財界と都主催招宴デイナー
14日	Registration	文相昼食招宴	4時より歌舞伎座(物理学会)
15日	Opening Session 大学見学	昼食(於東大)	会長、学士院招宴

尚次の争柄を了承した。

- i) 14日の登録は文相招待の昼食と一緒にすること。
 (尚、文相パーティは昼にすることとを、依頼すると共に期日は決定したので処所の決定を行うこと。)
- ii) 遊沢氏を中心とする財界と都との共催の13日のPartyを開催することを依頼するため宮次幹事が都と連絡すること。
- iii) 学術会議学士院共催招宴との連絡は、山田、龜山両氏にきいて賛成を得ること。
- iv) 学士会館接收解除の件は、龜山会長から Kelly 氏又は Clark 大将に依頼状を出す案も出たが、宮次幹事が、井岡局長の意向を打診してから態度を定める事を了承。
- v) 京都・大阪に於ける招待は、先方に夫々まかせること。
- vi) 首相招宴を入れる場合は文相と共催にすることも考えること。
- vii) 箱根、熱海の方面の具体的な計画・調査・連絡は山内委員と交通公社と連絡して行う。
- viii) 東京都で外人用バスを3台用意してあるのでそれで東京から箱根經由熱海に行くことにつき都の了解を宮次幹事より求める、又その費用の点も廣向すること。

Ⅷ) ユネスコ国内委員会の事務局長鈴木凡万氏又は長井全額
登課長に宮沢幹事会って、「招徠の計画は大体決定した
が今のところユネスコを考えていないから何かの計画があ
つたら、次の在京委員会で報告協議するよう」に出席を求
めること。

③ 来々週の在京委員会の会期：5月8日（金曜）とする。

尚、来週は接待委員会を主として4月20日（木曜）に行い、

① 外務省・文部省・交通公社・ユネスコの各関係者を招待す
る。

② 旅行の件

③ 日元バスの件を訂議する。

④ 歌島校庭の件：

7月14日、物理学関係者、外人全部、世話人等約100名位の
カガキ見物（割引）を小宮氏に依頼する事を了承。

外信	16	一
1953.5.8		覧

外信 16 (4月15日より5月6日迄) 一覧表

	発信	受信	返信	内容
274	Mott	4/1	小谷委員	4/20 来日日程について照会
291	Heitler	3/31	藤岡委員長	4/20 来賞について
317	小谷委員	4/22	Slater	若手研究者招請について Ch.219.296
329	小谷委員	4/6	Coulson	講演題目と期日の決定通知
330	小谷委員	4/23	Prigogine	九州大 講演依頼の件
331	小谷委員	4/23	de Bser	会 上 連絡の件
343	J.M. Van Wlecke	3/17	小谷委員	講演題目について
④344	藤岡委員長	5/8	Auger	毎日新聞社講演依頼の件
④345	藤岡委員長	4/30	Mott	Mott夫人招請 毎日講演依頼
④346	藤岡委員長		Pierls	朝日新聞講演依頼
347	Slater	4/21	小谷委員	講演に因する連絡の件
349	小谷委員	4/28	Flory	講演依頼 (化学会九州支部・静四大)
350	小谷委員	4/28	Mulliken	講演題目向合せの件
351	Edwards	4/16	小谷委員	展示会の件 (4月7日の返事)
355	Slater	4/21	藤岡委員長	参加申込及若手参加者の件 (yost & Pierre)
356	小谷委員	4/28	Bogorth	地方講演の連絡 (大阪、石島、電気)
357	Prigogine	4/23	藤岡委員長	割りお礼 (3/16の返事)
358	Néel	4/23	小谷委員	講演題目決定 (4/10の返事)
359	Fraser	4/20	藤岡委員長	Purnell & Young への手紙の返事 受領

360	Critchfield	4/24	島山	5/6	参加辞退
361	Salecker	4/22	藤岡委員長	5/6	旅費割当希望
362	Townes	4/23	藤岡委員長	5/6	参加交話 (旅費関連)
④363	富士丸△ 藤沢	4/28	理論物理学国際 会議下部委員会	5/6	Mott ^d or Seip の写真感光理論講演依頼
364	藤岡委員長	4/30	Weisenberg		旅費、夫人招待及び講演の件
④365	藤岡委員長	4/30	Fleury		若手研究者招請の件
372	Mott	4/20	藤岡委員長	5/6	Massey の旅費について
373	Wigner	4/23	藤岡委員長		講演題目について
④379	Oppenheimer	4/28	藤岡委員長		出席交話通知
383	Levy	5/2	藤岡委員長	5/6	招請状申請

在京	18
1953.4.30	

国際理論物理学会議組織委員会 在京委員会（才18回）会合記事

日 時：昭和28年4月30日 午後5時～8時
場 所：日本学術会議会員控室
出席者：藤岡、本田、茅、谷、朝永、山内、蓮見（山中）、
長井、吉本、宮沢各委員
議 題：1、委員長報告
2、接待小委員会に関する計画
3、接待委員会の下部機構の決定

① 委員長報告

寄附金：① 滝沢氏に依頼に参上したところ、募集の書類はOK、但し返信用封筒を作製のこと、募金予定総額500万円、内250万円は日銀、250万円を始め銀行、保険会社に既に依頼中、残りの250万円は石川、原氏を避けて工業クラブ関係の会社に依頼することにしてあるが、樂觀的見通しである。

（但し、石川、原氏には当方よりまだ連絡してなし。）

② 次に委員長、小谷、山内、朝永各委員が近日中に岩波の小林氏を訪問することを了承。

② 接待小委員会に関する計画

① 都と財界人との連合招待宴の計画（6月19日夜）は都長官が太平洋市長会議に出席のため不在であること、計画が詰まっている他、日時は日時がないので一応辞退する事とし、宮沢幹事よりその旨連絡する事を了承。

② 外務省（情報文化局オタ課）中山法道氏が出席、外相主

在京 18

催のカクテル・パーティを計画中に繰込むことを提案。協議の結果、9月14日夜、歌舞伎座観劇後、7時頃から、東東会館で、予定出席人数120名前後（この数字は外務省側で予算とにらみ合せて協議の上、改めて当方に連絡する事を了承）のヒュフエ式カクテル・パーティを予定することになった。外務省に出席を予定される外科学者のリストを送付するとともに、外務省側で決定した人数の範囲内で当委員会からの出席数を決定する事を了承。

- ③ 学術会議及び学士院が主催するディナー・パーティは最初の予定の学士会館が駄目になったので（後出）一尤ず帝国ホテルを予定するとともに、東東会館にも9月頃に冷房装置が完備するか否かを向合わせ、外相招宴との兼ね合いを見ながら決定することとするが、いづれの場合も、至急場所の予約を行うことを了承。

出席者の範囲については、学術会議の男女部員全員とオス部（化学関係）の一部及び各部オ部長、副部長を包含し、学士院の意向としてはオス部全員を招待する予定の様様であるが、山田氏と協議の上再検討する事を了承。

- ④ 歌舞伎座は、佐藤委員の報告によると、高橋常務と交渉の結果、100名程度予約してあるが、出席予定人員に対する割引は可能の様様である。小宮氏はさらに無料にして貰う様交渉するとの事。又食事については特別にはからう事も可能である。出しものは未定であるが吉工門にならうとの事である。歌舞伎座観劇については、茶菓及びバネ送迎は物理学会で引うけることを了承。

- ⑤ 宮沢幹事が4月25日外務省井岡国際協力局長と面会。さきにマーフィ大使にあって、学士院長から学士会館の接收解除の件につき本国際会議に参加する外人の科学者の宿舎に宛てるため早急の接收解除を依頼してあつたので、その可能性を打診の結果、現在同会館は空車の佐官以上のフラグになつてお

り、約70名が泊つている。日本側からも再三解除を申請しているけれど目下代替宿舎の建築中で差当っては立退く先がないのが実情で到底9月迄には間に合わない。先方も事情はよくわかつているし、又どこへ懇願書を出しても結局井岡氏のところに廻つて来るので無駄であろうとの事であつた。

- ② 文相の招宴と、もし行うならユネスコの招宴とを一括にしたらとの案が出たが（ユネスコ国内委員長井課長）文相省の岡野課長が不参加で審議未了に終つた。

- ⑦ 東大での昼食の件について、100名前後であるから、図書館内で立食を予定していること、出席する日本人は関係者のみとし、東大の理学部及び評議員を招待する予定である旨、茅委員より説明があつた。

大講堂に案内

- ⑧ 尚 Registration に当つては、東大の講堂で行うこととするが、度向その他の場合に備えて、北側の会議室をあてる事を了承。世話係及び東大の受付係、その他を小委員会決定する事を了承。

- ⑨ 尚招宴の事につき、以下の事を了承。

- ① 招宴に差返する振振の規定は、各種の事情を考慮して、「会議の際ならばにディナーの時も平服を着用する」旨を次回 Circular で各参加者に通達すること。

- ② 宮沢幹事が4月25日東京都外務部連絡竹中オ一課長と会見して、箱根經由熱海迄の外人専用バスの借用の可能性及びその費用について度向したところ30人から35人乗のバス3台を予約してくれること。一日東京都見物なら一人が500円であるが都を通ずれば250円ですむから熱海迄行つても、一台につき25,000円位見込めばよいとの事であつた。その際、東京都の見物を是非計画の中に入れてらとの意見が竹中氏から出された。結局、これについて委員会協議の結果9月14日の昼と夜との間にス〜ヲ併向東京都見物を遊覧バスで行うことを了承。

在東 / 8

- ④ 参加者の名前入りバッジについては会議及招宴の際にも着用出来、後日ウ記念になる程度のもりにすることとして、安藤七宝店にたのむことを了承。
- ④ 京都のホテルは一括して仮予約することを、交通公社吉本外国部長より各支社に指示してある。大阪は新大阪ホテルを予約することを了承。
- ④ 日光へバスで行くことは、道が悪いため疲労することを、考慮して、東武線を貸切りで行き、日光駅から馬返し近バス、それからケーブルで行く事を了承。この貸切りその他の連絡は交通公社で行う事を吉本氏が確約。
- ④ 尚、7月11日から27日迄の費用は、本委員会で購入する事を原則として認め、その期間宿泊費、食費旅行費等は *Coupon* にする事を了承。
- ④ 尚、外来科学者の便宜のために、税関の便宜処置を日本学術会議の名義で、大蔵省及出入国管理庁に連絡か、又は外務省を通じて、申請し、尚本委員会から税関に科学者の *list* を送り荷物の検査その他の便宜処置を後日、直接依頼連絡する事を了承。
- ④ 新聞社が講演謝礼として来日科学者の夫人を招待する場合 *ticket* の費用は、新聞社から直接大蔵省に対し外貨の *w/f* を取るための申請をする様に連絡する事を了承。(尚この際は日銀だけで済むから、為替管理課の小栗監査役に訊くこととの意見が中山氏より出た)
- ④ 運輸省に対して、茅委員から十秋スタッフ局長に交渉して団体割引で貸切扱いにしてもらうように依頼することを了承。(無料パスの発行は交渉しても無理の由) 熱海、京都間は、特別ス等車2台と1等展望車を100/列車に連結する計画であるが、8月の時間割改正後、交通公社から交渉する。
- ④ 京都を解散後の外人の世話は交通公社を二、三名専属に配置する事を了承。

(4)

- ④ 外国人が印刷物その他を荷物の重量が増加して航空機手荷物制限の40kgを超過するおそれがあるので、荷造りをして船で送付してやる準備を計画する事を了承
- ③ 接待委員会の下部機構の決定。

- 1) 旅行係 { 熱海 日光 (実地点検を必要とする)
 - 2) 東京の会場係
 - 3) 接待係
- 算につき、分担を定め、責任をもたせる事を了承。

接待計画予定表

	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
9月13日	日光より帰京 経田連 (カクテルパーティ) (工業クラブ)											
9月14日	Registration (京大)	執行委員会	(二名) 文相	東京見物 毎日講演	歌舞伎座 (物理学会茶集)	外相 (カクテルパーティ) (東京会館)						
9月15日	財合式 (秋)	昼食 (京大)	見学 執行委員会	日本学術会議・学士院デイナー パーティ (帝国ホテル)								

(5)

外信	11
1953. 5. 8.	

理論物理学国際会議に因す
る外部との往復通信一束

(4月23日 - 5月6日)

Ch 274 藤岡委員長 ← Mott
小谷委員 → Mott

来信 (4月1日付) 来日日程についての懇会 (3月9日の手紙の返事)

- ① 貴簡によれば、東北及び北海道旅行のBコースをお勧めの
様に思われるが、10月7日東京発で帰路の坐席の予約をして
よるしいか。
- ② *Crystal dislocations* に関する日光の会合に参加したい
から、9月10日頃東京に着いたら日光に直行する。この会
議の題目は興味を中心であるから何を討論するのが、あつが
じめ知りたい。
- ③ *dinner jacket* 又は黒服を必要とする様な会合があるか
どうか。又、まだ暑いと思うので、夏服も持参の必要がある
か？」

発信 (4月20日発信)

「*Crystal dislocations* に関するシンポジウムと平行して
molecular physics & *Cosmic rays* のシンポジウムが9月11
日及び12日に行われる。貴下の *introductory lectures* を
30~40分位やって貰いたい。(Seitz 又は Koehler にも
自由な討議に参加して貰うつもりである)。貴下の *lecture* の
後で、質疑応答と日本人学者の業績の発表を行う予定である。こ
の会議は非公式であり、親密な感情の程に意見を交換するもので
ある。

(1)

外信 16

slides のサイズ等については、係りの谷又は橋口氏より御返事をする。次の Circular では前号の訂正、補充、シンポジウムの日程、外貨兌換についての情報、外人参加者が日本で必要とする円貨、持参すべき衣服等について御通告を行う。

衣類については、暗色のセビロ以外は不必要でありましょう。本会議中の京都の気温(65°~80°F)では夏服と同時に仙台の10月初旬の気温(50°~70°F)から見て合着を必要とします。」

外貨持参のことについては藤岡委員長から返事をするが、40米(持出制限額)以上は不必要でありましょう。」

Ch 291 藤岡委員長 ↔ Heitler

来信(4月5日付) 旅費について

1000米旅費の割当を減額する。当方からも不足額の獲得に努力するが、この問題を決定する委員会は今月末又は7月初に第一回開催されるだけであるのに、その会長が最近死亡したので、うまく行く確信がない。従って参加の如何は IUPAP に依存する。自分の講演題目は

- ① Exact theory of Lines Breadth.
- ② (Quantum-electrodynamics)
- ③ Interpretation of Cosmic Rays jets (Cosmic Rays)

次に日光会議の期日を正確に知りたい。

回答(4月20日発信)

「エネスコから全額の補助を得るよつに努力します。貴下の手紙の Copy を Fleury 氏に送りました。日光の会期は誤でした。」

Ch 296 藤岡委員長 → Matt (外信 14 Ch. 219 の返事)

来信(4月30日) 若手科学者の参加について

- ① 経済援助を与えずに招請状を出す者: Blatt, Bleaney,

(2)

Bloch, Bruckner, Dingle, Frank, Goldberger, Jost, Kiangich, Kittel, Koehler, Löwdin, Ue, Matthias, Maurer, Pound, Steinberger, Yoon

- ② 住居旅費をも提供する者: オ-候補 Löwdin, オニ候補 Pais と Yang.

- ③ 地方講演依頼の諸機関より、費用の一部を負担する由、尚所持金は3万円から5万円が通当と想う。

Ch 317 小谷委員 → Slater (4月22日発信)

若手研究者招請について (Ch 219, 296 関連)

藤岡委員長の手紙に記載されてある若手物理学者の招請につき4月16日の在京委員会の決議(在京 16/4.16 参照)を報告した。

Yang をオ-候補とすること、Pais の返事について報告し、Yang も同様の事情かも知れないので、貴下の御意見をらたごなし、両人の援助方法をお願いする。直接に Pais 及び Yang に御連絡を。両人の旅費が出なければ、エネスコ補助金の方から援助し^らいと思うが、一乘として残額 2470 米の中から Yang と Pais との分として総額 1000 米、取州明彦の最も希望される参加候補として Per-ola Löwdin 氏に 1000 米を差当り割り当て、残りを予備金に保留するのはどうか。その他の人々に対しては、旅費についてみれずに招請状を出すことにした。Wheeler に 650 米 とつてあるが、Wheeler が NSF から全額与えるなら 650 米 は他に返すことにする。

京都で本会議に出られない物理化学者に通俗公開講演を 30~40 分 お願いしたい。同じ件について Heisenberg, Weisskopf にもお願いするつもりである。尚、本会議以外の講演の内容は同一のものでいい。電気学会の古賀氏からも、theory of solide state について講演して貰いたい旨申入れがありました。」

その他旅行日程の通知。

(3)

外信 16

Ch. 329 小谷委員 → Coulson

発信 (4月6日)

講演題目と期日の決定通知

New theory of metallic bond の講演は本会議で9月18日の electron theory of solids の session の際に行う予定。又、日光では9月11日及び12日に molecular physics の討論会で theory of large molecules の講演をお願いしたい。

化学会では、貴下と Mulliken, Flory 三氏の講演会を東京で行いたいと希望しているが、大体9月14日では如何?

Ch. 330 小谷委員 → Prigogine

発信 (4月23日)

九州大学講演依頼の件

- ① 九州大学では、貴下、de Boer, Feynman, Heisenberg, Kirkwood 及び Murshak. の御来講を希望しているからよろしく。本委員会では了承した。旅費の一部は九大でもつ予定。
- ② 旅行コースはAになる。
- ③ 御返事次第、九大の小野周氏から詳細について直接御連絡する。
- ④ 本会議の時間割振上、12月18日付お申越の二演題中の一つ new molecular theory of liquid helium の方は本会議では別處して非公式の他の会合でお願いするつもりである。

Ch. 331 小谷委員 → de Boer

発信 (4月23日)

九大講演連絡の件

九大からの手紙によると、同大学で貴下の講演を希望している。本委員会はこれを了承したからよろしく。小野氏より既に連絡があったことと思う。

(4)

Ch. 343 J. H. Van Vleck → 小谷委員

来信 (3月17日付) 講演題目について

"The Calculation of the Cohesive Energy of Alkali Metals"

去年9月の Washington Conference on Magnetism 以来 ferromagnetism について研究を進めていないので、同じものを繰返したくない。だが Slater の討論会には参加する予定である。

Superconductivity についても同断であって、自分としては、自分が suggest した方法で当 laboratory で行った Calculation を述べて Cohesive energy について話したい。

Ch. 347 Slater → 小谷委員

来信 (4月3日付)

理論物理学国際会議に関する連絡

- ① 日光の分子物理学討論会には出席する。
- ② 初理学会の講演会は受諾する。
- ③ 南会式の挨拶は受諾する。
- ④ 電気学会の講演は受諾する。
- ⑤ 広島でも講演を希望していると前に云われたが
- ⑥ 南会式は挨拶だけでよいのか、専門的内容を盛った講演を望むか。
- ⑦ 初理学会のものは、本会議と同一種類の講演でよいのか、それとも、もっと一般的な内容を望むか。
- ⑧ 電気学会のものは、聴衆が theory of solids のことをよく知っていると思ふと見做してよいのか、それとも semiconductors 等についての基礎知識としての solids の知識をえつものと考えるべきか。自分の考えでは microwaves ではなくて solid-state physics について話すことになる。

(5)

外信 16

② 公式の服が必要かどうか。タキシードが要る杯なら前以て
知らせて貰いたい。長旅だからなるべく身軽を望む。

Ch 342 小谷委員 → Flory
来信(4月28日) 講演依頼の件

貴下の演題について差当り、"Polymer"を予定してあるが
詳細決定ならば御通告願いたい。貴下の講演が討論会の口切り
になって討論と日本人学者の業績とが統く予定である。

尚、各地方よりの講演希望の中より次を御考慮願いたい。

① 日本化学会 :

場所 : 京都 及 大阪

期日 : 本会発直後の適当な日

聴衆 : 物理学者と技術者

② 同化学会九州支部

場所 : 福岡 (Aコース御選択の場合)

③ 静岡大 (既に石原氏より快諾の由了承)

講演 : 貴下と Kirkwood の両氏。非公式討論会と大
学での講演

演題 : ナイロンを希望

期日 : 9月15日 ~ 16日

尚、宿根自然公園、案内の予定

Ch 350 小谷委員 → Mulliken
来信(4月28日) 講演題目合せの件

① Progress Report を送ったから5月末迄には着くだろう。

② 日本に3週間以上滞在の由結構である。

③ 貴下の講演題目は一つは "Intermolecular Charge-
Transfer Forces" とし、本会議の session of mole-
cular theory (9月18日) に予定している。他は "Donor-
acceptor interaction" を日光の討論会で予定している。

(6)

御都合これでよろしいか。

④ 化学学会では貴下と Coulson を招請して講演会を希望
している。"Molecular theory of Acids & bases"
か、その他化学者に面白そうな題で願いたい。期日は
9月14日がどうか?

⑤ 東京教育大又は東京大学で大会終了後、講演をお願いす
る杯になるかも知れぬ。

⑥ Molecular physics では、本会議で one session、日光
と大阪で夫々 symposia を予定している。

Ch 351 Edwards → 小谷委員

来信(4月16日付) 展示会の件(4月7日の手紙の返事)

展示会の最終決定は、貴下の送られたプログラムを見とこ
りて御通告する。

Ch 355 Slater → 藤岡委員長

来信(4月21日付) 参加申込及び若手参加者の件

① 参加申込書同封した。到着日は未詳。

② 若手科学者の招請の枠結構である。未週 Washington の
ONR 及び空軍の代表者と American physical Society と会う
からもっと多くの科学者を出せるかどうかが努力してみる。
自分の考えでは多分出来そうである。

尚、表の中で訂正すべきは Prof. C. Kittel は、今 Berkeley,
California の California 大学に居るし、Dr. B. T. Matthias
は Bell Telephone Laboratories, Murray Hill, New
Jersey にいる。

尚、Prof. E. M. Purcell (Harvard) は、Bloch と共に
nuclear resonance でノーベル賞を貰った人だから Bloem-
bergen 及び Pound (共に Harvard) を呼ぶなら、これ
ら二人より偉い Purcell を呼んだらいい。

(7)

外信 16

- ② 以上の他儀礼的な意味で Air Research & Development Command, Dr. Charles F. Yost (Acting Chief, Solid State Sciences, of the Office of Scientific Research of the Air Research & Development Command) を招請していただけないか。前に招請状を送った Dr. Wayne R. Gruner (Office of Naval Research) と同じ事情である。Yost の希望では別に Chief of the Office of Scientific Research に儀礼的招請状を出し、それには Chief、又はその代理を招請する形式にして欲しい。その文面は Dr. E.R. Fure (Office of Naval Research) に出されたものと同様の趣旨で結構である
- ③ 小谷委員より日本に於て講演をする様に手紙を買ったがその返事の copy を同封する。

Ch. 356 Bogorch ← 小谷委員

来信 (4月28日) 地方講演の連絡

- ① 大阪大学 (9月24日)
- ② 広島大学 (旅費・宿泊費負担)
- ③ 電気学会 (4月8日, 9日, 10日を予定)

Ch. 357 Prigogine → 藤岡委員長

来信 (4月23日付) 旅費の件

(3月16日の手紙の返事) (本國から帰ったところ 返信遅れすね)
1,100 円割当を買ったので、大会に出席出来てうれしい。

Ch. 358 Neel → 小谷委員

来信 (4月23日付) 講演題目決定 (4月10日付手紙への返事) Ch. 268

- ① 自分が二つを講演することは時間が制限されているから必要ないと思うので、Ferrimagnétisme か、又は Trainage Magnétique de Fluctuations に集中した方がいい、と思う。

(18)

自分の考えでは、magnetisme の専門家でない聴衆にとって一般的で面白い Ferrimagnétisme の方を選びたい。その際は l'aimantation inverse des laves について、永田猛氏の業績についても一寸触れたい。

- ② 本会議以前の機会に Trainage Magnétique de fluctuations について述べたい。
- ③ 東北及び北海道大学の講演を了承。

Ch. 359 Fraser → 藤岡委員長 (4月21日付)

来信 (4月21日付)

Purnell と Young にあてた 3月11日付の手紙の copies を返した。

Ch. 360 Critchfield → 龜山

来信 (4月24日) 参加辞退

旅費の事でもっと知りたかったが Slater と Weaver 両氏を通じて判ったから、貴下と文通するよりこの方が手とり早い。時間を各方面に分けているので旅費を申請出来難いから辞退する。

来信 (藤岡委員長名 5月6日付)

来られなくて残念である。

Ch. 361 Salecker ← 藤岡委員長

来信 (4月22日付)

往復旅費を出して貰えないか?

申込み同封

来信 (5月6日付)

補助金は配分済みで、お申越には残念ながら感じられない。

(9)

外信 16

Ch. 362 Townes \longleftrightarrow 藤岡委員長

来信 (4月23日付)

自分の専門の *microwave physic* が9月末にあったので題目
がご思ったが、*microwave* と *radio-frequency* の *sym.* は
9月11日、12日になった由であるから、これと本会議の大部分に
参加したい。

off. of Naval Research で旅費を非公式に出すと約束してくれ
た。

来信 (5月6日)

受領した。申込書紙、改訂プログラム等同封

Ch. 364 Heisenberg \longleftarrow 藤岡委員長

来信 (4月30日) 旅費並びに講演の連絡

- ① 貴下の帰路の旅費の件
- ② Heisenberg 夫人の切符の件
- ③ 講演: a) Rabi と一緒に開会式の学術講演
b) 朝日新聞
c) 名大
d) 広島大

Ch. 372 Matt \longrightarrow 藤岡委員長

来信 (4月20日付)

Massey の旅費について

Massey の旅費について、同氏と相談したところ「是非出席
したいが、往復旅費の大部分は補助に脚がねはなるまい」との
ことであった。つまり、予備金 1310 の大部分を使うことにな
るが、それについて御意見を請う。

(10)

Ch. 373 Wigner \longrightarrow 藤岡委員長

来信 (4月23日付) 講演題目について

- ① A general method of treating multiple scattering
infinite media
 - ② Theory of metallic cohesion
- 以上について御意見を伺いたい。

Ch. 383 Kevy \longrightarrow 藤岡委員長

来信 (5月2日付) 招請状申請 (2月6日の手紙の返事)

仏国政府より往復旅費の補助を貰えそうだから、本会議に出
席出来そうだが、正式の招請状が必要な由だから大至急送って
貰いたい。

(11)

外信	付録
1953.5.8	

理論物理学国際会議に関する
往復通信一束 (付録)

Ch 344 藤岡委員長 → Auger
発信 (5月6日)

毎日新聞社講演依頼の件

毎日新聞では9月13日か、14日に、Mott 教授と共に講演会を希望する。演題は科学を通じた国際協力についてお願いしたく、又、来日前にメッセージを頼む。亦費は5万円新聞社で負担の予定、尚南会式のアドレスとも、Mott, Slater 両氏と共に依頼したい。その他、湯川、亀山、藤岡も話をする予定である。

Ch 345 藤岡委員長 → Mott
発信 (4月30日)

Mott 夫人招待、毎日新聞社講演依頼の件

毎日新聞では貴下と Auger とに9月13日か、14日に東京で通俗講演を依頼する。
毎日では、Mott 夫人の全旅費と滞在経費とを負担する予定の故であるから、夫人を御同道下さい。尚、同新聞社への短いメッセージを願いたい。共同のメッセージを希望している。

Ch 346 Peierls → 藤岡委員長
発信 (4月30日)

朝日新聞社講演依頼

朝日新聞社の講演をお願いしたい。お引受願えれば100,000円

外信 16 附録

(約 100) をお礼に予定している。
計画: 期日 9月12日(東京) 9月24日(大阪)
講演者: Bhabha, Heisenberg, Peierls, Perrin
他 1人(各15分~20分)
記者会見: 9月12日か13日

- ③ 若手科学者に対する決定(同封の Mott 宛ての手紙 (h.296 の通り)
- ④ Slater によれば Pais と Yang 両氏の出席可能らしい (Ch. 317)

Ch. 363 富士フィルム研究所 → 理論物理学国際会議下部委員会
来信 (4月28日付) 御中

Ch. 379 Oppenheimer → 藤岡委員長
来信 (4月28日付)

Seitz 及 Mott 講演会依頼
Seitz と Mott (Mott 不可のときは Seitz のみで可) の出席を得て、物理学会主催で写真感光理論の symposium を箱根富士屋ホテルで行いたく、費用は概本当会社で負担する。
時期: 未定 一泊後翌朝解散
来信 (4月6日付)
いずれ計画決定後御通知する。

朝日新聞の講演について (2月12日の手紙への返事)
国際会議に参加する。余り業々しい計画を立てず、科学会議にふさわしいものにして貰いたい。この手紙の写しをさえ、鈴川氏に自らの決定を通告した。

Ch. 365 Fleury ← 藤岡委員長
来信 (4月30日付)

- 若手科学者招請の件
- ① Borj が来れぬこと。
 - ② 4-300 円 余剰金がある。
 - ③ Ginter は、同 650 円 要求している
 - ④ Massey を考慮中なので Mott 宛ての手紙を同封する。
- | | |
|-----------|----------------|
| ¥ 3,050 | 4月3日 貴簡 |
| + ¥ 1,380 | Borj |
| ¥ 4,430 | |
| - ¥ 650 | Ginter 分予備 |
| - ¥ 1,310 | Massey 宛て得る最大限 |
| ¥ 2,470 | |



在京	20
1969.5.14	

国際理論物理学会議組織委員会 在京委員会(第20回) 会合記事

日 時 : 昭和44年5月14日 午後5時 へ 8時30分
会 場 : 日本学術会議会員控室
出席者 : 藤岡、茅、小谷、武藤、谷、朝永、山内、宮沢(委員)
(事務局、竹下、吉田、山越)
議 題 : 1. バッジの圖案の件
2. 登録用カードの件
3. 地方との連絡の件
4. 接待小委員会の件
5. 地方旅行コースの再検討
6. Towns の都合と日光シンポジウム

1. バッジの圖案の件

表面は絵として、裏面には文字を入れることを了承
圖案のテーマは、藤岡委員長が、芸術大学に行き、専門家と相談の上、委嘱することを了承。

2. 登録用カードの件

南会式の際用いる登録用カードについては、先づ案を事務局で作ってから次の委員会にはかることを了承。

その際、旅行日程の希望やレセプションに出席するか否かを記入するカードも各々別個に作ってはどうかと云う意見が出たが事務局で検討の上、案を練ることを了承。それと共に参加者が帰国の途に出発する際の航空機坐席売約をするための申告書をも考慮する事をも了承

在京 20

3. 地方との連絡の件

宮沢幹事から、事務局として9月初旬から10月初旬に亘る期間にわたる参加者の④ 会議日程 ⑤ ホテル名及び室名、連絡方法 ⑥ 見物日程等を一覧表に記載する計画を立案中の説明があり、了承を得た。その際、地方において外国人科学者に直接に関係する責任者に対し、その地方での講演会、宿舎の部屋予約旅行等の準備に際して既にとった処置と決定事項の報告とは一々当委員会の事務局の方に報告して貰って万全を期すると共に、他面各地方の大学に関連した外部との往復通信の字は濁れなく配布することを提案し了承。

4. 接待小委員会の件

接待小委員会の下部機構については、宮沢幹部立案の表(在京 19)について、更に藤岡、山内、宮沢三者で更に詳細に案を作り、処置をとる事を了承。

5. 地方旅行コースの再検討

付録1の4案が小谷委員から提案され、これを検討したが、次の点が特に論議された。

Bコース(北海道行)

網走—阿寒—釧路コースは遠路で観光設備も悪く、又阿寒は、霧で景色が見えない場合が多いことなどを考慮して、代りに登別、支笏湖、洞爺湖、白毛アイヌ部落見物等を含めたコースを考えるべきであるとの意見が出た。

又このコースとCコースとを析衷して、Cコース(大和路巡り)の延長の形になるよう立案するのも面白いとの意見もあり、以上に基いて小谷委員が案を立てることを了承。なお Matt Neel にもこのコースをすすめること。

Cコース(大和路)

短期間に充実した旅行が出来、日本的なものを満喫するには最適なコースとして注目された。

Dコース(奈良—名古屋—仙台)

もともと Matt の講演旅行案として計画されたものであるが地方都市ばかり巡歴するつまらないコースになってしまったのでこれは削除することにし、Matt のためには改めて前出の延長したCコースをすすめることにするから仙台、北海道に足を延ばすような日程を考える。

Eコース(奈良—名古屋—上高地)

これは案外面白いかも知れないという印象であった。

6. Townes の都合と日光シンポジウム

Townes が早目に帰国することになるとの連絡(Ch 362)があり、同氏の Microwave に関する講演を予定していた本会議後の小シンポジウムには出られないことになる。そのためこの小シンポジウムを日光のシンポジウムに合流させ、このため日光の日程を一日早くから始めるようにする案も出たが、全体の会期に変更を来すような日程の改正は避けるべきであるとの意見が支配的であったので、既に定めた会期の中で、Townes の都合に沿うよう日程を専門部会(茅委員を加う)で再検討することに決定。

在東	20	付録
1953.5.14		1

地方旅行コース改訂案

	B	C	D	E
9月25日	大阪-----奈良-----札幌	大阪-奈良	大阪-奈良	大阪-奈良
26日	札幌	奈良	奈良	奈良
27日	(札幌)	奈良-伊勢	奈良-名張	奈良-名張
28日	--- 網走-川崎	伊勢-心齋	名張	名張
29日	川崎 --- 千葉-釧路	心齋-名張	名張-東京	名張-松本
30日	--- 札幌-函館 ---	名張-岐阜	東京 仙台	松本-上高地
10月1日	--- 仙台	岐阜-東京	仙台	上高地
2日	仙台		仙台	上高地-松本-甲府
3日	仙台-東京		仙台-東京	甲府-精神湖-東京

----- 飛行機
 ———— 汽 車

理論物理学国際会議に関する
外部との往復通信一束

外信 18
1952.5.21

CH. 358

発信(月 日付)

小谷 → Néel

関連 外信 16

講演について

(CH 358)

Ferrimagnetism に関する *introductory lecture* 講演の
由、日本の理論物理学者は多大の興味を抱いているが、多くの我が国
の学者(茅教授も含めて)は "*trainage magnétique du*
fluctuations" を重視しているので、本会議で時間が足りなけ
れば、京都で別に講演会を開いてもいい。この分野での研究は理論
・実験双方とも開始していないので、貢献するところが大きいと信
じる。

CH. 373

来信(4月23日付)

発信(5月13日付)

藤岡委員長 → Wigner

講演題目について

a. 来信

1. A general method of treating multiple scattering
in infinite media
2. Theory of metallic cohesion

以上の何れかを送っていただきたい。

b. 発信

以上の中2の題目をお願いしたい。講演日は差当り、Coulson,
Van Vleck と一緒に 18日午後の部会に予定している。

外信 / 8

CH. 408 来信 (月 日付)
 発信 (5月 / 8日付)

Huber → 会長
 ← 藤岡委員長

内運 外信 11
 (CH 177)

正式申込 (Reply form)

来信 : 申込書
 発信 : 上の受領挨拶

CH. 421 来信 (5月 6日付)

Bogorath → 小谷

内運 外信 16
 (CH 256)

電気学会の講演について

電気学会 (9月8日, 9日, 10日) 及び大阪大学 (9月24日) を行う講演を了承した。だが長途旅行の後だから、広尾までは行きたくない。

9月8日, 9日, 10日を電気学会にあてることは異存がないが到着日がハッキリしないから10日にして貰えれば有難い。だが電気学会の都合のため9月4日か5日には到着したい。

東京発 (香港行) Pan American 航空機の9月26日 (土) 01.00 AMで出発する予定であるから、9月24日夜の阪大の招宴に出ても間に合うと思うが、講演を他の時間に変更してもよいし又は招宴を辞退してもよい。

CH. 433 発信 (5月 / 8日付)

藤岡 → Fröhlich

本会議の講演について

御通知のあった本会議中の2講演の中で "Electrons in dielectrics" はもう一つの "Theory of superconduction" を聞く人のための言わば準備になる性質のものであるかどうかをお伺いしたい。プログラムの変更を考えている際でもあり、それによって日程の方を考えたい。

CH. 430 来信 (5月 7日付)

Weisskopf → 藤岡

参加不能通知

夏期 とても多忙のため到底参加不可能となり、遺憾至極。

CH. 431 来信 (2月 / 8日付)

Prigogine → 藤岡

内運 外信 2
 (CH Aの3)

旅費の件

ベルギー科学研究費の新規定によって、200弗 (これは確定) のかわりに500弗増額補助申請を出せることになった。決定は数ヶ月は不明。

CH. 432 来信 (5月5日付)

Prigogine → 小谷 (関連 外信 16)
 (CH. 330)

九州大学講義

九州大学講義会に参加する
 従って、excursion course "A"に参加する。

CH. 440 来信 (5月13日付)

Ivar Waller (スウェーデン) → 藤岡

参加申込

国際会議のことは前々から聞き返していたが、Physics Today
 の1953年1月号の記事を見て教えて参加申込をすることにした。
 まだ受入れの余地があるなら参加させてもらいたい。湯川教授には
 当地に来られたとき会ったことがあり、同教授にもこのことについて
 手紙を出した。

CH. 441 来信 (5月12日付)

Sliphant (執行委員) → 会長
 ← 藤岡 (関連 外信 11)
 B の 1

来信 : 申込書送付
 発信 : 上の受領挨拶
 又申込書によると大学で物理学・医学・社会

外信 18

科学等の研究活動の一般について話し合う機会を望んでいること
 に対する了承。

CH. 442 来信 (5月14日付)

発信 (5月21日付)
 Blatt → 会長
 ← 藤岡 (関連 外信 17)
 (CH. 378)

不参加通知

来信 : 秋の予定が別にあつて行かない。
 発信 : 来れない由、誠に残念である。
 将来、来日される機会があることを望む。

CH. 443 来信 (5月12日付)

発信 (5月21日付)
 Kittel → 会長 (関連 外信 17)
 (CH. 378)

不参加通知

来信 : 大学の新学期が9月14日に始まるので、残念ながら
 来れない。
 発信 : CH. 442 と同文

CH. 444

来信 (5月12日付)

発信 (5月21日付)

Goldberger → 会長

(因重 外信 17)
CH. 378

来 信 : 残念であるがいろいろ前約があるので参加できない。
発 信 : CH. 442 と同文

CH. 445

来信 (/月 /日付)

Erwin Neustein (Vienna) → 藤 岡

参 加 申 込

素粒子部会に出席したいから申込用紙を頂きたい。
自分の講演題目は、*New researches on the Wenzl - Wavefields.*



取扱注意*

在京 20 及び 外信 18 補足

委員長報告

- a) 寄附の件は波沢氏に面会し、各会社に依頼するためにその会社のリストを貸いに行つたが、有望であるとの印象を得た。
- b) 又東京証券取引所からの寄附を仰ぐ件も、更らに従来の経過を宮次幹事より聞いた上で遠山理事長に交渉する事を承諾。
- c) 大阪の経団連会長の関桂三氏（東洋紡会長）が上京した機会を捉えて面会したいので宮次幹事が連絡の上、同道することを了承

CH 399

藤岡委員長

Oppenheimer

(関連 外信 16)
CH 378

発信 (5月11日付)

回答 朝日新聞の講演について

4月28日付朝日新聞社講演につき御同意の手紙多謝、貴信の字を朝日新聞に回送した。

*今後新聞社関係にもこの資料を流すことにしますので、広く知れ渡ると不都合な部分は別冊にして委員だけに配付することになりますから、この内容の取扱については充分御注意をお願いします。

在京	21
1953.5.21	

国際理論物理学会議組織委員会 在京委員会(第21回)会合記事

日時：昭和二十八年五月二十一日 午後五時～八時

会場：日本学術会議会員控室

出席者：藤岡、平田、小谷、谷、朝永、山内各委員
(事務局、竹下、吉田、山藏)

議題：
1. 外部との往復通信及び関連事項に関する協議
2. 地方旅行コース改正案の検討
3. 東京における接待担当者責任分担案の検討
4. その他

1. 外部との往復通信及び関連事項に関する協議

外信 18 について報告があり、そのうち

(あ) *Waller* (スウェーデン、ウプサラ大学教授) は相寄名の知れた大家であるので招請状(一応無招待のもの)を出すことに決定。

(い) *Neustein* (ウィーン) については名を知る人がなく、又照会するにしても、オーストリアにIUPAPの国内委員会がないので、大体断ることに意見が傾いたが、一応「貴簡によると、*non-attending member* として論文だけを寄稿される趣旨のように了解するが、本国際会議にはその制度がない」という主旨の手紙を出し、もし実際参加する意志を表明して来たら、又その時改めて考えることに決定。この際もし国費でも来日する程の人ならば参加を認めることもよからうという意見も出た。

ス、地方旅行コース改正案の検討

前回在京委員会決定の主旨に於いて小谷委員の立案した日及びコースの改正案を検討の結果別添付録1の通りのものを一応の案として了承。なお北海道内の旅行日程についてはこの案を北大に連絡の上再検討を委頓すること。

タ、東京における接待担当者責任分担案の検討

原案について検討の結果付録2の通り決定した。

なお、日光関係については、

- ア) 10日の物理学会講演をする *Matt* と *Slater* は谷委員が案内して10日の内に日光に先行するのを一案であること。
- イ) 11日からのシンポジウムは小谷委員が参加者を案内して日光に赴き、3つのシンポジウムの全般的総括を担当し、12日夕方シンポジウムを終えて帰京。
- ウ) シンポジウムに参加しない一般の外来者は12日に日光に行くかこれらの人達は山内委員が案内し、*excursion*の世話を担当、13日外入を案内して14日帰京することになる。

又東京見物については文相主催の昼の招宴が1時過ぎまでかかると考えられぬ。4時半頃までには歌舞伎座に到着している必要があるため、この間の時間では博物館観覧を大部分の時間が費されることになる。しかし博物館から歌舞伎座に赴く途中で適当なコースを送りお堀端、銀座等をバスの中から見物すれば一応東京見物の目的は達せられるとの考えを了承した。

開会式の挨拶は人数が多すぎるから〔註、現在予定者 *Matt*, *Slater*, *Anger*, 湯川, 亀山, 藤岡〕日本人側で挨拶する人の数を少し整理してはどうかとの意見も出たが、結論に到らなかった。

カ、その他

- ア) 次回物性専門部会開催について

(2)

在京ス1

6月11(木)・12(金)両日とし、11日の審議事項中在京委員会の議に付する必要があるものについてはその日の夕方の在京委員会にかけ、翌日これを報告決定するような日程が提案されて了承。

- イ) 本会議における日本側講演者について

Wheeler から小谷委員あての手紙 (外信19 Ch.467) をプログラムに日本側講演者の名前が出ていないとについて奇異の念を漏らして来ていることが報告されたが、これに対しては、6月の物性専門部会で日本側の講演題目及び講演者について決定の上次の回状にこれを掲載することになる。

丙

(3)

取扱注意

在京 スノ 補足

1. 仁科記念講演会について

仁科記念財団のために *Rabi* に講演を依頼する話が出たが、これについては、*Rabi* のために読売新聞が次回講演会を聞くことになっているから、その中、後の方の1回を仁科財団のと結びつけて聞くことがよからうということ、この線に沿って仁科財団及び読売新聞社と交渉することに決定。

この他同記念講演会のために *Bahr* からも *message* をもらうことになっている。

2. *Fleury* の講演について (藤岡委員長報告)

Fleury は専門の性質上本会議、各地方共講演の依頼が出ていないので、工大の植村教授にこのことについて相談したところ、日仏会館における講演を依頼し、又その宿泊設備を利用してもらうことはとの話であった。

しかし、日仏会館となると他にもフランスからの参加者があるので *Fleury* だけ日仏会館で講演を依頼し、その宿泊設備を利用するというのでは不都合なので、日仏会館については改めてフランス人参加者を集めて「日仏文化の夕」というような催しをすることなどの案が出た。

別 添

付録 1. 地方旅行コース改訂案

付録 2. 東京におけ接待担当者責任分担表

(2)

外信 19 補足

Ch 472 Matt → 藤岡委員長 (5/13 付) (外信 16 付録 Ch 345
 外信 18 Ch 296)
 関連

毎日新聞講演と若手研究者招請

毎日の講演は喜んで受諾する。この講演では *Quantum theory of matter* の進歩について話し、科学研究における国際協力について発言しようかと思う。
 講演はいくつでも引き受ける。むしろ盛沢山の宴会や無理な旅行の方が講演より大儀である。
 妻は家事の都合で同伴出来るかどうかわからない。
 若手研究者の追加招請については全面的に同意する。殊に *Lindlin* の参加は賛成である。

Ch 484 Matt → 藤岡委員長 (5/21 付) (外信 16 付録
 Ch 345 関連)

Matt 夫人来日不能の通知とその旅費の流用について

Matt 夫人は日本に行けないことになった。御高配は重ねて感謝する。
 ところで毎日としては Matt 夫人に対する招待を他の若手参加者に振り替えてその旅費に当てるようにしていたべくわけに行かぬものか。
 日本の大使館に旅券の査証を請求したところ、「普通は2日間を下りるが、自分は「特殊技術を導入するために日本に招へいする人」の分類に入るために2ヶ月かゝる」といわれた。この点日本から各出先公館に通牒でも出してもらって解決出来ぬものであろうか。

(3)

Ch 488 Fleury → 藤岡委員長 (5/18 付) (外信 16
 付録 Ch 365 関連) (外信 16 付録 Ch 365 関連)

旅費補助金の配分について

De Boer から925ドルで充分な旨通知があった。これを織り込むと配分案に次のようになる。

1. ロックフェラー関係 (計7000ドル)

	1次配分	予備金
Møller	680	—
Wheeler		650 (?)
Matt, Carlson Peierls (1000×3)	3090	—
Fröhlich	660	—
Bhabha	400	—
Massey (Matt 会長の意見でこれに十分)	1,000	—
計	5890	650 ?

2. ユネスコ関係 (計10000ドル)

	1次配分	予備金
Heisenberg	1,000	300
Dirigazine	1,100	—
Neel	1,000	—
Perrin	650	—
De Boer	925	—
Gorter	650	650
Hellier	1,000	290
計	6325	1240

従って未配分額は、

ロックフェラー関係	7000 - (5890 + 650) = 520
ユネスコ	10000 - (6325 + 1240) = 2435
計	17000 - (12155 + 1890) = 2955

(4)

Matt 会長の意見では、先ず Löwdin とフランスの理論物理学者の誰か (例えば Lévy 又は Proca) に半額 (例えば 700 ドル) ずつの補助金を申しせるのがよからうとのこと。

そうすると 1055 ドル (註これは 1055 のミスプリントであろう) 残るので上表記載の保留金の中から不要になるかも知れないものを加えれば新たに加った 3 人のための保留金として十分であり、場合によっては更にもう 1 人加えられるかも知れない。

参加者によつて旅費補助金の一部又は全部を日本に着いてから日本円で受取ることを希望する向きもあるから、その点ロルフ・エラーの方とも連絡を取つてこのような希望に沿うよう善処されたい。ユネスコ関係のものは従つて一部の金をドル貨で日本に送金するよう取計うつもりである。

London からは相変らず何の音沙汰もない。

Casimir から貴方にあてた手紙の写を受取つたが、彼の参加を喜ぶ。

マドリッドで久保田 (広東大生産技研教授 — 尤学会議出席) 氏にお会いすることが出来た。

在京	21	付録
1953.5.21		1

地方旅行コース改訂案

B 改訂案

9月	25日	大阪 — 奈良
	26	奈良
	27	8.45 AM 奈良発 準急列車 206号
	10.18 } 10.29 }	壺山にて 3440号列車に乘換
	11.49	鳥羽着
		昼食 (-----)
		御木本真珠養殖場見学
		鳥羽 → 賢島 (バス)
	4.00	賢島着
		夕食及び宿泊 志摩観光ホテル
	28	8.30 賢島発 宇治山田へ (バス)
		伊勢神宮 参拜
		正午 昼食
	12.45 PM	宇治山田発 名古屋へ (近畿日鉄)
	2.35 PM	名古屋着
	3.21 PM	名古屋発 特別急行列車 '鳩'
		車中に夕食
	8.30 PM	東京着
		ステーションホテル泊
	29	9.35 AM 上野発 仙台へ 急行列車 201号
	3.52 AM	仙台着 バスにて松島へ
	5.15 PM	松島着 Parkホテルにて夕食・宿泊
30日	午前	ランチで松島湾めぐり

9月	30日	11.00.A.M.	松島発 仙台へ (バス)
		12.30.P.M.	仙台着
			午餐及び宿泊 仙台ホテル
		午後	東北大学金研見学
		夜	観迎会
10	1日	午前	講演会
		4.02.P.M.	仙台発、青森へ 急行列車ス01号
			車中にて夕食
		11.59.P.M.	青森着
2		0.40.A.M.	青森発、函館へ 連絡便
		5.10.A.M.	函館着
		5.50.A.M.	函館発、札幌へ 急行列車1号
		11.47.A.M.	札幌着
			昼食 札幌グランドホテル
		午後	自由行動
		4.58.P.M.	乗札幌発 (バス)
		5.52.P.M.	定山溪着
			夕食及び宿泊 松月旅館
3		10.00.A.M.	定山溪発
		11.00	札幌着
		午後	北大見学
			夕食及び宿泊 札幌グランドホテル
4		午前	講演会
		3.00.P.M.	札幌発、登別へ 準急列車ス06号(にれ)
		5.16.P.M.	登別着 登別温泉へ バス
			夕食及び宿泊 登別グランドホテル
5	(終日)		洞爺湖遊覧 (バス)
			夕食及び宿泊 登別グランドホテル
6		3.00	登別温泉発 (バス)
		4.50	白老着 アイヌ村落見学

(2)

10月	2日	8.20	白老発 (バス)
		10.50	千歳飛行場着
		11.20	千歳発—東京 日本航空502便
		2.20.P.M.	東京羽田飛行場着

在京ス1
 付録1

内

C 改訂案

9月	25-28		B改訂案に同じ
	28	2.35.P.M.	名古屋着
	29	午前	講演会
		午後	名古屋大学見学
		夜	バスにて岐阜へ
			長良川の鶴飼い見物
			夕食及び休憩 長良川ホテル
		8.00.P.M.	岐阜発、名古屋へ
		9.00	名古屋帰着
	30	11.53.A.M.	名古屋発東京へ 特別急行列車2号 車中にて昼食
		5.00.P.M.	東京駅着
9月	25-28日		Cに同じ
	27	10.50.A.M.	名古屋発—松本行 夕ノ子号列車
		4.55.P.M.	松本着 バスにて浅間温泉へ
	30	9.00.A.M.	浅間温泉発 (バス)
		正午	上高地着
		午後	自由行動
			昼食、夕食及び宿泊 上高地帝國ホテル
10月	1	12.00.P.M.	上高地発 松本へ (バス)
		2.40.P.M.	松本着
		3.20.P.M.	松本発甲府へ (準急列車)
		5.52	甲府着 バスにて湯村温泉へ
			夕食、宿泊 ときわホテル

(3)

10月	2	午前	山梨大学 見学
		2.00 P.m.	湯村発・精進湖へ (バス富士吉田経由)
		5.30 P.m.	精進着 夕食及び宿泊・精進ホテル
	3	9.30 A.M.	精進発 一六月 (バス)
		11.45 A.M.	大月着
		12.06 P.M.	大月発 3412号列車
		2.05 P.M.	新宿着

取扱注意*

東京における総務担当者責任分担表

日附	行事	場所	総務委員会責任者							主催者側の担当者	会場の担当者	
			藤岡	山内	平田	武藤	茅	小谷	谷			朝永
9月 日 10 (木)	物理学会講演会 電気学会 (Bayarth) 講演会	東大			○			○				
11 (金)	(塑性シンポジウム) (分子シンポジウム) (宇宙線シンポジウム)							○		○		
12 (土)	日光 Excursion ※ 朝日講演会及座談会	東京-日光	○	○								
13 (日)	日光 Excursion (つばき) ※ 販売講演会 経田 連 招 宴	日光-東京	○ ○	○								
14 (月)	Registration IUPAP Exec. Committee 文相 招 宴 ※ 毎日講演会 日本化学会講演会	東大 学術会議	○ ○ ○						○		岡野課長	
	東京見物 日本物理学会招待観劇 外相 招 宴	歌舞伎座	○	○ ○	○ ○				○		中山事務官	
15 (火)	Opening Session 東大午餐会 IUPAP Exec. Committee 大学研究所案内 学術会議 Reception	東大 東大 向大講堂 南側控室	○ ○ ○					○		○		

在東 21
1983.5.27
行

外信 19
 1953.5.28

理論物理学国際会議に関する
 外部との往復通信一覧
 (5月21日 - 27日)

目 次

Ch	発信	受信	内容
450	岡 5/2	Flory	高分子シンポジウムに関する連絡
451	石原 5/2	Herman	高分子シンポジウムに関する連絡
452	岡 5/2	Kirkwood	高分子シンポジウムに関する連絡
456	朝永 5/2	Amaldi	宇宙線シンポジウムに関する連絡
457	朝永 5/2	Auger	宇宙線シンポジウムに関する連絡
458	朝永 5/2	Wheeler	宇宙線シンポジウムに関する連絡
459	朝永 5/2	Vallarta	宇宙線シンポジウムに関する連絡
460	藤原 5/19	有山兼存	外国科学者講演依頼の件
461	小谷 5/19	Slater (5/2)	講演 (開会式 物理学会 東京支部) に関する連絡
463	Flory 5/14	藤岡 (5/14)	本会議における講演題目通知及び本会議外の各種講演依頼
464	Bhabha 5/13	藤岡 5/2	旅費手続遅延の通知
467	Wheeler 5/15	小谷 (5/27)	物理学会講演受諾
468	小谷 5/21	Bloembergen	日光シンポジウムに関する連絡
473	Wheeler 5/15	龜山	執行委員会への招請状に対する応答通知
474	Fröhlich 5/14	藤岡 (5/20)	旅費遅延の見直しについて
478	藤岡 5/27	藤岡 (5/27)	講演依頼先との往復文書等の送附
479	藤岡 5/27	藤岡 (5/27)	
482	湯川 5/19	小谷	来日に関する連絡並びに Townes, Waller 氏の参加について
484	Matt 5/21	藤岡	旅券査証の件
485	Townes 5/18	藤岡 (5/21)	来日日程通知票送付並にその受領挨拶
486	Wentzel 5/19	藤岡	本会議における講演題目通知
487	Slater 5/20	小谷 (5/2)	若干研究者の旅費について

外信 19

Ch 450 岡委員 → Flory (5.12 発)

高分子シンポジウムに関する連絡

(プログラムを同封、これは 外信 19 付録1の通り)
プログラム掲載の会議中及び会議外講演を引き受けていただき
たい。旅費、講演謝金については出来るだけお世話する。

Ch 451 石原委員 → Hermans (5.13 発)

高分子シンポジウムに関する連絡

(プログラムを同封、これは 外信 19 付録1の通り)
貴下の出席が不確定のためプログラム中に貴下の名前を入れな
いでおいたが、参加は勿論ご希望する。お望みならば更に会
議外の講演をお願ひすることにし、その代り10日間分の滞在費
を負担する。

御参加については小生あての外、組織委員会にも御連絡ありた
い。

Ch 452 岡委員 → Kirkwood (5月12日発)

高分子シンポジウムに関する連絡

(プログラムを同封、これは 外信 19 付録1の通り)

Ch 450 と同文

Ch 456 朝永委員 → Amaldi (5.21 発)

宇宙線シンポジウムに関する連絡

このシンポジウムを催すことになった経緯を述べ本会議と比較
的かけ離れた議題について討議することを説明。

Underground experiments in Europe 及び Time
variation of energetic components に関する講演を依頼

前の回状において、日光行の日付について誤載を訂正。

日程を記載 (日程は 外信 19 付録2の通り)

このような題目について講演することについての都合を照会。

(2)

Ch 457 朝永委員 → Auger (5.21 発)

宇宙線シンポジウムに関する連絡

Ch 456 と略同文、但 Auger に依頼する講演題目は
Present situation on extensive air showers

Ch 458 朝永委員 → Wheeler (5.21 発)

宇宙線シンポジウムに関する連絡

Ch 456 と略同文、但し Wheeler に依頼する講演題目は
Problems on the origin of cosmic rays

Ch 459 朝永委員 → Vallarta (5.21 発)

宇宙線シンポジウムに関する連絡

Ch 456 と略同文、但し Vallarta は cosmic ray albedo
に関する講演を自分から希望して来ているので、これをこのシン
ポジウムに組み込むのが最も適当であると考える旨を述べて解を
求める。

Ch 460 宮沢幹事 → 名大有山委員 (5.19 発)

講演依頼希望の照会

Heisenberg には頼んだが Peierls, Onsager も同時に御
希望かどうか。

なお、Weisskopf, Dyson は不参加となり、未回答。

Ch 461 小谷委員 → Slater (5.19 付) (外信 18)

Ch 355 関連)

講演に関する連絡

正式の服装は必要ないこと。

開会式の挨拶内容は学術的のものでなく儀礼的のものであるこ
と。

物理学会の講演は本会議のものと同程度に専門的のもの、或は本

(2)

会議と同じものでもよいこと。
電気学会のものは初歩向きのもので、これらの技術者に *Physics of the Solid State* の重要性を認識させることに意義があること (40~50分)
京都、広島におけるものは電気学会と同程度又はやや高度のもの

本会議の日程への Slater の講演の組み入れ方に関する相談。
日光シンポジウム日程の紹介 (日程は付録3通り)

Ch 463 Plory → { 藤岡委員長 (5.14付) (外信16) Ch349 関連)
小谷委員 (5.14付)

本会議における講演題目通知及び本会議外各種講演依頼応諾

本会議では、"The configuration and properties of Polymer molecules in dilute solution" について、これにおいて molecular configuration 並びに dilute solution の viscosity 及び frictional property の問題の現状について一般的な Review をするつもり。

本会議外の講演会では上の講演を幾分形を変えて話すか、又は全く別に例えば *The dynamics of crystallization in polymer systems* について話してもよい。これらの講演会では素人向きの広い、一般的な話をすべきか、高分子の最近の研究について話すべきなのかわからないから御意見を伺いたい。

Ch 464 Bhabha ↔ 藤岡委員長 (5.13付着信) (外信10)
5.22付着信)
Ch 62 関連)

旅費半額調達見込通知

ロッキーフエラー補助金の不足分は自己調達の見込しがついた。

(4)

Ch 467 Wheeler → 小谷委員 (5.15付) (外信13)

Ch 272 関連)

物理学会講演受諾

講演題目については御意見を伺わなければならないが、今考えているものでは ① *The collective model of the nucleus* 又は ② *General comments about the situation in elementary particle physics* 以上について御意見を聞き次第その概約を書いて山内教授に送る。

国際会議の準備は非常に手際よくやっておられるので皆感心しているが、一つ我々の気がかりになることは、プログラムの会議日程中に日本人講演者の名前が出ないことである。日本の研究者の業績についても発表されるよう望む。

Ch 468 小谷委員 → Blaembergen (5.21発)

日光シンポジウムに関する連絡

本会議及び日光会場における Blaembergen の講演予定日通知。

日光シンポジウムの日程通知 (同シンポジウムのプログラムは外信17 付録3)

原案に対する批判を求める。

Ch 473 Wheeler → 会長 (5.15) (外信11) Ch 177 関連)

連)

執行委員会の招請状に対する応諾通知

Ch 474 Fröhlich → 藤岡委員長 (5.14付) (外信14)

Ch 300 関連)

旅費調達の見通しについて

自分のために割り当てられたユネスコ補助金 660ドルに対する不足分は自己調達の見込が立った。

(5)

Ch 478

藤岡委員長 →

- ① 北大古市教授
 - ② 東北大広根教授
 - ③ 阪大伏見教授
 - ④ 九大小野教授
- (5.27発)

講演依頼先との往復文書等の送付

- Matt. Néel
- Matt Néel
- Bozorth Matt
- De Baer, Flory, Heisenberg, Prigogine

夫々以上の各外来物理学者との往復通信文書の写を同封、なお各大学で先方と直接連絡のある場合は写を事務局あて送付依頼。

Ch 479

藤岡委員長 →

- ① 日本化学会会長
 - ② 電気学会会長
 - ③ 高分子グループ石原委員
- (5.27発)

講演依頼の外来物理学者との往復文書等送付

- ① Coulson Flory, Mulliken
- ② Bozorth, Slater
- ③ Flory

以上各人との往復文書を夫々同封

Ch 482

湯川委員 → 小谷委員 (5.19付)

来日に関する連絡並に Toanes, Waller, 渡辺慧の参加について

6月末迄=ニューヨーク滞在、ヨーロッパ廻り帰日の予定。
Towner のような人は日本で物理だけでなく電気関係方面でも大に利益が得られると思う。(講演) 希望があつたら連絡するから、申出られたい。同氏は都合で本会議の中途で帰米するかも知れないが早目に来日の希望である。
Stockholm で懇意になつた Waller から参加希望の連絡があつた。
他の招請者との釣合を考慮して便宜を計つていきたい。
渡辺慧氏の出席の実現を望む。

Ch 485

Towner ↔ 藤岡委員長 (5.19付) (外信 11)

Ch. 217 関連)

来日日程通知票送付並にその受領挨拶

7月9日 米単輸送機で着日
同 19日 " 離日
日光シンポジウムに参加

Ch 486

Wentzel → 藤岡委員長 (5.19付)

本会議における講演題目通知

題目は *Newest experimental results on pi-mesons obtained by the Chicago cyclotron group, possibly with an analysis from the view-point of current theory* 更に、これは或は *Informal session* での方が適当かと思われるが、*Recoil corrections in strong coupling meson theory* について話したい。このことについては最近自分の研究が些か進展した。

以上のようなもので会議のプログラムにしくり行くかどうか伺いたい。

Ch 487

Slater → 小谷委員 (5.20付) (外信 16)

Ch 355 関連)

若手研究者の旅費について

Paris と *Yang* については ONR ならびに空軍に単用換便乗に関して願ひ出ることは無駄ではないと考える。
Laudin については、同氏が最近ウプサラ大学から帰国で、1953年11月から翌3月まで M.I.T. の自分のところに来ることになつたので、その前に国際会議に参加することが彼にとつて可能であるかどうか疑問である。
Wheeler の旅費については、N.S.F から出るものと思ひ込入っていたが、このことについては、*Wheeler* に手紙で聞いて見

る。

他の若手研究者の追加招請については、時期が相おそく、旅費等について今からでも追加出来るかどうか分からないが、米国内の招請希望者のリストを連絡下さり次第、自分からもそれらの人達に手紙を出して、旅費について出来るだけの世話してやる。

外二

(8)

高分子シンポジウム日程

外信	19	付録
1953.5.28		1

Ch.452

FUJI-HAKONE SYMPOSIUM ON HIGH POLYMERS

Under the auspices of
Shizuoka University

with the collaboration of
High Polymer Physicists' Group of Japan

Prof. T. Inokuchi (Shizuoka Univ.)
Prof. S. Oka (Kobayasi Inst. Phys. Res.)
Prof. A. Amamiya (Faculty of Tech., Univ.
of Tokyo)
Dr. A. Isihara (Faculty of Sci., Univ. of
Tokyo)

September 16
a.m. 8:30 Leave Tokyo
11:00 -- p.m. 2:00 Excursion by motor-car
in Hakone
p.m. 4:00 Arrive Shizuoka City
7:00 -- 9:00 Colloquium on "The Vis-
cosity of High Polymer
Solutions"

Speakers: 1. Japanese Physicist (10 min.)
2. Prof. J.G. Kirkwood (20 min.)
3. Japanese Physicist (15 min.)
4. Prof. P.J. Flory (20 min.)

Free Discussions

September 17
a.m. 9:00 -- 10:30 Sightseeing in and around
Shizuoka City
11:00 -- p.m. 0:30 Popular Lecture
Speakers: 1. Prof. J.G. Kirkwood (30 min.)
with a Japanese interpreter
2. Prof. P.J. Flory (30 min.)
with a Japanese interpreter
p.m. 0:30 -- 2:00 Welcome Reception by the
President of Shizuoka Univ.
and the Governor of Shi-
zuoka Prefecture
3:00 Leave Shizuoka
7:51 Arrive Kyoto

KANSAI SYMPOSIUM ON HIGH POLYMERS

Under the auspices of
High Polymer Physicists' Group of Japan

September 23
 p.m. 5.30 --7.00 Dinner
 7.00 --9.00 Colloquium on "Charged High Polymers"

Speakers: 1. Japanese Physicist
 2. Prof. J.G. Kirkwood
 3. Japanese Physicist
 4. Prof. P.J. Flory

Free Discussions

September 24
 a.m. 9.30 --10.00 Visit Research Institute of Toyo Rayon Co., Ltd.
 11.00 --12.00 Popular Lecture by Prof. P.J. Flory with Japanese Translation
 afternoon free

宇宙線シンポジウム日程 Ch.456

外信	19	付
1953.5.28		録 2

Phenomena at very high energies

(I) Sept 11th afternoon.

- 1) P. Auger: Present situation on extensive air showers
- 2) Y. Fujioka: Observation of extensive air showers at sea level
- 3) J. Nishimura: Lateral structure of extensive air shower
- 4) E. Amaldi: Underground experiments in Europe
- 5) Y. Watase: Underground experiments at small depth
- 6) Hayakawa: Interpretation of underground cosmic rays.

(II) Sept 12. morning

Time variation of Cosmic Ray Intensity.

Main speakers as discussion leaders will be

- 1) S. Vallarta: Cosmic ray albedo
- 2) M. Wada: Atmospheric effects
- 3) T. Nagata: Geomagnetic effects
- 4) J. Nishimura: Orbits of cosmic ray particles from the sun
- 5) E. Amaldi: Time variation of energetic components
- 6) Y. Sekido: Diurnal variation
- 7) J. Wheeler: Problems on the origin of cosmic rays
- 8) S. Hayakawa: Origin of cosmic rays

分子物理学シンポジウム日程

Ch.468

外信	19	付録
1953.5.28		3

Sept. 11 (Kanaya Hotel)

2.00 - 3.40 Slater: Report of work on molecular theory in M.I.T. (If this will not be scheduled in the main session)
*: Report of work in Japan in the same field.

(tea)

4.10 - 6.00 Coulson: Introductory talk on large molecules.

*: Work on π -electron systems in Japan.

(Symposium dinner)

8.00 - 9.40 Mulliken: Donor-acceptor interaction.

*: Theory of intermolecular collision

Sept. 12 (Kanaya Hotel)

9.30 - 11.00 Townes: Progress in microwave spectroscopy.

*: Microwave studies of free molecules in Japan

11.10 - 12.40 Bloembergen: Radiowave study of H₂

*: Nuclear resonance studies in Japan

Lectures marked with * will be given by Japanese participants:

取扱注意

在京 22
1953.5.28

国際理論物理学会議組織委員会 在京委員会(才22回)記録

日時：昭和28年5月28日(木) 午後5時17分30分
会場：日本学術会議会員控室
出席者：藤岡、小谷、武藤、山内、小林、宮沢各委員
(事務局 竹下、吉田)
議題：1. 委員長報告
2. 外部との往復通信に関する報告及び協議

1. 委員長報告

- あ) 寄附金の件は、石川一郎氏が外遊に先立つて本会費後援を引
き受け、経団連の専務理事の福島氏に伝言さして行かれたの
で、福島氏と今週初に面会したところ、極めて理解ある積極
的態度を示して呉れて、250万円の割当について配慮中で
ある。
- い) 宮沢幹事より話のあつた東京証券取引所からの寄附を仰ぐこ
とについては宮沢氏から証券業協会会長の小池厚之助氏(山
一証券社長)に話してくれたので、5月29日藤岡委員長と
宮沢幹事とが小池氏を訪問することになった。
- う) 宮沢幹事が一身上の理由で近く辞任するの止むなきに至つた
経緯の説明と、代理の人を探がす事になった旨の報告を了承
2. 外部との往復通信に関する報告及び協議

外信19 について事務局から説明、外信19補足のCh484
のMatt夫人の旅費の流用については、本国際会議開催に関
してSlaterに非常に世話になっているのでSlater夫人を
招待することにはどうかという意見も出たが、英米両国が
(1)

らの旅費の所要額が相当違うことなどを考えて、これは無理だ
ろうということになり、結局 *ch. 488* の *Fleury* の手紙に
対する回答とも関連して、旅費補助金の未配分額をイギリスの
Frank にも配当することにし、*Matt* に対しては、他に意
中の人があるかどうか問い合わせることに決定。

ch. 488 の *Fleury* の旅費補助金の残額の配分につい
ては、*Löwdin* の他「フランスの物理学者の誰か」との相談に
対しては *Lévy* は、既に旅費の自己調達が出来た旨連絡して来
ているから *Praca* に配分することとし、その他上述の *Frank*
を入れて、これらの入達が皆来られるよう各自への配分は、
Fleury に委せることに決定。

外信	20
1953.6.4	

国際理論物理学会議に
関する往復通信一束
(5月27 - 6月3日)

Ch. 495 会長 → Waller (5.27付) (関連外信 18
ch. 440) 正式招請状

ch. 498 小谷委員 → Löwdin 5.26付 (関連外信 19 ch.
487, 外信 17 ch. 378, 外信 16 ch. 355)
旅費補助割当通知及び本会議ならびに日光のシンポジ
ウムの日程について

旅費補助 700ドル出すことになった。必要額の残りの分配調
達の見通通知ありたい。

本会議に *Quantum theory of molecules* に関する講
演を頼む。他に日光でも分子物理学について討議する。(日光シ
ンポジウム日程記載)

以上の日程について意見を請う。

ch. 499 Auger ↔ 藤岡委員長 5.20付 (関連 外信 16
ch. 344)

参加不能通知とその受領あいさつ

講演依頼を頂き感謝するが、7月に日本に趣くことは不可能に
なった。

11月にマニラで開かれる太平洋学術会議に出席しなければなら
ないことになり、その折日本に立ち寄るか、来日の時期が物理学
学会議と一致出来ないことは誠に残念である。

ch. 500 Heitler → 藤岡委員長 5.21付 (関連 外信 16
ch. 291)

(1)

Reply form 送付・旅費補助について

来日日程は9月8日着、9月26日発、日光 Excursion 参加、その他Cコースに参加するかも知れない。

旅費については Fleury から多分全額補助が出る筈との連絡を受けた。

ch 541 Lévy → 藤岡委員長 (5.24付) 関連 { 外信18 ch 323
外信17 ch 328

参加の可能性が増加した。というのはフランス政府のスタッフ部局で私の日本行の旅費について面倒を見ること承諾して来た。

又 Fleury の話では IAPAP から補助が得られるかも知れないと云うことである。

ch: 510 Gorter → 藤岡委員長 (5.21付) 関連 外信14
247/248/26

旅費半額補充可能の通知

オランダ文部省が旅費の半額補助を承諾してくれた。

ch 511 Van Vleck → 藤岡委員長 (5.21付) 関連、外信8
ch 139)

参加申込書同封及び来日日程通知

1. 参加申込書同封
2. 自分は Mrs. Van Vleck と Bozorth 夫妻と同行し、世界一周の計画を立てている。
今のところでは9月4日頃羽田に着く予定である。
3. Bozorth も自分も仕事の手で本会議が済むと出来る
大早く発たねばならぬ。
従って本会議後の Excursion に出られないのを残念に思う。

ch: 513 Heisenberg ← 藤岡委員長 (6.2付) 関連、外信
16. ch. 364

4220

Heisenberg 夫人の来日についての連絡と本会議中に於ける講演会の依頼

時期が切迫して来たので夫人の来日の手当もすゝめたいが連絡を請う。

来日本会議の折に若い研究者や学生の爲に講演会を開きたいのでお引受け願う。

ch: 515 Matt ← 藤岡委員長 (6.2付) 関連 ch: 542
Landau の招請について

Landau からは再の招請に対して何も応答がないが、それは

- a. 日ソ間の郵便連絡が悪いが
- b. ソ連では個人あての招請は歓迎せず、この種の招請はそれぞれ機関長あてに出すべきものであるのか何れかの理由によるものと想像して、a.の点に対しては昨年12月に Fleury に Landau との連絡を託したところ、Fleury は直ぐに手紙を出して呉れたが、最近の手紙で今迄何も反響がないと云つて来た。

そこで b. の点に基いてソ連アカデミーの長に招請状を出そうかと思うが、その前にこの種の問題に対して正しい対策を暗示するような前例を貴下が御存じないか、伺いたい。

ch: 516 Slater ← 藤岡委員長 (6.2付) 関連 ch 542
Landau の招請について

ch: 515 と同文

ch: 532 Bozorth → 藤岡委員長
参加申込書及びその受領挨拶

ch 533 Anderson ← 藤岡委員長 関連 外信4 ch: 57
参加申込書送付及びその受領挨拶

ch: 5.3.8 北大古市教授 — 藤岡委員長 (18.ス付)

地方旅行コース案について

改訂コース案についてそちらの御意見を伺う。

外 信 21
 1953. 6. 12

国際理論物理学会議に関する
 外部との往復通信一束

(6月4日 — 11日)

目 次

整理番号	発信者	発信	受信者	回答	件 名
502	事務局長	5/30	外務次官 大蔵次官		外人参加者に対する便宜依頼状
523	小谷委員	6/1	Kirkwood		本会議講演日程予定、地方講演依頼
524	"	6/1	Krishnan		講演について
525	"	6/1	Seitz		本会議講演日程通知及び地方講演依頼
526	"	6/1	Slater		若手研究者招請状発送通知 Kowdin の来賓について
539	Bloembergen	5/25	藤岡委員長		講演題目について
540	Flory		岡 教 衣		講演題目についての連絡
541	Lévy	6/12	藤岡委員長		参加来賓について
542	Mulliken	5/27	小谷委員		化学学会の講演題目について
543	Mott	5/27	藤岡委員長	Ch 515 ごすみ	来日日程について
558	Wheeler	5/26	小谷委員		来賓来連可能通知
559	藤岡委員長	6/6	Flory		光学研究グループの局の講演会依頼
560	Fröhlich	5/27	小谷委員		本会議の講演について
571	Møller	6/1	藤岡委員長		本会議講演題目と参加申込書、同時通知
				6/8	及びその回答

573	Ma	6/2	湯山会長	参加辞退
574	Teller	6/2	藤岡委員長	参加者推薦状
577	有山教授	6/2	"	外国科学者の講演依頼について
578	Keller	6/4	"	プログラム送付依頼
579	Barton	5/14	"	案内状受領挨拶
580	Yang	6/4	会長	参加不能通知
581	Koehler	6/5	"	来日日程通知乗送付・講演題目通知
582	Matthias	6/4	"	参加辞退通知
583	Waller	6/7	{藤岡委員長 小谷委員}	参加に関する都合通知
584	Köwden	6/6	藤岡委員長	参加の都合及び講演題目通知

外信 2/

Ch 502

事務局長 → {外務次官
大蔵次官} (5月30日付)

(関連外信/9 補足 ch 484)

外人参加者に対する便宜依頼状

外務省に対しては各参加者に対する旅券の査証交付。大蔵省に対しては祝賀通関についてそれぞれ便宜取計を依頼する文。

(これは Ch. 484 の Moit からの手紙に同氏が在英日本大使館に旅券の査証を請求したところ、2ヶ月か、ると云われたと云って来たことに関連して外務省事務当局と連絡の上取った処置)

Ch 523

Kirkwood ← 小谷委員 (6.1付)

本会議講演日程予定

地方講演依頼

"Theory of Liquid State" の貴講演は 9月21日の午前に予定しているが、この日には transport phenomena について討議する予定である

貴下の講演題目の内容が transport phenomena に関係がないならば J. Mayer が同じ題目について講演する 9.19日に予定した方が適當ではないかと考えるのだが、之について貴方の題目の内容の概要の一片を教せて頂きたい。

その他 9.18日に Visco-elastic properties of high polymer solutions をお願いしたい

静岡と京都の非公式の講演依頼

外信 2/

Ch 524 *Krishnan* ← 小谷委員 (6.1付)
(関連 外信 17 Ch: 401)

講演について

講演題目の中の "Polarization field in ionic crystals" は本会議のプログラムの中に組み入れられると思うが、他の electron emission についてのものは、既にプログラムが相当つまっているのだから組み入れられるかどうか解らない。併し非公式の会合で解決される機会の有る事を希望している。

Ch 525 *Seitz* ← 小谷委員 (6.1付) 関連 ch: 56

本会議講演日程通知及び地方講演依頼

- Sept. 18 Morning: *Kirkendall effect*
Sept. 23 Morning: *Theory of colour centres*
- その他の講演依頼
日光、 阪大、 広大

Ch 526 *Slater* ← 小谷委員 (6.1付)
関連 { 外信 19 ch: 487
外信 16 ch: 355

若干研究者招請状発送通知

Lowdin の旅費について

若干研究者に正式招請状を発送した。
Flory の意見に従って *Lowdin* に 700\$ の補助金を配分可能の旨を通知した。

フランス科学者1名については *Proca* を考えている。

Ch 539 *Bloembergen* → 藤岡委員長 (5.25付)

関連 { 外信 19 ch: 468
ch: 21.559

講演題目について

"Magnetic Relaxation in Solid" の講演は引き受ける。他の講演は "Some Recent Advances in Radio frequency Spectroscopy" に変更したい。

Ch. 540 *Flory* → 岡教授 (関連外信 16 Ch: 349)

講演題目についての連絡

本会議講演題目

- Sept. 16 "Intrinsic Viscosity in Ideal Systems"
- Sept. 17 "Physical Chemistry and Technology of Nylon"
- Sept. 23 "Donnan Eq. equilibria and Molecular Configuration"
- Sept. 24 "Physical Chemistry and Technology of Nylon"

一般講演の題目を考えて頂きたい。聴講者の水準について報告頂ければ講演の準備上大変有難い。

外信 21

Ch. 541 Lévy ← 藤岡委員長 6.12付
内連外信 20. Ch: 541

参加旅費について

旅費調達の見通しがついて来た白結構である。旅費補助金の配分については Fleury と緊密に連絡を取っているが貴下の参加が実現することを望んでいる

Ch. 542 Mulliken → 小谷委員 (5.27付)
内連 (外信 16. Ch: 350)

化学学会の講演題目について

化学学会の講演題目は引き受けるが、日光の討論会の講演と類似したものでもよいかと思う。

日本には3週間以上滞在できない。

自分は8月27日まで英国が欧州にいるから8月26日迄の手紙は St. Ignace College 宛に送って貰った方がよし。

Ch. 543 Mott → 藤岡委員長 (5.27付)
内連 (外信 Ch: 325)
Ch: 267

来日日程について

9月8日に東京に着く旅に予約してよいか、もっと早く来る必要があるかどうかを伺いたい。

(回答は前出 Ch. 515 の追伸ですみ —— 「9月8日着で結構である」)

Ch. 558 Wheeler → 小谷委員 (5.26付)
内連 (外信 19 Ch: 487)

旅費調達可能通知

N.S.F が自分の全額旅費の負担を確認してくれたので 御配慮頂いた 650 円は誰か他の人にまわして頂きたい。

Ch. 559 藤岡委員長 → Fleury 6.6付

光学研究グループのための講演会依頼

日本の光学研究グループが御来日の機会に講演されることを希望している。

日程は9月10日 Institut d'Optique における御仕事についての講演とニミの研究所視察。9月11日 日本光学工場視察。

上の外、京都で講演をお願いする講演はフランス語で通訳をつける。8.9.10. 3日間の滞在費は負担する他、講演謝金30,000円差し上げる。日光 excursion に参加することをすすめる。

Ch. 560 Fröhlich → 小谷委員 (5.27付)
内連 (外信 Ch: 433)

本会議の講演について

5.21付の貴下の手紙に対して dielectrics についての講演は super conductivity とは全然関連がないとは云えないが、準備になる性質のものと考えて必要はないと申し上げたい。

しかし自分の都合としては出来れば liquid helium の講演会に自分も自ら出席してみたいと思っている。

外信 2/

Ch. 571 Moller \longleftrightarrow 藤岡委員長 (6.1 付)
6.8 付
関連 外信 1/ Ch. 217

本会議講演題目と参加申込書同封通知
及びそれに対する回答

本会議には *On Field Theories with Non-local Interaction* について講演する積りである

Reply form も同封する

回答 参加通知票及び講演題目受領挨拶。有講演をどのように日程に組み入れるかは、プログラムが未だはっきり決まっていなからわからないが、確定次第お知らせする。

Ch. 573 Ma \longrightarrow 龜山会長 (6.2 付)
関連 外信 17 Ch. 378

参加辞退

5月2日付の招請状を送って頂いた申を感謝する
参加できれば大変嬉しいのだが、旅費が高いので御招待をお受けすることができない。

Ch. 574 Teller \longrightarrow 藤岡委員長 (6.2 付)

参加者推薦状

Marshal Rosenbluth を推せんしたい。彼は今 Los Alamos で研究に従事しているが、彼の最近の二つの論文は *liquid state* の問題を解決に一步近づけるものである。

彼を招待して貰えるなら Los Alamos で旅費を出すと云っている。

彼の二つの論文は *explicit calculation on the MANAC* (電子計算機) による *liquid state* の問題の解法を試みたものである。

Ch. 577 有山教授 \longrightarrow 藤岡委員長 (6.8 日付)
関連 (外信 19. Ch: 460)

外国科学者の講演依頼について

5月19日付御照会の件につき、再検討の結果改めて次の様にお願したい。

a. 講演依頼: Heisenberg (従前通り) (1名)
b. 末字の上 *discussion* の機会を作って欲しいと希望する方々:

素粒子: Afang, Pais (2名)

物性: Kadanoff (可能性少ないが願望を以て)

Gorter, Fröhlich (3名)

Peierls, Onsager (Weisskopf, Dyson) については委員会から依頼状が発送前ならとり止めて頂きたい。

Ch. 578 Keller (Niederländische Naturwissenschaftliche Vereinigung)
 \longrightarrow 藤岡委員長 (6.4 日付)
プログラム送付依頼

Ch. 579 Barton \longrightarrow 藤岡委員長 (5.14 付)
関連 (Ch: 250)

案内状受領挨拶

外信 21

Ch. 580 Yang — 龜山会長 (6.4付)
関連 (外信17 Ch. 378)

参加不能通知

御招待を頂いて感謝するが、参加できないのが残念である。

三
内

Ch. 581 Koehler — 龜山会長 (6.5付)
関連 (外信17 Ch. 378)

講演題目について、末日日程通知兼同封

自分は固体論一般、特に転位論に興味を持っている
若し之でいいなら転位速度についての論文を提出したい。

Ch. 582 Matthias — 龜山会長 (6.4付)
関連 (外信17 Ch. 378)

参加辞退通知

参加できなくて残念である。

Ch. 583 Waller — {藤岡委員長
小谷委員} (6.7付)
関連 (外信17 Ch. 378)

参加に関する都合通知

御招待を受けたことを心から感謝する。スウェーデンから旅費の
大部分を出して貰うことを期待している。之が解決する迄は参加
できるかどうか解らない。ユネスコの補助金は既に配分済だろ
うか。

(10)

Ch. 584 Rowdin — 藤岡委員長 (6.6付)
関連 (外信20 Ch. 498)

参加の都合及び講演題目通知

出来るだけ都合して参加したい。往復旅費は700ドルの補助
がいただければ、残りは多分スウェーデン側で賄える。

日光の分子物理学シンポジウムと本会議に参加したい。日光で
はウプサラで行った self-consistent-field atomic wave
functions の molecular integrals の計算について報告し
たい。

本会議での講演題目については御意見を伺いたいが "Calcu-
lation of energy levels in molecules and in crystals"
などはどうだろうか。

(11)

取扱注意

外信	2/	補
1953.6.12		足

国際理論物理学会議に関する外部 との往復通信一束 (補足)

ch 514 藤岡各員長 → Rabi 6.4 付

来日日程照会・販売講演題目通知・開会式講演及びに科

記念財団のための講演依頼

会期が迫るので、大入の切符について手配したいが来日日程を
お知らせ願う。

販売からの申出は

オノ回講演 (9月/3日 東京) 「原子力文化と日本」

オス回講演 (大阪) 「原子力の将来」

オヨ回講演 (東京) 「原子力と日本の素粒子論」

寄稿 オノ回 (来日前) 「科学日本に寄す」

同 オス回 (滞日中) 「独立日本の印象」

上の題目は御気遣いにかかせる適当に変更されることは勿論結構で
ある。

オノ回の講演の日取の関係上日光行の *Excursion* には参
加出来なくなるが、特に他に御希望がなければこの *Excursion*
と独立に日光に御案内するよう新聞社に交渉するつもりである。

開会式にやゝ専門的な公開講演をお願いする。演題については
全くおまかせする。他に *Heisenberg* にも同様のものをお願い
した。

に科記念財団で記念講演をお願いすることを考えている。詳し
いことは改めて連絡するがよろしく頼む。

Ch: 557 Bhabha - 藤岡丞貞長 岡連 (外信 ch: 136
ch: 99)

講演の日程についての問合せ

講演のプログラムの日程についてノス箇所明確でない点について伺いたい。

期日の講演会の期日はその右決定いただけるか。貴方からの2月ノス日付 ch. 99によると、講演会は2月ノス日、座談会はノス日又はノ3日(何れも東京)、大阪では講演会が24日又は25日となっている。2月ノ9日は送付のプログラムをみると2月23日が会議の最終日になっている様であるが2月24日夜本会議後-----とあるのを見ると会議は24日迄有る様に見える。

2月ノ9日付の4番目の Paragraph の Guide Book を未だ受取らないので Copy を送つて頂きたい。

在京	23
1953.6.4	

国際理論物理学会議組織委員会 在京委員会(才23回) 記事

- 日 時 : 昭和28年6月4日(水) 午後5時 ~ 9時
会 場 : 日本学術会議会員控室
出席者 : 藤岡、野永、小谷、武藤、山内、谷
(事務局、吉田、肥後、山越、高杉)
議 題 : 1. 委員長報告並に関連協議
2. 実行予算の検討
3. 外部との往復通信に関する報告並に関連協議
4. 専門部会と在京委員会との連絡について
5. 本会議中の行事について

1. 委員長報告並に関連協議

(a) 参加有用バッジについて

「吾大の上野学長に図案をお願いして来た。図案についてはどんな内容のものにしたいのか見当をつけて欲しいとがことであつた。」

上について協議の結果日本語の「物理」という字を国策化したものを主題とし、まわりに幾何学的な様模様のつけた前形のものにすることに決定。名前札、役員章は別に作り、バッジだけの独立したものとする。又これと平行に事務局出入りの商店に図案・製作を依頼した方が却つて空価に上るだろうという意見もあつた。

2. 実行予算の検討

寄付金の見通がある程度ついた現段階に即した実行可能な予算案について武藤・小谷・山内の各担当委員と事務局 会計当局の間で練った原案について逐項審議。結果は更に肥後会計課員の手で整理すること。この資料は末道藤岡委員長が京都・大阪への出張連絡の際の資料にもすること。

3. 外部との往復通信に関する報告並びに関連協議

(a) Landau に対する連絡について

このことにつき、Matt, Slater に対して外信 20 ch, 5/5, 5/6 の通り連絡した旨報告。なお Fleury には Matt への手紙の写を送る。

4. 専門部会と在京委員会との連絡について

両専門部会の委員と在京委員会との間に意思の疎通を計るため次回の両専門部会の会合の際在京委員との懇談の機会を作ること了承。

5. 本会議中の行事について

素粒子関係の若い人達の間に、学友達だけで寛いで歓談する機会が一度欲しいという希望があることが伝えられ、9月20日の奈良行の代りに素粒子関係の希望者を集めて叡山への遠足をするなどの案も出たが、前日の土曜の夕方、京都見物の方々が気分的にも寛いでよかろうという意見もあつて、詳細は京都側と相談の上決定する。又物性関係も同時にこれと平行に同種の集りを催すことを了承。

この催しはプログラムに組み入れることとし、予算として両部門に10万円を、実行予算の予備金から振り当てる。

又奈良行の20日には地方旅行のCコース(大和巡り)に参加して奈良はどうせ行くことになる人達、その他希望者のために平行に叡山行の遠足も計画することを了承。

取 扱 注 意

在京	23	補
1753, 64		足

国際理論物理学会議組織委員会
在京委員会(才23回)会合記事補足

1. 委員長報告並に関連協議 (補足)

(1) 寄付金募集について

「遊沢敬三氏から話をかけておいてもらった証券協会を長小池
厚之助氏、又更に証券取引所の鈴木書記長及協会の吉田事務理
事に会つて来た。同氏等の話では各業者に適当な割合を振り当
てた上、学術会議事務局に連絡するとのこと。

その他岩波書店・大日本図書にも話をもちかけておいた。」

2. 外部との往復通信に関する報告並に関連協議 (補足)

資料は外信 20。

(1) 旅費補助金の配分 (Fileury からの手紙外信 19, ch 188
に対する回答)

未配当の分 (4205ドル) に保留の分 (300ドル) から
増くかも知れない額を加えて ① Löwdin, Lévy ② praca,
③ Frank ④ A. Bohr の優先順で米百出来るよう適当に
配分することを Fileury に一任すること。次に万一既に配分
の決定している人で参加が中止になるようなことがある場合は
その人になるべく同じ国の人を代理として推せん申し出させ、
Matt と相談の上補助金を振り替えることを Fileury に一任
すること。

④ の A. Bohr は Niels Bohr の子息で立教大の豊田氏が
Bohr 家を訪問した折の話として、参加中止となった久石の代

りに来日されたらどうかと話したら父子共非常に喜んで出、この人はこちらとしても呼んでいゝ人だが、核物理学のことが最初主題でちがつたので候補者に入つていなかった。
仁科記念財団が Bohr とは特別な縁が深い関係で招請費を負担するという働きもあるが、資金もまだ豊かでないので、出来れば幾らかでも外来の補助金で賄ってもらえればそれだけ助かるという意味で加えることも了承。

中
断

在 京	13	付 録
1953.6.4		1

国際理論物理学会義所等経費

項 目	所 要 額	国庫支出	差引不足額	備 考
外国人招請旅費	3740 円	2,349 円	1,391 円	当日 九
自動車借上料	372 円	152 円	220 円	
旅行対価経費	377 円	0 円	377 円	加付費外 以下に記す
組織委員会旅費(準備)	1,872 円	1,045 円	2,620 円	日本人側
国際会議出席旅費	1,793 円			
人件費(平寄、謝金賞金)	1,045 円	150 円	895 円	
会議報告印刷費	2,660 円	926 円	2,660 円	
物品通信、印刷、借料等	1,284 円			
会議費	1,191 円	425 円	766 円	国費は 会議に27,750 円
その他予備金	200 円	0 円	200 円	会議前到着者 地方旅行を含む 予備金
合 計	15,034 円	5,047 円	9,987 円	

寄付金募集額 10,000,000 円

在京	19
1953.6.8	

国際理論物理学会議組織委員会 在京委員会(才19回)会合記事

- 日時：昭和二十八年六月八日 午後五時～八時三十分
場所：日本学術会議会員控室
出席者：藤岡、小谷、武藤、山内、青山、宮原各委員
(事務局、吉田、山越)
議題：
ノ、委員長報告
ニ、物性専門部会才々回会合報告
ハ、参加者用バッヂについて
ケ、物性関係で湯川記念館を利用することについて
コ、来日科学者招待講演に関する北大の希望

ノ、委員長報告

前回の会合が少人数であったので前回の様子の報告があり、その他寄付については最近、原、石川両氏に面会したこと、石川氏は近々海外出張になるが、引き継ぎを確約されたこと、ノマヨタ方の経田連その他財界合同レセプションについて了解を得たこと、(それに関連して日光からの帰京時間が繰り上げられないかどうか検討を要することが認められた。) 都のレセプションは断つたこと、などについて報告された。

なお、ノ四日の歌舞伎観覧の際、幕間ではサンドイッチ程度の接待とし、六時頃切り上げて外相のカクテル、パーティーに望み、ホテルに帰って夕食ということになることを了承。

又その朝の登録(Registration)は東大講堂玄関又は会議室(前回記録

在京	18
1953.4.30	

 3頁18)の「東大正門は羨り」とすること

を確認。なお、登録用カードは末日早々に各参加者に手渡しておき、登録当日提出してもらうようにすることが適当であると認められた。

招待委員会としては学術会議・学士院主催の招宴の具体的計画に力を注ぐこと。しかし全体の計画の見通を把握して行くために計画表(宮沢幹事立案)について藤岡委員長、山内委員、宮沢幹事の人で別に会合して検討することを了承。

ス. 物性専門部会オキ回会合(5月3日大阪)に関する報告(小谷委員)

この会合では主として本会議物性部会の日程について検討された。その結果決定した日程につき検討の結果大体付録々のようなものが暫定的に決った。

以上の他問題になった点は、「本会議には短い講演は組み入れないが、「用意された討議」即ち講演内容に対し、即興的な質疑応答でなく、講演予講に基いて、予めそれに関連した討論文を用意しておいてそれを読み上げるような種類のものは取り上げること。」

その他大阪での決定事項としては6月10日に物性専門部会を開くこと。その目的は日本側の予講準備のためであつて予講に組み入れる論文は既発表のものが主体となるが、未発表のものも特に注目すべきものと認められるものは別に取り上げる方法を講ずる。

又大阪で日本側参加者を公募してはという意見も出たことが報告されたが、これは招請者のみの会議とする本来の方針に反するし、又適当な申込者を断ることに非常な困難が予想されるので、取り上げられなかった。

3. 参加者用バッジについて

七宝バッジの見本について検討したが、図案については別に適当な図案家に依頼することに決定。

又バッジと氏名札は別のものにしてバッジは比較的小型の丸い

在京129

図案にすることが適当と考えられた。価格は最高1ヶ300円位までのものを考えること。

4. 物性関係で湯川記念館を利用することについて(有山委員報告)

素粒子関係者から、湯川記念館を物性の方でも国際会議の準備のために使わせてもらうよう申出ることを見られたので、小人数の物性関係者で相談の結果、低温のグループで6月中に10人位合宿をすることに内定し、朝永委員の了解を得た。記念館の方から若干補助が出る可能性はあるがあてには出来ないとのこと。在京委員会として、さしあたり5万円寄付金の中からこの合宿の補助金として出すことを了承。

5. 末日科学者招待講演に関する北大の希望(宮原委員)

Mattの札幌行については、本人が北大に対し受諾したあとで中夫からの連絡で意向が変えられたということも、地元では非常に残念がつている様子が報告された。

これはMattとの連絡について地元と中夫との間の連絡が滞ったことにも起因することが認められたが、地元の事情もわかり、北海道旅行はコースの立て方によつてはそれ程無理でないように旅程も計画出来ると考えられるので、この「B」コースについて小谷委員が北大と交通公社と連絡を取つて再検討することを了承。その上改めてMattに対し、中夫から札幌行きをすゝめて見ることに決定。

又Matt夫妻の札幌滞在費は地元で負担することが確認された。詳細な接待計画については地元で立案して中夫に連絡すること。

別冊付録

全

1. 改訂プログラム

全

2. 参加者一覧

全

3. 追加招請発送先

全

4. 物性専門部会日程案

理論物理学会議回状 (CH. 250) 発送先

外信	17	付
1953.5/4		録

1. 各国国内委員会

1. Argentina: National Committee for IUPAP, Asociacion Fisica Argentina, Laprida 922, Cordoba
2. Australia: Professor E. O. Hercus, Secretary, National Committee for IUPAP, Department of Physics, University of Melbourne, Carlton, N. 3, Melbourne
3. Belgium: M. A. Biot, Secretary, National Committee for IUPAP, 40, rue Lievin de Winne, Ghent
4. Brazil: National Committee for IUPAP, Centro Brasileiro de Pesquisas Fisicas, 21 rua Alvaro Alvim, 21, andar, Rio de Janeiro
5. Canada: National Committee for IUPAP, National Research Council, Ottawa
6. Czechoslovakia: Dr. Z. Horak, Vice-Chairman, National Committee for IUPAP, Karlova nam. 13, Prague II
7. Denmark: Dr. J.C. Jacobsen, Secretary, National Committee for IUPAP, Det Kongelige Danske videnskabernes Selskab, Dantesplads 35, Copenhagen
8. Egypt: National Committee for IUPAP, University Fouad I, rue Hadiket El-Ormane, Cairo
9. Finland: Professor L. Simons, Secretary, National Committee for IUPAP, Fisikaliska Institutet, Helsingfors Universitet, Helsinki

10. France: M.P. Jaquinot, Secretary, National Committee for IUPAP, 3, boulevard Pasteur Paris, 15^e
11. Hungary: National Committee for IUPAP, Magyar Tudományos Akademia, Akademia Utka 2, Budapest V
12. Israel: National Committee for IUPAP, Research Council of Israel, P.O. Box 607, Jerusalem
13. Italy: Dr. E. Amaldi, Secretary, National Committee for IUPAP, Centro di Studio per la Fisica Nucleare, Città Universitaria, Roma
14. Mexico: M. Sandoval Vallarta, Secretary, National Committee for IUPAP, Comision impulsora y coordinadora de la Investigacion cientifica, Puente de Alvarado, 71, Mexico, D. F.
15. Netherlands: Professor van den Handel, Secretary, National Committee for IUPAP, Kamerlingh Onnes Laboratorium, Leyden
16. Norway: Dr. E. Hylleraas, Secretary, National Committee for IUPAP, Fysiske Institutt, Teoretisk Fysikk, Blindern P. Oslo
17. Poland: Dr. J. Weyssenhoff, Secretary, National Committee for IUPAP, 15, Slowackiego Street, Cracow
18. Spain: National Committee for IUPAP, Real Academia de Ciencias Exactas, Fisicas y Naturales, Valverde 22, Madrid
19. Sweden: Dr. E. Rudberg, Secretary, National Committee for IUPAP, Metallografiska Institutet, Drottning Kristinasväg 48, Stockholm
20. Switzerland: M.A. Perrier, Chairman, National Committee for IUPAP, "Le Crêt", chemin du Levant, Lausanne
21. Union of South Africa, National Committee for IUPAP, South African Council for Scientific Research, Private Bag 189, Pretoria
22. Great Britain: Sir George Thomson, Chairman, National Committee for IUPAP, National Physical Laboratory, Teddington, Middlesex,
23. United States: Dr. H.A. Barton, Secretary, National Committee for IUPAP, American Institute of Physics, 57 East 55th Street, New York 22, N. Y.

2. その他関係者

(参加者に対しては0 H、2/7で発送済)

1. Dr. Ronald Fraser
Bureau d'Administration
International Council of Scientific Unions
Maison de l'UNESCO
19, avenue Kléber
Paris 16 FRANCE
2. Dr. Ging-Hsi Wang
Head, Division of the Development of International Scientific Co-operation
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organisation
19, avenue Kléber
Paris 16 FRANCE
3. Dr. John W. Taylor
Acting Director-General
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organisation
19, avenue Kléber
Paris 16 FRANCE

4. Mr. Warren Weaver
Director
Division of Natural Science and Agriculture
The Rockefeller Foundation
49 West 49th Street
New York 20, N. Y. U. S. A.
5. Dr. H.C. Kelly
Assistant Director for
Scientific Personnel and Education
National Science Foundation
2144 California Street N. W.
Washington 25, D.C. U. S. A.
6. Mr. W.E. Purnell
8 sh. el Salamik
Cairo EGYPT
7. Dr. P.C. Young
University Building
Delhi INDIA
8. Prof. Dr. André Mercier
Department of Theoretical Physics
Universität Berne
Sidlerstrasse 5
Berne SWITZERLAND
9. Professor Maurice Lévy
Laboratoire de Physique
Ecole Normale Supérieure
Université de Paris
24, rue Lhomond
Paris 5 FRANCE
- 10 Mr. W.R. Wilson
W. Edwards and Co (London) Ltd.
Worseley Bridge Road
Lower Sydenham
London, S.E. 26 GREAT BRITAIN

3. 国内関係学会

1. 文京区本富士町1 東京大学工学部応用物理学教室
応用物理学会長 辻 二郎

2. 仙台市片平丁 東北大学金属材料研究所内
日本金属学会会長 三 島 徳 七
3. 千代田区神田駿河台1~5
日本化学会会長 電 山 直 人
4. 中央区日本橋本町3-9 繊維会館内
高分子学会会長 厚 木 勝 基
5. 千代田区有楽町1~3 電気倶楽部ビル内
電気学会会長 別 府 貞 淑
6. 千代田区富士見町2~8 長坂ビル内
電気通信学会会長 池 田 敬 三
7. 目黒区駒場町856 東京大学理工学研究所内
日本音響学会会長 佐 藤 孝 二
8. 千代田区有楽町1~3
照明学会会長 山 内 二 郎
9. 千代田区丸の内2~2 丸ビル561区
日本機械学会会長 佐々木 重 雄
10. 千代田区大手町2~4
土木学会会長 沼 浦 鹿 蔵
11. 千代田区丸の内1~2 日本工業クラブ内
造船協会会長 山 泉 昌 夫
12. 東京大学社会学研究所
山之内 一 郎

物性専門部会第3回会議々事録

日 時 昭和28年5月3日
会 場 大阪大学理学部会議室
出席者 荒木、有山、伏見、原島、広根、石原、
垣内、小谷、久保、松原、宮原、武藤、
永宮、中島、西、小野、喜木、高橋、
戸田、喜田、山下、芳田。

議 事

1. 小谷委員より、前回会議以後の準備の進捗状況、特に追加招待者、日程等につき報告を行った。
2. 物性部門のプログラムの修正
Van Vleck, Néel の講演申込み、Löwdin の出席の可能性等を考慮して、invited lecture を次表のように配当することにした。なお invited lecture 以外に「用意された discussion」として5分〜10分程度の講演を行うことを認め、これを外国へも知らせる。その際、discussion が散漫になるのを防ぐため、invited lecture によって十分内容が定義できていないと思われる session に対してはその session で取上げる題目をプログラムに記入することとした。

物性専門部会日程案

18	<u>Crystal Dislocation</u> Mott: Crystal dislocation Leity: Kirkendall effect	<u>Electronic Structure of molecules</u> Löwdin: (Introductory lecture) Mulliken: Intermolecular force
	<u>Polymer Theory</u> : (Introductory lecture)	<u>Theory of Metals</u> Coulson: Theory of metals Van Vleck: Cohesive energy of alkali metals Wigner: Theory of cohesive energy of metals Onsager: Diamagnetism in metals
19	<u>Theory of Liquids</u> J. E. Mayer: Theory of liquid	<u>Electron Theory of Intrinsic Magnetization</u> Slater: Configuration interaction and ferromagnetism
21	<u>Transport phenomena</u> <u>Irreversible processes</u> Kirkwood: Theory of liquid Prigogine: Irreversible processes	<u>Ferrimagnetism</u> Néel: (Introductory lecture) <u>Domain Theory</u> Néel: Magnetic fluctuation after-effect

22	<u>General Methods in Statistical Mechanics</u> De Boer: Quantum statistics of interacting particles	<u>Magnetic Resonance</u> <u>Absorption and Relaxation</u> Bloembergen: Magnetic relaxation in solids
23	<u>Liquid Helium</u> Onsager: (Introductory lecture) Gorter: ?	<u>Electronic Processes in Dielectrics</u> Fröhlich: Electrons in dielectrics
	<u>Superconduction</u> Fröhlich (Introductory lecture)	<u>Ferro- and Antiferroelectricity</u> <u>Imperfections in Ionic Crystals</u> Seitz: Colour centre

(追記)

(小谷) このプログラムは、5月3日以後に受取った講演申込等によつて、会議以後に行つた二名の修正を加えたものである。すなわち

- (i) Wigner の講演を9月18日午後(C)に既当した。(このため、この session の講演が多すぎるので、Onsager のを19日午前の最初、又は22日午前に変更することも考えられる。
- (ii) 5月3日の会議では、21日午前(C)の Introductory lecture は Van Vleck に依頼するつもりであつたが、その後 Néel から、時間も限られていることだから、本会議で二つの講演をするのは不適當と思う、熟考の結果、Magnetic fluctuation after-effect は本会議以外で磁気の専門家と話し、本会議では ferrimagnetism の一般的話をしたい。日

本の研究も *ferrimagnetism* は多いようだから”との申越があつたので、*Neel* に変更した、このため *magnetic fluctuation aftereffect* の *Neel* の講演及びそれに関する付議は、19日午後又は21日夜に *informal* な会で行い、それ以後の会議場の弁を修正以前の形にもとすことも考えられる。

(a) なお、*Krishnan* から二つの講演

(a) *Polarization field in ionic crystals*

(b) *Thermionic emission as effusion of electrons from hot chambers.*

の申込みがあるが、これは上のプログラムに入れていない。

(a) は入れれば23日午前又は午後の(c)に入るべきものと思われる。(b)は適当な場所がないので本会議以外の適当な機会に話してもらうこととしたい。(或は統計力学の輸送現象等の部分に入るべきものか)

3. 日本側講演題目及び講演者

各 *Session* に原則として、1〜2名の日本人の講演を入れる。その内容は、その部門の日本のかなり多くの研究の紹介を主とするもの(総合報告的性格の強いもの)もあろうし、又、個人又はあるグループによる仕事の報告(原型的性格の強いもの)もあつてよい。

題目及び講演者の具体的審議は次回(6月10日頃)の会議で行うが、その審議資料を作るために、各委員は日本側講演題目及び講演者の候補名を小各まで通知し、小各はこれの全体を一覧表にして6月の会議までに各委員に配布する。

4. 予稿編集

本会議に關係する部門の日本人の論文は、1951年以降の分は原則として、表題だけは全部のせる。ただし、初め物性論研究に発表され後に英文を發表されたもの等は、英文の方だけをと

れはよい。本会議の *discussion* に特に關係の多いと見られる研究、日本で發表され外国にあまり知られていないと思われる注目すべき研究等は、稍詳しい英文アブストラクトを著者に作製してもらい、予稿集に入れる。5月の分科会その他本発表でも、重要な研究はなるべく載せる。尚、1942年以後の研究も、あまり海外に知られていない注目すべきものは載せる。これは網羅的であることを必要としない。各委員に1942年〜1950年の論文で予稿に載せるのが適當と思うものを、その専門に拘らず拾い上げ、これを石原委員へ5月23日までに通告する。石原委員はこれを分類して下記の担当委員に知らせる。

日本の論文をその内容によりなるべく詳しく分類し、その各項目に対して担当委員が *preface* をつける。(この項目は下記の分組項目よりはかなり細かいものとする。例えば“高分子”の中をも向題毎に分類して数個の項目とする。)6月10日の会議までに、論文の分類及びアブストラクト執筆依頼の原案を、下記の分組によつて準備する。

A	統計力学一般論	戸田 委員
B	液体論	原高 委員
C	輸送現象、不可逆過程	小野 委員
D	高分子	岡 委員
E	ヘリウム	中島 委員
F	統計力学 雑	石原 委員
G	金属電子論	} 山下 委員
H _a	自発磁化の電子論	
H _b	磁性、フェリ磁性	芳田 委員
H _c	磁区論、磁化過程	な根 委員
H _d	磁気共鳴吸収及緩和現象	宮田 委員
J	誘電体	高木 委員
K	イオン結晶の欠陥	久保 委員
L	超伝導	有山 委員

〔追記〕

(小谷) 5月3日の会議以後考慮し、連絡の出来る委員の方々からは個別的に意見を聞いた結果、予稿集の編集方針を次のように多少修正したいと思っております。これは6月10日の会議で決定すべきものであります。時間の関係上、御異議がなければそれによって準備を進めたいと思っております。これについての御意見をなるべく早く小谷へお知らせ下さい。

予稿集は日本の研究状況の一覧という意味ももたせないのではあるが、又一方、予稿集という冗末の意味も重要であると思う。この観点からは次のものを含めることが考えられる。

- (A) 実際 本会議で行われる講演の予稿
- (B) 本会議での議題についての「用意された discussion」とも言うべきものの予稿
- (C) 必ずしも「read」されることを予定しない目録しい原著論文の予稿、本会議に提出し、座長の取計らひその他のことによって討議の資料として利用され、又本会議かその他の集りで話すことになるかもしれない。これは既発表のものでも甚支ないが、その後の最新までの発表を盛ったものも歓迎したい。
- (D) 5月3日の会議で考えた分類された論文リスト(一部分アストラクト付)及び Prefaces.

このうち(A)、(B)は印刷する予稿集に同様に合わなければ別に作る必要があるかもしれない。

(C)に対する準備として、物性専攻部会で予稿を出してほしいと思う人を各 Session 毎に何名か(5~10名程度?)を選定し、その人に執筆を依頼する。専攻部会はどのような方面の研究について書いてもらいたいのかという漠然とした希望を出すだけで、予稿の内容は著者に一任し、著者の提出したいと思われるものを書いてもらう。これは既発表の一つの論

文の要旨である必要はなく、むしろ、著者の最も重点を置かれる結果を要約して提出してもらうことが望ましい。

かりに、(C)の執筆者120名とし、印刷して1冊/頁程度とすればこれに120頁程度が必要である。

(C)の予稿を頼むべき人の選定は6月10日の会議でさめたいと思っておりますが、それには分類された。

論文リスト及び学会講演が基礎資料になるでありましょから、上記A-Cの担当者は各担当の部門での人選の原案を、できれば同じ部門の他の委員の意見をも懇して、6月10日までで作っておいてほしいと思っております。

5. 日本人参加者

各 Session につき、日本人参加者の候補者リストを作る。

(この点は、大阪の会議では十分協議する時間がなかったが、一応前項の担当者において

- (i) 特に本会議で講演又は discussion に参加してほしいと思う人。(之は予稿を執筆してもらう人には毎担当する)
 - (ii) 予稿集にその部門の論文の著者として名前をのせる人。
 - (iii) 1951年以後にその部門論文の発表又は学会での講演を行った人。
 - (iv) その処余裕あらは参加してもらうのがよいと思う人。
- の順序で、大体的人数を調べておいてもらい、6月10日の会議で調整を行うことにしたいと思います。——小谷)

最後に各委員への依頼事項をまとめて記します。

- ① 予稿集に載せるのが適当と考えられる1942年~1950年の論文を、委員の専攻に拘らず、受の付いた範囲で列举し、石原委員に知らせる。(期限5月26日)
- ② 本会議での日本側の講演として適当と思われる候補題目名及講

- 8 -

著者名を、小谷に通知する。(尋問に拘らず筆はて下さい)

..... (期限 5月26日)

⑤ 予稿集の編集方針についての意見を小谷に通知する。特に前表
A～Lの部門担当者は、..... (期限 5月26日)

⑥ 予稿集Dの内容をなす論文の分類、特にアストラクトを執筆
してどうは等のある論文の選定の原案を用意すること。

..... (期限 6月10日)

二
ノ
外



外信	17	一
1953.5.14		覧

理論物理学 国際会議に関する
 外部との往復通信一束
 (5月7日 — 5月13日)

目次

整理番号	発信者	発信	受信者	回答	
250	藤岡委員長	5/8	各国々内委員会		Second circular
319	Casimir	4/10	藤岡委員長	5/2	正式招請発送 (回答)
372	Matt	4/10	藤岡委員長	5/11	Massey の旅費 (回答)
377	会長	5/7	本館三技術 本部研究部長		招請状発送
378	会長	5/7	別紙の通り		招請状及 circular 発送
401	Krishnan	5/6	会長		招請受諾及び講演題目
402	Heyrovsky	4/21	会長		招請謝絶
408	Huber	5/1	会長		会議参加申込

CHNO 250

発信者 藤岡委員長	受信者 各国々内委員会 その他一概	(関連 CH)	外信
--------------	-------------------------	------------	----

末信 (5月8日付)

Second circular 発送

外信 17

CH No 319

発信者 藤岡委員長 会	受信者 Casimir
-------------------	----------------

発信 (5月2日付) (藤岡分)
(会長分)

招請状及 Circular 発送

回答 (藤岡)

招請状を送る。会長からの会式招請状は別送する。

(会長) 正式招請状及 Circular の発送。

CH No 372

発信者 藤岡委員長	受信者 Matt
--------------	-------------

(関連 外信 14)
CH 266

発信 (5月11日付)

回答 Massey の旅費

組織委員会としては Massey に全額 \$ 1,310 を支給することに賛成である。貴下の正式承認を得て先方に我々の意志を伝達していただくために、本信の字を同封する。

改訂プログラム、申込用紙も別便で送るから、プログラムの一部と申込用紙は Massey に同送していただきたい。

(2)

CH NO 377

発信者 会長	受信者 米国航空技術 本部研究部長
-----------	-------------------------

(関連 外信 16)
CH 353 参照

発信 (5月6日付)

Slater の提言に基づく儀礼的招請。

「米国に行っている日本科学者が渡航費、研究費について貴機関の世話になっている由、Slater から聞き及び感謝にたえまぬ。

又この度の国際会議のため来日する米国科学者の渡航についても厄介になっている由。この機会に参加を招請する。

もし貴下自身の参加が望めなければ代理を指名して頂きたい。」

CH NO 378

発信者 会長	受信者 在京 19 付録3の通り
-----------	---------------------

(関連 在京 16 の②)

発信 (5月7日付)

若干研究者に対する招請状及 Circular 発送。

(3)

外信 17

CH NO 401

発信者 Krishnan	受信者 龜山会長	(関連 外信 11) (CH 321)
-----------------	-------------	------------------------

来信 (5月3日付)

招請要約の講演題目について

喜んで招請に応じる。参加したら

- ① "The polarization fields in ionic crystals"
- ② "thermionic constants in relation to effusion of electrons from hot chambers"

について講演したい。

CH NO 402

発信者 Heyrovsky	受信者 龜山会長	(関連 外信 11) (CH 271)
------------------	-------------	------------------------

来信 (4月27日付)

来信 招請謝絶

IUPAP の執行委員会及び京都で開催の理論物理学国際会議への招請を感謝するが、健康状態 (高血圧) 及その他の事情に由り、長い旅行にたえられぬので辞退する。この旨 Fleury に申送った。

(4)

CH NO 408

発信者 Huber	受信者 龜山会長	(関連 外信 11) (CH 871)
--------------	-------------	------------------------

着信 (5月11日付)

発信 (月 日付)

会談申込

9月10日頃来日、10月5日頃出発

(5)

追加招請状発送先

在京	19	付録
1953.5.8		3

1. Professor J. M. Blatt
University of Illinois
Urbana, Ill. U. S. A.
Ill., U. S. A.
2. Professor B. Bleaney
Clarendon Laboratory
Oxford ENGLAND
3. Professor C. Bloch
California Institute of Technology
Pasadena, Calif. U. S. A.
4. Professor K. A. Bruckner
University of Indiana
Bloomington, Ind. U. S. A.
5. Professor B. Dingle
Royal Society Mond Laboratory
University of Cambridge
Cambridge ENGLAND
6. Professor J. C. Frank
H. H. Wills Physical Laboratory
University of Bristol
Royal Fort
Bristol 8 ENGLAND
7. Professor M. L. Goldberger
Institute for Nuclear Studies
University of Chicago
Chicago 37, Ill. U. S. A.
8. Professor R. Jost
The Institute for Advanced Study
Princeton, N. J. U. S. A.
9. Professor W. Känzich
Physikalisches Institut der E. T. H.
Zürich SWITZERLAND
10. Professor C. Kittel
University of California
Berkeley, Calif. U. S. A.

11. Professor J. S. Koehler
Physics Department
University of Illinois
Urbana, Ill. U. S. A.

12. Professor Per-Olov Löwdin
Institute of Mechanics and Mathematical Physics
University of Uppsala
Uppsala SWEDEN

13. Professor S. T. Ma
National Research Council
Ottawa
Ontario CANADA

14. Dr. B. T. Matthias
Murray Hill Laboratory
Bell Telephone Laboratory
Murray Hill, N. J. U. S. A.

15. Professor R. J. Maurer
Department of Physics
University of Illinois
Urbana, Ill. U. S. A.

16. Professor R. V. Pound
Lyman Laboratory of Physics
Harvard University
Cambridge, Mass. U. S. A.

17. Professor J. Steinberger
Columbia University in the City of New York
New York 27, N. Y. U. S. A.

18. Professor J. Yvon
Laboratoire du Fort de Chatillon
Fontenay aux Roses (Seine) FRANCE

19. Professor Chen Ning Yang
Institute for Advanced Study
Princeton, N. J. U. S. A.

.....

20. Professor E. M. Purcell
Harvard University
Cambridge, Ill. U. S. A.

.....

21. Dr. H. B. G. Casimir
Philips Research Laboratories
N. V. Philips' Gloeilampenfabrieken
Eindhoven NETHERLANDS

22. Dr. Charles F. Yost
Acting Chief
Solid State Sciences
Office of Scientific Research
Air Research and Development Command
Post Office Box 1395
Baltimore 3, Md. U. S. A.

23. The Chief of the Office of Scientific Research
Air Research and Development Command
Post Office Box 1395
Baltimore 3, Md. U. S. A.

.....

18	<u>Crystal Dislocation</u> Mott: Crystal dislocation Seitz: Kirkendall effect	" " " " "	<u>Electronic Structure of Molecules</u> Löwdin: (Introductory lecture) Mulliken: Intermolecular force
	<u>Polymer</u> Flory: (Introductory lecture)	" " " " "	<u>Theory of Metals</u> Coulson: Theory of metals Van Vleck: Cohesive energy of alkali metals Wigner: Theory of cohesive energy of metals Onsager: Diamagnetism in metals
19	<u>Statistical Mechanics</u> J. E. Mayer: Theory of liquid	" " " "	<u>Electron Theory of Intrinsic Magnetization</u> Slater: Configuration interaction and ferromagnetism
	Kirkwood: Theory of liquid Prigogine: Irreversible processes	" " " "	<u>Ferrimagnetism</u> Néel: (Introductory lecture)
21		" " " "	<u>Domain Theory</u> *
	De Boer: Quantum statistics of interacting particles	" " " "	<u>Magnetic Resonance Absorption and Relaxation</u> Bloembergen: Magnetic relaxation in solids
22	<u>Liquid Helium</u> Onsager: (Introductory lecture) Gorter: ?	" " " "	<u>Electronic Processes in Dielectrics</u> Fröhlich: Electrons in dielectrics
		" " " "	<u>Ferro - and Antiferroelectricity</u>
23	<u>Superconduction</u> Frohlich (Introductory lecture)	" " " "	<u>Imperfections in Ionic Crystals</u> Seitz: Colour centre

* この項目を本会議から除き金属理論の時間の不足を補うことも考える。

'53.5.13.- 120

在京 19	付録 2
1953.5.8	

参 加 者 一 覧

List of Prospective Participants in the
 International Conference on Theoretical Physics
 As of 1 May 1953

- | | | | |
|---|-------------|--|-------------|
| 1. Dr. P. W. Anderson
Murray Hill Laboratory
Bell Telephone Laboratories
Murray Hill, N. Y. | U. S. A. | 11. Prof. B. Ferretti
Instituto di Fisica "Guglielmo Marconi"
Università degli Studi
Roma | ITALY |
| 2. Dr. P. Auger
Director
Department of Natural Sciences
United Nations Educational,
Scientific and Cultural Organization
19, avenue Kléber
Paris 16 | FRANCE | 12. Prof. Richard P. Feynman
Norman Bridge Laboratory of Physics
California Institute of Technology
Pasadena, Calif. | U. S. A. |
| 3. Prof. John Bardeen
Department of Physics
University of Illinois
Urbana, Ill. | U. S. A. | 13. Prof. P. Fleury
Secretary General
International Union of
Pure and Applied Physics
3, boulevard Pasteur
Paris 15 | FRANCE |
| 4. Prof. H. J. Bhabha
Tata Institute of Fundamental Research
Apollo Pier Road
Bombay 1 | INDIA | 14. Prof. P. J. Flory
Department of Chemistry
Cornell University
Ithaca, N. Y. | U. S. A. |
| 5. Prof. N. Bloembergen
Cruft Laboratory
Division of Applied Science
Harvard University
Cambridge 38, Mass | U. S. A. | 15. Prof. H. Fröhlich
Department of Physics
The University
6 Abercrombie Square
Liverpool 7 | ENGLAND |
| 6. Prof. J. de Boer
Bunsenstraat 98
Amsterdam O | NETHERLANDS | 16. Prof. C. J. Gorter
Kamerlingh Onnes Laboratorium
Der Rijksuniversiteit te Leiden
Nieuwsteeg 18
Leiden | NETHERLANDS |
| 7. Dr. R. M. Bozorth
Murray Hill Laboratory
Bell Telephone Laboratories
Murray Hill, N. Y. | U. S. A. | 17. Prof. W. Heisenberg
Max Planck Institut für Physik
Böttingerstrasse 4
Göttingen | GERMANY |
| 8. Prof. Gregory Breit
Sloane Physics Laboratory
Yale University
New Haven 11, Conn. | U. S. A. | 18. Prof. W. Heitler
Seminar für Theoretische Physik
Universität Zürich
Rämistrasse 69
Zürich | SWITZERLAND |
| 9. Dr. H. B. G. Casimir
Philips Research Laboratories
N. V. Philips' Gloeilampenfabrieken
Eindhoven | NETHERLANDS | 19. Prof. Joseph O. Hirschfelder
Naval Research Laboratory
University of Wisconsin
Madison, Wis. | U. S. A. |
| 10. Prof. C. A. Coulson
Mathematical Institute
The University
Parks Road
Oxford | ENGLAND | 20. Prof. J. G. Kirkwood
Sterling Chemistry Laboratory
Yale University
225 Prospect Street
New Haven, Conn. | U. S. A. |

21. Prof. R. E. Marshak
Department of Physics
College of Arts and Sciences
The University of Rochester
Rochester 3, N. Y. U. S. A.
22. Prof. Joseph E. Mayer
Institute for Nuclear Studies
University of Chicago
Chicago 37, Ill. U. S. A.
23. Prof. Maria Goeppert Mayer
Institute for Nuclear Studies
University of Chicago
Chicago 37, Ill. U. S. A.
24. Prof. N. F. Mott
H. H. Wills Physical Laboratory
University of Bristol
Royal Fort
Bristol 8
25. Prof. C. Møller
Institut for Teoretisk Fysik
Blegdamsvej 15
Copenhagen DENMARK
26. Prof. R. S. Mulliken
(University of Chicago)
c/o Dr. H. W. Thompson
St. John's College
Oxford ENGLAND
27. Prof. L. Néel
Laboratoire d'Electrostatique
et de Physique du Métal
Institut Fourier
Place du Doyen Gosse
Grenoble FRANCE
28. Prof. Lars Onsager
Sterling Chemistry Laboratory
Yale University
225 Prospect Street
New Haven, Conn. U. S. A.
29. Prof. Robert Oppenheimer
Director
Institute for Advanced Study
Princeton, N. J. U. S. A.
30. Dr. John A. Osborn
Code 421, Physics Branch
Office of Naval Research
Washington 25, D. C.
31. Prof. A. Pais
School of Mathematics
Institute for Advanced Study
Princeton, N. J. U. S. A.
32. Prof. R. E. Peierls
Department of Mathematical Physics
The University
Edgbaston
Birmingham ENGLAND
33. Prof. François Perrin
Laboratoire de Physique
Atomique et Moléculaire
Collège de France
Place Marcelin-Berthelot, Paris 5 FRANCE
34. Dr. Emanuel Piore
Chief Scientist and Deputy Chief
Office of Naval Research
Washington 25, D. C. U. S. A.
35. Prof. I. Prigogine
Faculté des Sciences
Université Libre de Bruxelles
50, avenue Franklin D. Roosevelt
Bruxelles BELGIUM
36. Prof. I. I. Rabi
Department of Physics
Columbia University
in the City of New York
New York 27, N. Y. U. S. A.
37. Prof. L. I. Schiff
Department of Physics
Stanford University
Stanford, Calif. U. S. A.
38. Prof. Frederick Seitz
Department of Physics
University of Illinois
Urbana, Ill. U. S. A.
39. Prof. Robert Serber
Brookhaven National Laboratory
Associated Universities Inc.
Upton
Long Island, N. Y. U. S. A.
40. Prof. John C. Slater
Chairman
U.S.A. National Committee of
Pure and Applied Physics
Department of Physics
Massachusetts Institute of Technology
Cambridge 39, Mass. U. S. A.

- ✓ 41. Prof. C. H. Townes
Department of Physics
Columbia University
in the City of New York
New York 27, N. Y. U. S. A.
- ✓ 42. Dr. Manuel Sandoval Vallarta
Secretary
National Committee for IUPAP
Instituto Nacional de la
Investigacion Cientifica
Puente de Alvarado, 71
Mexico 3, D. F. MEXICO
43. Prof. J. H. Van Vleck
Division of Applied Science
Pierce Hall
Harvard University
Cambridge 38, Mass. U. S. A.
44. Dr. Alan T. Waterman
Director
National Science Foundation
2144 California Street, N. W.
Washington, D. C. U. S. A.
45. Prof. Victor F. Weisskopf
Department of Physics
Massachusetts Institute of Technology
Cambridge 39, Mass. U. S. A.
- ✓ 46. Prof. Gregor Wentzel
Institute for Nuclear Studies
The University of Chicago
Chicago 37, Ill. U. S. A.
- ✓ 47. Prof. John A. Wheeler
Palmer Physical Laboratory
Princeton University
P. O. Box 451
Princeton, N. J. U. S. A.
- ✓ 48. Prof. E. P. Wigner
Palmer Physical Laboratory
Princeton University
Princeton, N. J. U. S. A.

在京	19	付録
1953.5.8		1

プログラム

International Conference on Theoretical Physics
Organized by
The Science Council of Japan
with the Collaboration of Kyoto University and the Physical Society of Japan
under the Auspices of the
International Union of Pure and Applied Physics
supported by
U.N.E.S.C.O. and the Rockefeller Foundation.
Tokyo and Kyoto, Japan
September 14-- 23, 1953
Revised Programme as of 1 May 1953

1. SUBJECTS TO BE DISCUSSED.

a. Field Theory and Theory of Elementary Particles.

Field theory in general, quantum electrodynamics, mesons, nucleons, cosmic rays, nuclear structure and reaction.

Further, special topics in cosmic rays will be discussed at an informal symposium, as mentioned in p. 3.

b. Statistical Mechanics.

General methods, polymers, liquid, transport phenomena, irreversible processes, liquid helium.

c. Solid State Physics and Molecular Physics.

Crystal dislocation theory.

Electronic structure of molecules.

Electron theory of solids, including magnetism, ionic crystals and dielectrics, semi-conductors, colour centre etc.

(1) Special topics on crystal dislocations and (2) molecular physics (including microwave and radiowave study of molecules) will be discussed at informal symposia as mentioned in p. 3.

2. CONFERENCE SCHEDULE (Subject to further modification and elaboration as preparations advance)

14 Sept (Mon)

Tokyo

Morning: Registration at the University of Tokyo.
Noon: Welcome Buffet Reception by the Minister of Education.
Afternoon: 3 Hour sightseeing tour of Tokyo by motor coach.
Evening: Invitation to classical Japanese theatre by the Physical Society of Japan.
Accommodation at Imperial Hotel, Hotel Tokyo, Hotel Teito etc.

15th (Tue)

Tokyo

Morning: Opening Session at the University of Tokyo.
Noon: Lunch at University.
Afternoon: Visits to universities and research institutes in Tokyo.
Evening: Welcome Reception Dinner by the Presidents of the Science Council of Japan and the Japan Academy.

During each half-day session, two or three lectures taking 30 or 40 minutes each will be delivered, to be followed by questions and discussions. Abstracts of Japanese papers and reviews of work related to the subjects of the sessions will be included in the preprints to be distributed to the participants.

Facilities will be provided for holding small informal meetings for dealing with topics regarding which need may be felt during the main sessions for more thorough discussion on a free-talking basis.

Prior to the above functions, on 12 and 13 September, an excursion will be held to visit Nikko, situated in one of our national parks and famous for its natural and architectural beauty. All conference participants are welcome to this excursion.

Two symposia are scheduled for the 11th and 12th, and those desiring to participate will leave for Nikko on the morning of the first day. Subjects to be treated are particular problems in: (1) Cosmic Rays, (2) Molecular Physics, and (3) Crystal Dislocation. After the adjournment of the symposia, participants will join the regular Nikko excursion mentioned in p. 6.

On the evening of the 13th, after returning from Nikko, the guests will be invited to a banquet by the Federation of Economic Organizations and the Japan Chamber of Commerce.

On the evening of the 24th, after the main sessions, the attendants will be invited to a reception by the President of Osaka University, situated in the neighboring industrial metropolis, and Conference participants might either spend the earlier part of the day in visits to the different institutions in the Osaka University or in group discussions in Kyoto or in Osaka.

No formal clothes will be required for any of the functions.

Tokyo and Kyoto will be quite warm in September, and summer suits will be necessary. On the other hand, those choosing to join the excursion "B" to Hokkaido will encounter decidedly cool climate during the later phases of the trip, and a light overcoat, with clothing to match, should be carried. Overcoats will not be necessary for the other excursions.

Participants are also cautioned to bring rainwear.

Strict regulations are in force in Japan concerning currency conversion, but visitors will find no difficulty in converting foreign currency into the Japanese Yen at any time, as necessity arises, in any of the larger cities. However, unspent Yen remaining in the hands of those leaving the country will be reconvertible only to the amount of ¥ 18,000 (\$ 50).

All requests for further information should be addressed to Prof. Y. Fujioaka, Science Council of Japan, Ueno Park, Tokyo, Japan.

3. Programme of Main Sessions (Subject to further revision as preparations advance)

18th (Fri)	FIELD THEORY IN GENERAL AND QUANTUM ELECTRO DYNAMICS	CRYSTAL DISLOCATIONS Mott: Dislocations Seitz: Kirkendall Effect	MOLECULAR STRUCTURE Slater: Molecular structure Mulliken: Intermolecular forces
		POLYMERS Flory: Polymers	ELECTRONIC STRUCTURE OF SOLIDS Coulson: Theory of metals Van Vleck: The calculation of the cohesive energy of alkali metals
19th (Sat)		STATISTICAL MECHANICS Mayer: Theory of liquid	MAGNETISM Slater: Ferromagnetism Onsager: Diamagnetism in metals
NO SESSIONS DURING AFTERNOON			
21st (Mon)	MESONS AND	STATISTICAL MECHANICS Kirkwood: Theory of liquid Prigogine: Irreversible processes	MAGNETISM Néel: Ferrimagnetism Bloembergen: Magnetic relaxation
22nd (Tue)	COSMIC RAYS	STATISTICAL MECHANICS De Boer: Quantum properties of condensed phases	DIELECTRICS AND SEMICONDUCTORS Fröhlich: Dielectrics
NO SESSIONS DURING AFTERNOON			
23rd (Wed)	NUCLEUS	LIQUID HELIUM Onsager: Liquid helium	DIELECTRICS AND SEMICONDUCTORS Seitz: Colour centre
			SUPERCONDUCTIVITY Fröhlich: Superconductivity.

- 4 -

Titles of Papers to be Read by invited Scientists
during Sessions on Statistical Mechanics
and Solid State Physics^{*}
(Subject to supplementation and modification)

NAME	TITLE
Bloembergen	1. Magnetic relaxation in solids. 2. Radiowave study of the hydrogen molecule (Molecular Physics Symposium).
De Boer	Theoretical treatment of the quantum properties of condensed systems.
Coulson	1. A new approach to the theory of metals. 2. Recent trends in the theory of large molecules (Molecular Physics Symposium).
Flory	Polymer (precise title not yet known).
Fröhlich	1. Electrons in dielectrics. 2. Superconductivity.
Kirkwood	Statistical mechanical theory of the liquid state.
J. E. Mayer	Liquids (precise title not yet known).
Mott	Dislocations and the property of solids.
Mulliken	1. Intermolecular charge- transfer forces. 2. Interactions between) Molecular Physics donors and acceptors.) Symposium.
Noël	Ferrimagnetism
Onsager	1. Diamagnetism in metals 2. General talk on the theory of superfluid helium.
Prigogine	Some recent applications of thermodynamics to irreversible processes.
Seitz	1. Theory of the Kirkendall effect. 2. Theory of colour centres in the alkali halides.
Slater	1. Summary of work in MIT in molecular structure 2. Relation between configuration interaction and ferromagnetism
Van Vleck	The calculation of the cohesive energy of alkali metals

*) Titles of Field Theory - Nuclear Physics sessions to be announced
later

3 SCHEDULES OF EXCURSIONS

(1) PRE-CONFERENCE EXCURSION TO NIKKO

12 Sept (Sat) Tokyo - (Tobu Elec. Rly.) - Nikko

Nikko: Luncheon and accommodation at Kanaya Hotel; visit to Toshogu Shrine.

13th (Sun) Nikko - (motor and part of way by funicular) - Lake Chuzenji - Nikko - (Tobu Line) - Tokyo

Visit to Kegon Waterfall en route to Lake.
Lake Chuzenji: Luncheon at Lakeside Hotel.

Rough estimate of expenses (all-inclusive): ¥9,200 per person.

(2) POST-CONFERENCE EXCURSION "A" (HIROSHIMA AND KYUSHU)

25 Sept (Fri) Osaka - (train) - Fukuyama - (motor launch) - Takehara - (train) - Hiroshima

Fukuyama - Takehara: Trip on launch owned by Hiroshima University through one of the most scenic parts of the Inland Sea

Takehara: Visit to Research Institute of Theoretical Physics, Hiroshima University.

Hiroshima: Riverside House and Sentei Inn for dinner and accommodation.

26th (Sat) Hiroshima

Visit to Hiroshima University; lecture meeting; reception.

27th (Sun) Hiroshima - (motor) - Miyajima - Hiroshima - (train) - Hakata (Fukuoka)

Miyajima: Visit to Itsukushima Shrine on islet in Inland Sea.

28th (Mon) Hakata (Fukuoka)

Visit to Kyushu University; lecture meeting; reception.

29th (Tue) Hakata - (train) - Nagasaki

Nagasaki: Kanko Hotel for dinner and accommodation.

30th (Wed) Nagasaki - (motor) - Unzen

Drive through Unzen National Park.
Unzen: Kanko Hotel for dinner and accommodation.

1 Oct (Thu) Unzen -(motor)- Shimabara -(ferry)- Misumi -(train)- Kumamoto

Drive through Unzen National Park.
Shimabara: Luncheon at Nampuro Inn.
Kumamoto: Dinner and accommodation at New Tsukasa Hotel.

2nd (Fri) Kumamoto -(train)- Akamizu -(motor)- Mt. Aso -(motor)-
Bochu -(train)- Beppu

Drive through Mt. Aso National Park.
Beppu: Hot spring resort, Suginoi Hotel for dinner and accommodation.

3rd (Sat) Beppu -(steamer)- Kobe

Overnight passage through Inland Sea.

4th (Sun) Kobe -(motor)- Itami Airport -(Japan Air Line)- Haneda Airport-
(motor)- Tokyo

Kobe: Luncheon at Oriental Hotel.

Rough estimate of expenses (all-inclusive): ¥ 68,000 per person.

.....
(3) POST-CONFERENCE EXCURSION "B" (TOHOKU AND HOKKAIDO)

25 Sept (Fri) Osaka -(train)- Tokyo

Tokyo: Dinner and accommodation at Imperial Hotel.

26th (Sat) Tokyo -(train)- Sendai -(motor)- Matsushima

Matsushima: Dinner and accommodation at Park Hotel, overlooking Matsushima Bay, " Bay of 808 Islets "

27th (Sun) Matsushima -(motor)- Sendai

Matsushima: Motor-boating on Matsushima Bay.
Sendai: Visit to Tohoku University and Institute for Iron, Steel and Other Metals; reception in the evening.

28th (Mon) Sendai -(train)- Furumaki -(motor)- Lake Towada

3½ hour drive through mountain scenery.
Lake Towada: Dinner and accommodation at Towada Hotel overlooking lake.

29th (Tue) Lake Towada

Boating on Lake.

30th (Wed) Towada -(motor)- Aomori -(ferry)- Hakodate -(motor)- Yunokawa

Yunokawa: Hot spring resort. Dinner and accommodation at Wakamatsu Inn.

1 Oct (Thu) Yunokawa -(motor)- Hakodate -(train)-Abuta -(motor)- Doya

Doya: Dinner and accommodation at Banseikaku Inn, overlooking Doya Lake.

2nd (Fri) Doya -(motor)- Abuta -(train)- Noboribetsu -(motor)-
Noboribetsu Onsen

Doya: Boating on Lake, with view of Showa-Shinzan, newly formed volcano, a geophysical curiosity.
Noboribetsu-Onsen: Hot-spring resort. Dinner and accommodation at Noboribetsu Grand Hotel

3rd (Sat) Noboribetsu Onsen -(motor)- Shiraoi -(motor)- Tomakomae -
(train)- Sapporo -(motor)- Jozankei.

Shiraoi: Visit to native Ainu village.
Jozankei: Hot-spring resort. Dinner and accommodation at Shogetsu Inn.

4th (Sun) Jozankei -(motor)- Sapporo

Sapporo: Visit to Hokkaido University and Research Institute for Low Temperature Physics; dinner and accommodation at Sapporo Grand Hotel.

5th (Mon) Sapporo -(motor)- Chitose Airport -(Japan Air Line)-
Haneda Airport -(motor)- Tokyo

Rough estimate of expenses (all-inclusive): ¥76,000

(4) POST-CONFERENCE EXCURSION "C" (YAMATO DISTRICT, "CRADLE OF JAPANESE CULTURE")

25 Sept (Fri) Osaka -(motor)- Horyuji -(motor)- Nara

Horyuji: Temple said to be the oldest wooden edifice in the world.
Nara: One time capital of Japan; ancient city of temples and shrines. Dinner and accommodation at Nara Hotel.

26th (Sat) Nara

Sightseeing in town.

27th (Sun) Nara -(train)- Toba -(motor)- Futaminoura

Toba: Visit to Mikimoto pearl farm.
Futaminoura: Accommodation at Asahikan Inn.

28th (Mon) Futamincura -(motor)- Uji-Yamada -(train)- Nagoya

Uji-Yamada: Visit to Ise Grand Shrines.
Nagoya: Dinner and accommodation at Hotel Kanko Maruei.

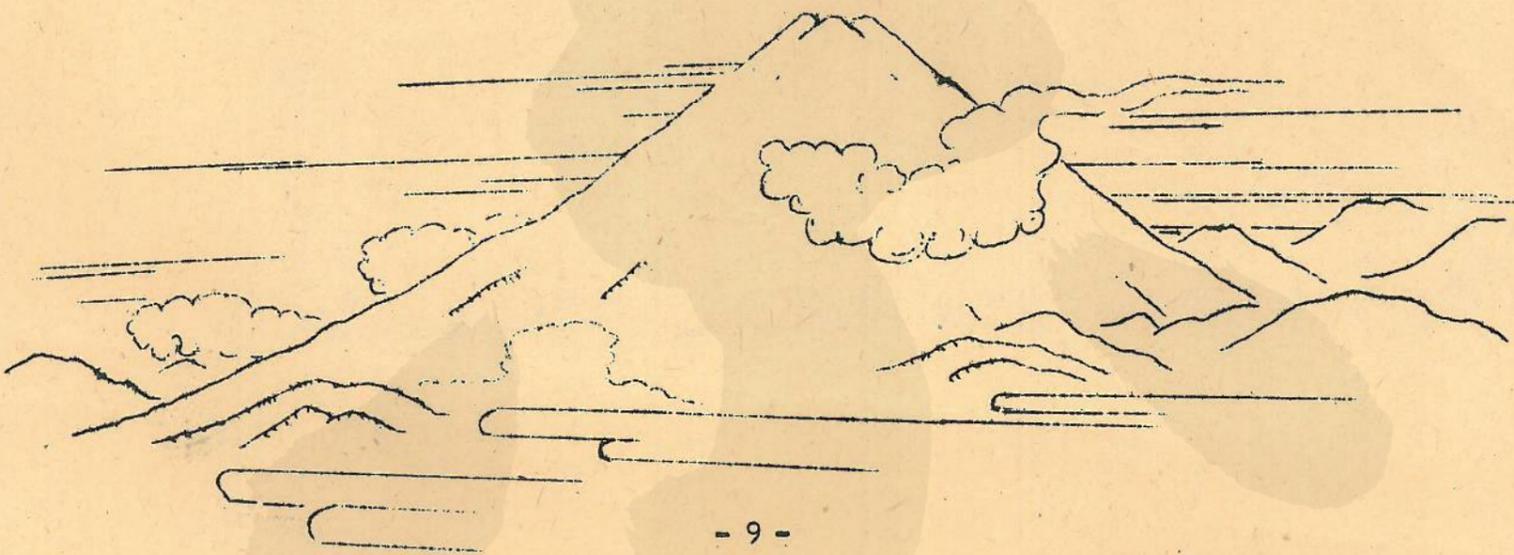
29th (Tue) Nagoya -(motor)- Gifu - Nagoya

Nagoya: Visit to Nagoya University.
Gifu: View of cormorant night-fishing on river Nagara.

30th (Wed) Nagoya -(train)- Tokyo.

Rough estimate of expenses (all-inclusive):
¥ 37,000 per person.

All above courses are subject to modification, and if
patronage is found to be insufficient, also subject to cancellation.



在京	24	付録
1953.6.12		1

国際理論物理学会議
物性部会プログラム

B. 会場

18日午前 結晶型性

- Mott: Dislocation and the Properties of Solids
Seitz: Theory of the Kirkendall Effect
T. Suzuki & H. Suzuki: Dislocation Network & Work-Hardening of Metals
R. Hasiguti: (Internal Friction of Metals due to Crystal Imperfections)
Y. Tani:
Takamura: Mechanism of Deformation in Aluminium Single Crystals
A. Ookawa:

18日午後 高分子

- Flory: The Configuration and Properties of Polymer Molecules in Dilute Solutions
Kirkwood:
Oka: (Recent Researches on Electrolyte Solutions of Polymers, excluding Volume Effect and Viscoelasticity)
Isihara: (Statistical Mechanics of Rubber Elasticity)
(Statistical Mechanics of Polymer Solutions)
Teramoto: (Statistical Mechanics of Chain Polymers)
Oosawa: Electrolyte Solutions

19日午前 液体論

- J. Mayer: Liquids
Harashima: (Review)
Toda: (Statistical Mechanics of Surface Tension)

21日午前・午後 輸送現象 不可逆過程

- Kirkwood: Statistical-Mechanical Theory of the Liquid State
Prigogine: Some Recent Applications of Thermodynamics to Irreversible Processes

Ono: (General Theory of Brownian Motion and Irreversible Phenomena)
(Uhlenbeck's Equations) (Transport Phenomena)
(Statistical Mechanics of Irreversible Processes, esp. stat.-mech. Study of Transport Phenomena in Gases and Liquids)
Toda: (Diffusion in Momentum Space)
Yamamoto: (Statistical Mechanics of Brownian Motion)
Hashizume: Theory of Linear Dissipative Systems
H. Takahashi: Fluctuation

22日午前 統計力学一般方法

de Boer: Theoretical Treatment of the quantum Properties of Condensed Phases.
Shoji: (Crystal Statistics)
Husimi: quantum Hydrodynamics) (Order-disorder Transf.)
(Crystal Statistics in 2 Dimensions)
Oguchi:
Kikuchi:
Kubo: Density Matrix
Husimi or Kubo: Some Problem in Statistical Mechanics
Ono: Theory of Phase Transitions (Condensation etc.)

23日午前 液体ヘリウム

Onsager: General Talk on the Theory of Superfluid Helium
(Gorter):
(Prigogine):
Nishiyama
Nakajima: (Phonon Interaction)
(Brief Summary of Two-Fluid Theory and the Starting Point of Molecular Theory)
(Two-Fluid Model of Liquid He (Review))
(Phenomenological Theory of Liquid He)

23日午後 超伝導

Fröhlich: Superconduction
Kitano: (Critique of Theories of Interaction of Electrons with Lattice Waves)
Ariyama:

Toda: (Interaction of Electrons with Lattice Waves)
Kitano, Nakano or Nakajima: Fröhlich Model of Superconductivity

C. 会場

18日午前 Molecules

Slater*: Report of Work in M.I.T.
(Löwdin):
Mulliken: Intermolecular Charge Transfer Forces
Kotani: (Review of Work of a Research Group)
Kakiuchi { " }
Oshida { " }
Araki { " }
Takayanagi: Theory of Collisions of Molecules

18日午後 金属

Coulson: A New Approach to the Theory of Metals
Van Vleck: Cohesive Energy of Alkali Metals
Wigner: Theory of Cohesion in Metals
Onsager: Diamagnetism in Metals
Muto: (General Theory)
Toya:
Morita: Band Structure of (?)

19日午前 磁気 (自発磁気の電子論)

Slater: Configuration Interaction and Ferromagnetism
Hirone: Collective Electron Theory of Ferromagnetism
Kubo: (Spin-Wave Theory) (Cooperative Phenomena of Vector-Spin Systems)
Miyahara:
Matsubara: (Electron Theory of Ferromagnetism)
(Band Theory of Intrinsic Magnetization)

21日午前 磁気 (反強磁性及びフェリ磁性)

Neel: Ferrimagnetism - Review
Nagamiya: (Theory of Antiferromagnetism)
(Antiferromagnetism of $\text{CuCl}_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$)
Resonance Absorption in Antiferromagnetics)

- Yosida: (Problems of Anisotropy Energy in Antiferromagnetics)
Kubo: (Spin-Wave Theory of Antiferromagnetism) (Approximate Methods for Antiferromagnetism) (Antiferromagnetism) (Statistical Theory of Antiferromagnetism)
Kotani: (Anisotropy Energy of Ferrites) (g-factor of Ferrites)
Nagata: Magnetism of Rocks.

21日午後 磁気(共鳴吸収と緩和機構)

- Bloembergen: Magnetic Relaxation in Solids
Tomita: (Nuclear Magnetic Relaxation Phenomena) (Relaxation Phenomena & Line Breadth in Molecular Crystals) (Relaxation Phenomena in Methane and Hydrogen)
Muto: Theory of Relaxation in Nuclear Magnetic Resonance Absorption
Tsuya:
Okamura: (Resonance Absorption & Determination of Proton Arrangements in Crystals)
Kakiuchi:
Kunagai & Kotani: Paramagnetic Resonance & Level Structure in Solids
Kunagai & Itoh: Resonance Absorption in Paramagnetic Salts, etc. (Review)

21日夜 磁気(磁気余効、磁区論、磁化機構)

- Néel: Magnetic Fluctuation After-Effect
Tomono: Magnetic After-Effect of Low Carbon Steels
Taoka: Magnetic After-Effect in Ni₃Mn
Kaya: (Review)
Hirone:
Miyahara:
Takagi:
Muto:

22日午前 誘電体

- Fröhlich: Electrons in Dielectrics
Keishhnn: Polarization Field in Dielectrics(?)

- Takagi: (Ferro-8 Antiferro Electricity — Review) (Ferro-8 Antiferroelectricity of BaTiO₃ & Other Related Substances)
Yanashita: (Dielectric Breakdown — Review)
Kawanura: Mechanism of Avalanche
Takahashi

23日午前 格子欠陥に関する電子理論

- Seitz: Theory of Colour Centres in the Alkali Halides
Muto:
Yanashita:
Nagamiya: Electronic Structure of Colour Centres
Inui:
Uemura: (Level Schemes for Colour Centres) (Theory of Colour Centres — Review)
Uchida & Ueda: M & R Centres Experiments

外信 22.
 1953. 6. 18

国際理論物理学会議に関する
 外部との往復通信一束

6月12日～18日

目次

整理番号	発信者	日付	受信者	用件
ch 415	Feynman	6.5	藤岡委員長	本会議に於ける講演題目通知
"	藤岡委員長	6.18	Feynman	広島福岡における講演依頼
ch 416	藤岡委員長	6.18	marshak	九州における講演依頼
ch 486	藤岡委員長	6.12	wentzel	本会議における講演題目
ch 562	藤岡委員長	6.5	ロフツェー-野田 財政部長	外人参加者往復旅費補助金の一部を日本で出資すること
ch 574	藤岡委員長	6.16	Jeller	Rosenbluth の招請
ch 583	藤岡委員長	6.16	Waller	往復旅費補助
ch 587	小野委員(双)	6.8	Prigogine	九州における講演依頼受領挨拶
Bu 1	会長	6.15	Rosenbluth	正式招請状
Bu 2	De Bretteville	6.30	工大高木教授	参加申込
	会長	6.15	De Bretteville	正式招請状
Bu 3	会長	6.15	朴哲在	正式招請状
Bu 4	Vachaspati (Physical Research Laboratory, Ahmedabad, India)	4.21	藤岡委員長	国際会議に関する資料送付依頼
Bu 5	Gruner	6.5	会長	末日日程通知票送付

Bu 6	Osborn	6.8	藤岡委員長	来日日程通知票送付
Bu 8	De Boer	6.6	藤岡委員長	各地における講演会に関する照会 来日日程通知票同封
Bu 9	Wheeler	6.9	朝永委員	宇宙線シンポジウム参加応募
Bu 10	Gorter	6.10	藤岡委員長	専門討議会について
Bu 11	Bhabha	6.9	藤岡委員長	Guide Book 皮領通知
Bu 12	Fröhlich	6.11	藤岡委員長	往復旅費補助金
Bu 13	Müller	6.1	九大尾崎教授	福岡における講演題目とAコース参加費の負担
Bu 15	Kirkwood	6.10	小谷委員	本会議における講演題目通知・高分子グループのための講演応募
Bu 16	Prigogine	6.9	藤岡委員長	Aコースの日程照会
Bu 17	Purnell	6.9	藤岡委員長	来日学者帰路エグゼクト立寄について

Ch 415 Feynman {← 6.5付 →} 藤岡委員長

本会議における講演題目通知 (未信)

広島・福岡における講演依頼 (発信)

(未信) 本会議では *The atomic theory of liquid helium* について話したい。並いうちにその概要をお知らせしたいか。両方は何分位割り当てられるのだろうか。

夏の間はブラジルに行く。

(発信) 広島大と物理学会九州支部で講演を希望している。受諾されればAコースの参加費に対してそれぞれ30,000円づつ負担する。

Ch 416 Marshak — 藤岡委員長

九州における講演依頼

物理学会福岡支部で御講演を望んでいる。組織委員会としてもこの趣旨に賛成する。旅行コースAを送れば福岡を通ることになる。講演をされれば旅行参加費の中30,000円を同支部で負担する。

Ch 486 藤岡委員長 → Wentzel 6.12付 (関連外信 19ch486)

本会議における講演題目について

御申越の議題は又つとも日本の物理学者が多大の関心を掛けているものである。どのようにプログラムに組み入れるかはまだわからないが、適当な機会を設けて是非講演を承りたいと楽しみにしている。

Ch 562 ロックフェラー財団会財政部長 ← 藤岡委員長 6.5付

(関連外信 19補 Ch 488)

外人参加者往復旅費補助金の一部を日本で円貨で渡すことについて

「貴財団から提供いただく7,000ドルの補助金の支出については、一部の受領者はその受領金額の一部又は全部を未日後円貨で受取ることを希望している。この希望を入れて、各受領者の円貨希望額の総額に相当する金額は日本に送ってもらうような処置はしていただけないものか。

Ch 574 Teller ← 藤岡委員長 6.16付 (関連外信 2/ch 574)
Rosenbluth の招請について

同氏に対して招請状を出すことにした。本会議の講演についてはプログラムが既に相当詰まっているので、同氏のを組み入れることが出来るかどうかかわからないが、討議に参加されることは歓迎するし、又非公式の集りで話をされる機会もあろう。

Ch 583 Waller ← 藤岡委員長 6.16付 (関連外信 2/ch 583)
往復旅費補助について

(発信) ユネスコの補助金の配分については Fleury と緊密に連絡を取っているので貴信の字を彼に送ることとする。

Ch 587 Prigogine ← 小野教授 6.8付 (関連外信 18/ch 587)
九大における講演応諾受領挨拶

講演を承諾された由藤岡委員長から聞いて喜んでいる。九大では非可逆過程の熱力学について1時間位話していただきたい。九大としては九州地区及び瀬戸内海の旅行費用を没弁。

Bu 1 Rosenbluth ← 会長 6.15付 (関連外信 19/ch 574)
正式招請状 (特待なし)

(24回在京委員会決定、Tellerからの推せんによる。

外信 22

Bu 2 De Bretteville { → 工大高木教授 5.30付
← 会長 6.15

参加申込と正式招請状 (特待なし)

身分は Chief, Ferroelectrics Unit Chemical Physics Branch, Squier Signal Laboratory, Ft. Monmouth, IV, J,

申出の内容は「旅費について奔走する資料に正式招請状が頂きたい。」

招請状発送は24回在京委員会の決定。

Bu 3 朴哲在 ← 会長 6.15付

正式招請状 (特待なし)

Bu 4 (略)

Bu 5 Gruner → 龜山会長 (6.5日付) 関連 (外信 B3の(1))

未日日程通知票送付

御招待を頂き大変嬉しい。自分の旅費に対して上司の許可が未だ得られないので、明確な見通しはつかないが、出席すべく努力している。

Bu 6 Alborn → 藤岡委員長 (6.5日付) (関連外信 11日の2)

未日日程通知書同封

自分は会議後5.6日位滞在するかも知れないが、今のところ発つ日はわからない。若し出来れば帝国ホテルに泊りたい。

外信 22

上に吾人で参加し、Origin of cosmic rays について話す
ことを承諾する。

Bu 10 Gorter → 藤岡委員長 (6.10日付) 関連 (外信 20
Ch 510)

専門討議会について

本会議前の討議会について 6月7日付 Ch: 510 の手紙で向合
せて来られたが之に関する案内状を未だ受取っていない。オラン
ダの化学協会に送った回覧状を見たが討論会の事については何も記載
がない。

自分は何日頃日本に着いて又発てはよいだろうか伺いたい。
(註: これはプログラムの中に日光シンポジウムが余り表
立って出ていないことから見落されたものと思われる。次の回状
にはシンポジウムのことをもつとはつきり記載する予定である。)

Bu 11 Bhabha (Allardice) → 藤岡委員長 (6.9日付)
関連 (外信 21 Ch 557)

Guide Book 落手の通知

5月20日付の手紙の1番目と2番目の paragraphs につ
いて回答を頂けないだろうか。(Ch. 557 で回答済み。行き違い
になった。) Guide Book は受取った。

Bu 12 Fröhlich → 藤岡委員長 (6.11日付) 関連 (外信 19
Ch 474)

旅費の補助金について

660 円に加える補助金をユネスコからもらえる事になったの
でユネスコの方へ手配をしていたが、ドルでいくらか貰え
ると大変助かる。それからロンドンの領事館に査証をおろして貰
う様に連絡していただきたい。

Bu 8 de Baer → 藤岡委員長 (6.6日付) 関連 (外信 16 Ch 331)

各地に於ける講演についての問合せ

来日日程通知案同封

旅費の支給を受けた。貴下の御厚意と滞在費の御面倒を見て
いただいたので、来日については全く問題はなくなった。

来日日程通知案には "Excursion A" を指定した。このコースに対
してそちらで見積られた 6,000 円の参加費が少し高いのもつと
他に講演をさせてもらって旅費の一部を割り引いてもらうわけに
ゆかぬか。24日には阪大の夜のレセプション以外には何も行事が
予定されていないのだろうか。

小野教授には "The quantum theory of the transport-
processes" の equation of states の quantum theory
について何か話したいと申し出ておいた。

若しもつと一般的なものをお望みなら吾人でさうする。例えば
"The two-fluid-model of liquid helium" の "The
quantummechanical principle of corresponding
states" について。若し自分が従来していた仕事について話
して貰いたいと言う希望ならばさうしてもよい。

日光の symposium に関してもつと詳しい事を報せて貰え
ないだろうか。"pressure induced absorption" について
20分の講演を組入れて貰えないだろうか。

Bu 9 Wheeler → 朝永委員 6.9日付 関連 (外信 18 Ch 455)

宇宙線シンポジウム参加承諾

16)

17)

外信 22

Bu 13 Muller → 尾崎九次教授 (6月1日付)

福岡における講演題目とAコース参加費の負担について

委員長には "On Field Theories with Non-local Interaction" について講演すると申出ておいたが、九次の講演も之と同じ題目でいいか、それとも "Bound State Problems in S matrix theories" について話した方がいいだろうか、貴信によると本会議以後の Excursion "A" の費用はどちらで負担されると私は了解するかそれでよいのだろうか。

Néel と Fleury と連絡を取ったが、これらの入達は帰路エガプトに立寄る等である。

その他当地の米国大使館を通じて Seitz, Slater, Waterman にも立寄ってもらうよう依頼状を出した。

Bu 15 Kirkwood → 小谷委員長 6.10 付 (関連外信 21 ch 523)

本会議における講演題目と高分子グループのための講演について

1. 本会議での *The statistical mechanical theory of liquid state* に関する講演では、equilibrium properties だけについて話し、transport phenomena まで範囲を広げるつもりはない。従って自分の論文発表は Mayer 教授の講演のある 9月19日朝の部会に予定していただいた方がよいかと思う。
2. 9月18日午後の部会では *The theory of visco-elastic properties of high polymers* についての講演を喜んで引き受けるが、但しこのためにこの問題に関する発表用の原稿を準備することを引制されないことを条件とした。
3. 岡小天教授からは、高分子に関するシンポジウムについて連絡があつて、御申出に応ずることにした。

Bu 16 略

Bu 17 Purnell → 藤岡委員長 6.9 付関連 {外信 9 B の 1.
外信 17 ch 250
末日学者帰路エガプト立寄りについて

(8)

(9)

取扱注意

外信	スズ	補
1949.6.18		足

国際理論物理学会議に関する
外部との往復通信一束 (補足)

6月12日 — 18日

Ch488 藤岡-Fleury
旅費配分について

「御送付の配分表をその後の情報に基づいて訂正すると次のようになる。

1. ロックフェラー関係 (計 10,000 ドル)

	1次配分(ドル)	予備金 (ドル)
Müller	650	0
Wheeler		0
Matt, Coulson, Peierls	計 3090	0
Fröhlich	660	0
Bhabha	400	0
Massey	1000	0
計	5850	0

2. コネスコ関係 (計 7000 ドル)

Heisenberg	1,000	300
Prigogine	1,100	0
Néel	1,000	0
Perrin	650	0
De Boer	525	0
Gorter	650	0
Heitler	1,290	0
計	6,215	300

(1)

未配分額

ロックフェラー	7,000.-	5,830	= 1,170
ユネスコ	10,000.-	(6,615+300)	= 3,085
合計			4,255

Laudin に対しては、才ノ次配分として700ドルの割当を通知した。(手紙同封)

残りの3,555ドルの配分については次の希望条件で貴下にお任せすることにした。

- Laudin と Lévy を最優先
- 残りを Proca, Frank, A. Behr (N. Behr の子息) の優先順に配分して参加出来るよう配分する。
Behr については仁科記念財団でも金を出すことを考えているが、もし幾分でも他から補助が出れば有難い。
- もし、参加予定者のうち中止になるものが出た場合は、該当者からなるべく同国の人を推せんしてもらい、貴下と Matt 会長との相談で補助金を振り替えて割り当てること。

補助金の一部を日本到着台口貨で受け取ることに付いては、ロックフェラーに早速照会するが、おそらく問題はないと考える。

Landau との連絡についての御返答を深謝する。このことについて Matt に、更に相談の手紙を出したが(外信 20 ch 516) その字を同封する。御意見があつたら伺いたい。

Bu 14 Matt → 藤岡委員長 6.9付

追加招請について

- Matt 夫人の代りに毎日新聞から呼んでいたごく人は、貴方で定められるのか本音と思うが、もし貴方で賛成されるならば、自分としては Frank に行けるようにしていただけは非常に有難い。

(2)

外信 22 復

2. Massey は参加の希望はあると言ってきたが、旅費については、自分の知る限り全額 \$1310 の補助を必要とすると考ええる。

あるいは Royal Society から援助が得られるのかも知れないので、これについて調べている。

3. 追加招請者に対する旅費補助の配分については、お申越のような案に従って Fleury に処置を委されることについては賛成である。

4. 旅券の査証について出先日本領事館に対して連絡を取っていたが、いたことを感謝する。

5. 自分の末日日程は9月6日羽田着、10月6日羽田発のみりである。

内

(3)

在京	24
1953. 6. 12	

国際理論物理学会議組織委員会 在京委員会 (第24回) 記*事

- 日 時 : 昭和28年6月12日 (金) 午後5時 ~ 8時
会 場 : 日本学術会議会員控室
出席者 : 藤岡、茅、小谷、武藤、朝永、山内、荒木、有山、
伏見、藤原、小野各委員
(事務局 町下、吉田、山越)
議 題 : 1. 委員長報告並びに関連事項の協議
2. 各旅行コースと地方講演について
3. 本会議の物性部会日程の変更
4. 外部との往復通信に関する報告と関連事項の協議
5. 各部会における要門外日本人参加者に対する席の
保留

1. 委員長報告並びに関連事項の協議

(ア) バッチについて

「一応芸大に頼んだが商店にも頼むことにしたい。」(了承)
「このバッチの配布範囲は本会議関係の仕事に預った人々に謝
礼と記念の意味を相当広く渡すようにしたい。そのために数も
相当多くなっても仕事がない。」(了承)

(イ) 京都・大阪との連絡出張報告

「京都と大学の事務当局者と打合せをした事項は大体次の通
り。」

(1) テープレコーダーは京都側で用意する。(但しテープは委
(1))

在京24

- 員会で購入、そのため実行予算には50,000円組入である)
- (2) 会場には幻灯映写に備えて暗幕を設ける。
 - (3) 地下室を改装して事務室、報道陣用控室等に充てる。
 - (4) 国際会議の中央事務室は湯川ホールに置く。
 - (5) 演習林事務室を借用してあるから査定食場等に充てることのできる。
 - (6) 博物館では特別陳列を考える。
 - (7) 素粒子、物性両部門の等者同志の集いは19日(土曜)の夜とする。
 - (8) 非参加者のための半公開講演会は京都側と学術会議との共同主催とし、土曜の午後(京都見物の時間)一回、講演者は Slater, Heisenberg, 湯川, 藤岡を予定。
 - (9) 京都を外人に紹介するための催しは肩の凝らない幻灯会位に止めること。
 - (10) 英語の堪能な人を物色して3カ月の臨時囃託として京都側を雇う。(そのため実行予算に30,000円取つてある。)
 - (11) 外人参加者に配布する案内パンフレット類は京都関係のものも東京で羽田着后すぐ手渡すようにする。

「大阪では伏見委員・仁田教授等と会った。その他宇宙線関係者の集りに顔を出した。

大阪では接待準備について未だ余り積極的でないが、昼食は立食、夜は正式レセプションとすることを決めた。」

以上に関連した協議として、24日の日は大阪側で特に話し合いをした。外人参加者をマークして、その人達は朝京都から案内して、大阪でそれぞれ集りを催し、それ以外は京都に引止められる人達の他は地方旅行に同行する日本側接待係が適当に大阪市内及び関係工場等を案内する。

(2) Ladies programme

(2)

どろせろ係を決めて考えなければならない。

(2) A, Bahr の招請について

往復旅費については6月13日の仁科記念財団関係者の集りでその方からの支出について打診する。(註、その結果仁科記念財団からは支出出来ないことが明らかになった。)

2. 各旅行コースと地方講演について

(2) A コース(中国-九州)

現行案の大阪-福山-(船)-竹原-(汽車)-広島コースは汽車の都合で福山着が昼頃となり全コース終えて広島につくのが夜7時頃となりその夜のレセプションがおくれる恐れもあり、又天候が悪ければ折角の船も楽しめないことになるので、上の案と平行して汽車で竹原に直行する案も考える。これは更に広島側をよく検討して三村委員が上京の折にこれを在京委員会に報告する。(藤原委員)

Aコース参加人員は最大に見積つて外人20名随行員5名とする。外人全部の滞在費を広島側で負担する。

福岡では現行案をスグ止めることになっているが、講演者以外は退屈する恐れがあるので、希望者は唐津へでも24日の日に連れて行くことを考える。

別府の「地獄」は外人に余り良い印象を与えないから、これは別にドライブでもするコースを考えた方がよい。(以上小野委員)

(2) Heisenberg の名古屋講演

名古屋では Heisenberg だけに講演を希望する。(註 同氏には依頼済み)ところが同氏は広島・九州から希望があつて Aコースに参加することになるので、Cコースに参加出来ず、代わりに大阪行の24日に名古屋に趣くことにする。

(3)

従って他のCコース参加者と別になるのは仕方がない。Cコース参加者に対してはレセプションでもなし、名古屋側で希望する外人のためには話し合いの集りを催してその人達の名古屋における宿泊料を負担する。このような人達との連絡は名古屋側でも直接行う。

④) 地方講演謝礼

物理学会支部の主催に係る広島及び福岡における講演については謝礼は一律に $\yen 30,000$ とし、予め現金を組織委員会に寄託して、クーポンを割引する。

⑤) Fleury に化学会九州支部主催で講演を依頼する件に關しその謝礼は前項の額とに独立とする。

3. 本会議の物性部会日程の変更

6月12日の物性専門部会を付録1の通り変更することにした。これによると、21日は夜 Neel の磁気余効に關する話を中心とする専門討議会が新に加わることになる。

4. 外部との往復通信に關する報告と関連事項の協議

外信21について報告。

Ch. 583. Waller から往復旅費について照会して来たことに対しては、字を Fleury に送り、A. Behr (仁科財団から出すことにする。)の代りに Waller を入れることにする。

Ch. 574 Teller から Marshall Rosenbluth を推せんして来たことに対しては旅費が先方で保証されていることであるし、同氏の名は関係部門ではある程度知られているので、特筆なしの招請を出すことに決定。

以上の他 de Bretteville の参加申込 (外信22 Buz) に対しても招請を決定。〔註 以上2件 6.15付会長名で発送。〕

(4)

任家 24

5. 各部会における専門外日本人参加者に対する席の保留

素粒子、物性両部門の仕事をしている等者に対してはそれぞれの専門学者として入場を許すことには問題なく、又組織委員会役員等が取責上入場を必要とするときは補助席を設けて傍聴してもらふこと。その他では専門学者でさえ、相当入場を敬避している関係上、他の部門の学者の入場を許すことに対しては難色があった。

6. 予稿編集方針

物性部門では7月中に予稿を集め終る方針。又この部門では本会議講演総数50~60として100頁位のものとする。

別冊 附録 1

国際理論物理学会議物性部会プログラム。

(5)